

沼津	沼津	下田	吉原
谷村	谷村		
岡部	岡部		
篠山	篠山	柏原	
高梁	高梁	新見	
玉島	玉島	笠岡	
小松	小松	大聖寺	
高岡	高岡	杉木新	
西條	西條	今治	
九龍	九龍	觀音寺	
四日市	四日市	龜山	
上野	上野		
三次	三次	庄原	
岩國	岩國	柳井津	
萩	萩		
小笠原	小笠原		

改正見合

○區裁判所出張所管轄區域二十三年八月二十一日 司法省令第四號
區裁判所出張所管轄區域別冊ノ通改定ス但新置出張所開闢迄其管内登記事務ハ從前ノ管轄廳ニ於テ之ヲ取扱ハシム
(別冊)

唐津	唐津	伊萬里
八代	八代	人吉
延岡	延岡	高千穂
古川	古川	
宮古	宮古	
能代	能代	大館 花輪

○小笠原島裁判事務權限及控訴裁判管轄ヲ定ム

十四年十月七日 布告第五十六號

小笠原島裁判事務當分東京府出張所ニテ治安裁判所即チ逮捕罪ノ權限ヲ以テ裁判セシメ民刑事控訴及重罪裁判ハ東京控訴裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但該島ニ於テ治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

○伊豆七島裁判事務及管轄

十四年十月七日 布告第五十七號

伊豆七島裁判事務當分該島吏へ民事八百圓以下及勸解并ニ刑事ハ違警罪ノ裁判ヲ委任シ
民事百圓以上刑事輕罪以上ハ東京始審裁判所ノ管轄ト相定明治十五年一月一日ヨリ施行
候條此旨布告候事

但該島ニ於テ裁判治罪ノ手續ハ適宜取扱フヘシ

○治安裁判所出張所ヲ置キ登記事務裁判事務ヲ取扱ハシム二十一年九月十五日勅令第六十

四號
朕治安裁判所出張所設置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第六十四號

治安裁判所出張所ヲ置キ登記事務並期日ヲ定メ裁判事務ヲ取扱ハシム其位置及ヒ管轄區域ハ司法大臣之ヲ定ム

○治安裁判所出張所裁判假規程二十二年五月二十日勅令第六十七號

朕治安裁判所出張所裁判假規程ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第六十七號

治安裁判所出張所裁判假規程

第一條 治安裁判所出張所ニ於テ取扱フ民事事件ハ左ノ如シ

- 一 金錢其他換用物若クハ有價證券ノ一定シタル員額又ハ特定ノ物品ニ對スル請求
- 二 建物ノ全部若クハ一部ノ明渡又ハ修繕ノ請求

前二項ノ事件ハ原被告其管轄區域内ニ現在スルカ若クハ原被告共ニ出廷シテ審問裁判ヲ請フトキニ限ル

三 勸解

第二條 前條ニ記載セル事件タリトモ急速ノ取調ヲ要シ出張裁判開始ノ期ヲ待テ難キモノ又ハ第二ノ事件ニシテ契約ニ付キ争アルモノハ從前ノ通り治安裁判所本廳ニ於テ取扱ハシム

第三條 出張裁判ノ管轄區域開廷ノ場所及ヒ期日ハ司法大臣ノ告示ヲ以テ之ヲ定ム

出張スヘキ裁判官ハ毎年若クハ毎期管轄始審裁判所長之ヲ定ム

第四條 出張裁判官ハ繁雜ナリト認ムル事件ヲ治安裁判所本廳ニ移スノ命令ヲ爲スコトヲ得

第五條 出張裁判ヲ開クヘキ場所ニ該ル治安裁判所出張所ハ豫シメ訴狀ノ送達其他期日ニ至リ直チニ審問裁判ヲ爲スニ必要ナル手續ヲ爲スヘシ

書類ハ原告人ヲシテ送達セシム可シ

第六條 裁判及ヒ命令ノ執行ニシテ開期内ニ終結シ難キモノ及ヒ執行ニ關シ出張裁判開

第十七類 第一章 裁判

期後ニ起ル故障ハ治安裁判所本廳ニ於テ取扱ハシム

○出張裁判ノ儀ニ付心得方二十二年六月七日
司法省民事局ヨリ裁判所へ通牒民第一三七一號

前橋始審裁判所ヨリ出張裁判ノ義ニ付申號ノ通旨出シ號ノ通旨令相成候條爲心得此段及通牒候也

別紙

甲號

出張裁判之儀ニ付伺

一出張裁判ハ開始前ニ起訴アリタル件ヲ審理判決シ開期中起訴セシ件ハ後期ニ差回シ可然哉將夕其期ニ於テ審理判決シ得ル限リハ取扱フヘキモノナルヤ(外二項ノ同アリ民事訴訟
法及印紙法ニ依リ消滅ス)

右至急何分ノ指示相成リ度此段相伺候也

明治二十二年五月二十七日
司法大臣伯爵山田顯義殿

乙號

前橋始審裁判所長千谷敏徳

本年五月二十七日庶第二五一號尙出張裁判ノ件ハ左ノ通心得可シ

第一項 開始前ニ起訴シタル件ハ勿論開期中ニ起訴セシ件ト雖モ其期ニ於テ審理判決シ得ルモノハ之ヲ取扱フヘキモノトス(第二項第三項ノ指
令ハ同上ニ付除ク)

廢止遺録

○裁判官檢察官會同巡視規程 二十年一月二十二日
司法省訓令第四號裁判所

裁判官檢察官會同巡視規程左ノ通相定ム

第一章 裁判官及檢察官ノ會同

第一條 各裁判所 大審院檢察院始審ノ長ハ明治二十一年ヲ以テ初トシ爾後三年毎ニ四月一日ヲ期シ司法省ニ會同ス可シ
裁判所ヲ包含ス

第二條 會同裁判官ハ法律規則ノ實際適用上改正増補ヲ要ス可シト認ムルモノ及ヒ第十一條ニ掲ケタル事項ニシテ報告
書ニ盡シ難キモノニ付意見ヲ陳述ス可シ

第三條 司法大臣ハ法律規則草案ノ會議ヲ要ス可シト認ムルモノニ付會同裁判官ノ會議ヲ開カシムルコトアルヘシ

第四條 司法大臣ハ法律規則其他ノ事項ニ付書面若クハ口頭ヲ以テ會同裁判官ニ諮問シ其意見ヲ陳述セシムルコトアルヘシ

第五條 檢察長 大審院檢察及ヒ各始審裁判所上席檢察官ハ明治二十年ヲ以テ初トシ爾後三年毎ニ四月一日ヲ期シ司法省ニ
會同スヘシ

第六條 會同檢察官ハ其主管事務ニ關スル法律規則ノ改正増補ヲ要ス可シト認ムルモノ及ヒ第十五條ニ掲ケタル事項ニ
シテ報告書ニ盡シ難キモノニ付意見ヲ陳述ス可シ

第七條 裁判官會同ニ付キ第三條第四條ニ定メタル規則ハ檢察官會同ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第二章 裁判官及ヒ檢察官ノ巡視

第八條 各控訴院長ハ明治二十二年ヲ以テ初トシ爾後三年毎ニ四月一日各廳ヲ發シ其管内ノ各始審裁判所ヲ巡視スルコ
トヲ得

東京大阪ノ兩控訴院長ハ司法大臣ノ認可ヲ經テ管内ヲ二區ニ分割シ其院ノ評定官一名ヲシテ一區ノ巡視ヲ分擔セシム
ルコトヲ得

第九條 各始審裁判所長ハ明治二十年ヲ以テ初トシ爾後三年毎ニ九月十一日各廳ヲ發シ其管内ノ各支廳治安裁判所ヲ巡
視スルコトヲ得

第十條 (明治廿二年司法省訓令
第四號ヲ以テ削除)

第十一條 (同上)

第十二條 控訴院長始審裁判所長ハ巡視ヲ終リタル後二十日內ニ視察ノ事項ヲ記載シタル報告書ヲ作り直ニ之ヲ司法大

第十七類 第一章 裁判

臣ニ送呈スヘシ

千二十

第十三條 各控訴院檢察事長ハ明治二十一年ヲ以テ初トシ爾後三年毎ニ九月十一日各廳ヲ發シ其管内ノ各始審裁判所ヲ巡視スルコトヲ得

第八條第二項ハ東京大坂兩控訴院檢察事長ニモ亦之ヲ適用ス

第十四條 各始審裁判所上席檢事ハ明治二十二年ヲ以テ初トシ爾後三年毎ニ九月十一日各廳ヲ發シ其管内ノ各支廳治安裁判所ヲ巡視スルコトヲ得

第十五條 檢察官巡視ニ付テハ左ノ條件ヲ視察スルヲ以テ緊要トス

一 檢察事務

二 未決囚監獄ノ狀況

三 司法警察事務

四 法律命令執行ノ利弊

五代官人ニ關スル事務

六 司法大臣ヨリ特ニ命セラレタル事項

第十六條 裁判官巡視ニ付第十二條ニ定メタル規則ハ檢察官巡視ニ付テモ亦之ヲ適用ス

第十七條 第八條第九條第十三條及第十四條ニ記載シタル各官ハ司法大臣ノ認可ヲ經テ發願ノ定日ヲ變更スルコトヲ得

○各始審裁判所支廳上席判事檢察事管内治安裁判所巡視及其報告書差出方 二十年三月五日 司法省訓令第十一

號控訴院始審裁判所同

支廳上席判事上席檢事 各始審裁判所支廳上席判事ハ本廳長ノ代理ヲ爲シ上席檢事ハ本廳上席檢事ノ職務ヲ行フヲ以テ爾後上席判事ハ本廳長上席檢事ハ本廳上席檢事管内巡視ノ毎翌年四月一日其廳ヲ發シ各支廳管内治安裁判所ヲ巡視スルコトヲ得但し其規程ハ裁判官

檢察官會同巡視規程第二章始審裁判所長及上席檢事ニ付定メタル條則ニ準シ報告書ハ本廳ヲ經由シテ司法大臣ニ送呈スル儀ト心得可シ

○沖繩縣及小笠原島裁判官檢察官ノ職務 二十一年五月十四日 勅令第三十五號

朕沖繩縣及小笠原島ニ於ケル裁判官檢察官職務ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第三十五號

沖繩縣及小笠原島ニ於テハ當分ノ内同廳官吏ヲシテ裁判官檢察官ノ職務ヲ行ハシム

○清國並朝鮮國駐在領事裁判規則 廿一年十月廿三日 勅令第七十一號

朕清國並朝鮮國駐在領事裁判規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第七十一號

清國並朝鮮國駐在領事裁判規則

第一條 清國并朝鮮國駐在ノ日本帝國領事ハ其管轄内ニ在ル日本人民ニ對スル民事訴訟及ヒ公訴私訴ニシテ治安裁判所違警罪裁判所始審裁判所輕罪裁判所ノ權限ニ屬スルモノヲ審判スルノ權ヲ有ス但治安裁判所違警罪裁判所ノ權限ニ屬スル訴件ニ付領事ノ爲シタル裁判ハ終審ノ裁判ナリトス

第二條 豫審判事ノ職務ハ領事之ヲ行ヒ檢察官ノ職務ハ副領事警察官若クハ領事館書記

第十七類 第一章 裁判

千二十一

生之ヲ行フ

- 第三條 裁判所書記ノ職務ハ領事館書記生若クハ其他ノ館員之ヲ行フ
- 第四條 輕罪ニ付テハ豫審ヲ爲サ、ルモノトス
- 第五條 重罪ニ關スル豫審ノ手續及ヒ豫審終結ノ言渡ニ付故障ヲ爲スコトヲ許サス但豫審終結ノ言渡ニ對シテハ直ニ上告ヲ爲スコトヲ得
- 第六條 治罪法ニ定ムル忌避回避ノ規則ハ之ヲ適用セス
- 第七條 民事訴訟及ヒ公訴私訴ノ裁判ニ對スル控訴ハ長崎控訴院重罪ニ係ル公判ハ長崎重罪裁判所ノ管轄トス
- 第八條 民事訴訟及ヒ私訴ノ裁判ニ對スル控訴上告ハ本人若クハ代言人ノ出廷ヲ要セス書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得禁錮ノ言渡ヲ除クノ外公訴ノ裁判ニ對スル控訴モ亦同シ
- 第九條 此規則ニ於テ領事ト稱スルハ總領事領事又ハ其代理及ヒ委任狀ヲ有シタル副領事又ハ其代理ヲ云フ

○裁判事務心得 八年六月八日 布告第三百三號

今般裁判事務心得左之通相定候條此旨布告候事

- 第一條 各裁判所ハ民事刑事共法律ニ從ヒ遲滯ナク裁判スヘシ疑難アルヲ以テ裁判ヲ中止シテ上等ナル裁判所ニ伺出ルヲ得ス但シ刑事死罪終身懲役ハ此例ニ非ス
- 第二條 凡ソ裁判ニ服セサル旨申立ル者アル時ハ其裁判所ニテ辦解ヲ爲ズヘカラス定期

ニ依リ期限内ニ控訴若クハ上告スヘキ事ヲ言渡スヘシ

- 第三條 民事ノ裁判ニ成文ノ法律ナキモノハ習慣ニ依リ習慣ナキモノハ條理ヲ推考シテ裁判スヘシ
- 第四條 裁判官ノ裁判シタル言渡ヲ以テ將來ニ例行スル一般ノ定規トスルヲ得ス
- 第五條 頒布セル布告布達ヲ除クノ外諸官省隨時事ニ就テノ指令ハ將來裁判所ノ準據スヘキ一般ノ定規トスルヲ得ス

○裁判事務心得中慣習ノ儀ニ付指令ノ旨ヲ達ス

十二年二月二十五日 司法省達丁第九號大審院諸裁判所

本年丁第壹號通稱國裁判所エ指令ノ義別紙ノ通改選候條此旨可心得事

(別紙)

詳國裁判所エ指令 明治十二年 二月廿五日

本年一月十五日付指令左ノ通可心得事

伺之趣慣習トハ民法上人民ノ慣行認許スル者及ヒ從來官民ノ間ニ慣行スル例ニシテ條理ニ背戾セサル者ヲ謂フ義ト心得

○民事訴訟人民一般傍聽ヲ許ス 八年二月二十二日 布告第三拾號

民事訴訟審判ノ儀人民一般傍聽差許候條此旨布告候事

但男女ノ間ニ起リシ風儀ニ關スル訴訟ハ此限ニアラス

○裁判官訟庭上吸煙ヲ禁ス 八年八月十四日 司法省達第貳拾號

各裁判所裁判所無之各職 裁判官ノ訟庭上取調之節煙草ヲ用ヒ候儀不相成候條此旨相達候事

第十七類 第一章 裁判

○白洲上尊卑ノ分界ヲ廢ス 五年十月十日

白洲上取扱振ニ於テ尊卑ノ分界相立來候處自今人民一般ノ公儀ニ基キ從前ノ分界ヲ廢シ官員華士族平民ニ至ルマテ同様タルヘキ事

○各裁判所傍聽規則ヲ定ム 八年四月四日

本年第三拾號御布告ニ付テハ左ノ通各裁判所傍聽規則相定候條此旨布達候事

一傍聽センコトヲ願フモノハ裁判所庶務課へ名刺（住所）ヲ出シ其許可ヲ得テ後認庭ニ出ツヘキ事
但當日認庭ノ都合ニヨリ其數ヲ減省シ又ハ一同差許サハルモ之レアルヘシ

○裁判傍聽席 十五年三月二十九日

裁判傍聽ノ儀ハ官民ヲ擇ハス渾テ傍聽席へ相廻シ可申此旨相達候事

但シ外國人ニシテ公然ノ照會ヲ經タル者ハ此限ニ在ラス

○判事、檢事、裁判所書記及執達吏制服 二十三年十月二十二日

朕判事、檢事、裁判所書記及執達吏制服ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二百六十號

判事、檢事、裁判所書記及執達吏制服左ノ圖表ノ通定ム

但明治二十三年十二月三十一日迄ハ「フロックコート」又ハ羽織袴ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

判事制服表 (圖ス)

種目	裁判所別			種目	裁判所別			
	地	飾	質		地	飾	質	
帽	製	式	黒	製	式	黒	大審院判事	
			雲			同	控訴院判事	
			紋			同	地方裁判所判事	
	飾	第一圖	及桐花七箇深紫	及桐花五箇深紫	及桐花三箇深紫	第一圖	及桐花七箇深紫	大審院判事
			及桐花五箇深紫				及桐花三箇深紫	控訴院判事
			及桐花三箇深紫				及桐花三箇深紫	地方裁判所判事
地	第一圖	同	同	同	同	同	大審院判事	
		同				同	控訴院判事	
		同				同	地方裁判所判事	

檢事制服表 (上同)

種目	裁判所別			種目	裁判所別			
	地	飾	質		地	飾	質	
上	製	式	黒	製	式	黒	大審院檢事	
			及桐花七箇深紫			及桐花五箇深紫	控訴院檢事	
			及桐花三箇深紫			及桐花三箇深紫	地方裁判所檢事	
	飾	第一圖	及桐花七箇深紫	及桐花五箇深紫	及桐花三箇深紫	第一圖	及桐花七箇深紫	大審院檢事
			及桐花五箇深紫				及桐花三箇深紫	控訴院檢事
			及桐花三箇深紫				及桐花三箇深紫	地方裁判所檢事
地	第一圖	同	同	同	同	同	大審院檢事	
		同				同	控訴院檢事	
		同				同	地方裁判所檢事	

帽	製	飾	雲	紋同	上	上
	式	雜形第二圖	雜形第四圖	雜形第六圖		

裁判所書記制服表(上同)

帽	製	地	質	黑	地
	式	雜形第七圖			
上	衣	襟	飾	唐草	深綠
	製	地	質	黑	地
	式	雜形第八圖			

執達吏制服表(上同)

帽	製	地	質	黑	又	八毛	織
	式	雜形第九圖					
上	衣	襟	飾	唐草	深綠		
	製	地	質	黑	又	八毛	織
	式	雜形第十圖					
袴	製	地	質	黑	又	八毛	織
	式	雜形第十一圖					
帽	製	地	質	黑	又	八毛	織
	式	雜形第十二圖					

卸	線	銀	子	持	線
		黑	包	卸	

○判事懲戒法 二十三年八月二十日 (日本六法全書憲法附錄三載ス)

○判事檢察官等俸給令 二十三年八月二十八日 (勅令第五百五十八號)

○裁判所書記長書記ノ官等俸給 二十三年八月二十九日 (勅令第五百五十九號)

○裁判官檢察官裁判所書記ノ官名及裁判官休職ニ係ル件 二十三年十月二十五日 (勅令第五百四十四號)

四十五號(上同)

○判事試補ニ書記事務ヲ取扱シムル件 二十二年三月十五日 司法省訓令文第一五八號 始審裁判所長治安裁判所上

席判

始審裁判所長又ハ治安裁判所上席判事ハ其國語判事試補ニ書記事務ヲ取扱ハシムルコト事務練習上必要ナリト認ムルハ之ヲシテ一時書記事務ヲ取扱ハシムルコトヲ得 右訓令ス

沿革要領

明治四年十二月廿六日布告ヲ以テ司法省中ニ東京裁判所ヲ置キ東京府下聽訟斷獄ノ事務ヲ扱フ○五年二月第三十三號布告ヲ以テ築地運上所ヲ東京府市裁判所ト改稱シ自今司法省官員出張事務ヲ扱ハシム○同年八月五日神奈川埼玉入間三縣へ裁判所ヲ置ク○同年十月十二日足柄木更津新治樺木茨城印旛群馬宇都宮八縣ニ裁判所ヲ置ク○同年九月十三日兵頭縣へ裁判所ヲ置ク○同年十月七日京都府へ裁判所ヲ置ク○同年十月廿日大坂府へ裁判所ヲ置ク○同年十月廿七日靜岡濱松額田滋賀三重愛知六縣へ裁判所ヲ置ク○六年六月司法省第九十八號達ヲ以テ宇都宮裁判所ヲ樺木裁判所ニ合併シ印旛木更津兩裁判所ヲ合シテ千葉縣ニ移シ入間群馬兩裁判所ヲ合シテ熊谷縣ニ移ス○同年九月司法省第四百四十四號第十七類 第一章 裁判

號布達ヲ以テ入間郡馬兩裁判所ハ熊谷裁判所管内區裁判所ト改稱ス○七年一月八日開拓使管下渡島國函館へ裁判所ヲ置ク○同月長崎縣へ裁判所ヲ置ク○同年四月五日佐賀縣へ裁判所ヲ置ク○同年六月司法省第十一號達ヲ以テ入間裁判所ヲ川越區裁判所ト改稱ス○同年十二月廿七日新潟縣兩縣へ裁判所ヲ置ク○八年四月第五十九號布告ヲ以テ大審院ヲ置ク○同年五月廿三日新治裁判所ヲ廢ス○同月第九十二號布告ヲ以テ上等裁判所ヲ東京大坂福岡長崎へ置キ其分轄ヲ定ム○同年八月第百廿七號布告ヲ以テ福島上等裁判所ヲ宮城ニ移ス○同年十二月第百九十三號布告ヲ以テ鹿兒島山口高知三縣へ裁判所ヲ置ク○九年三月第廿六號布告ヲ以テ宮城縣へ裁判所ヲ置ク○同月第廿八號布告ヲ以テ鶴ヶ岡縣へ裁判所ヲ置ク○同年五月第六十二號布告ヲ以テ足柄佐賀ノ兩裁判所ヲ廢シ愛知三藩兩裁判所ヲ置ク○九年九月第百十四號布告ヲ以テ府縣裁判所ヲ廢シ地方裁判所ヲ置キ分轄ヲ定ム○同月第百十五號布告ヲ以テ各上等裁判所ノ分轄ヲ定ム○同月司法省第六十六號達ヲ以テ地方裁判所設置ニ付各管下ニ支廳及區裁判所ヲ置キ當分府縣裁判所章程及區裁判所假規則ニ照シ事務取扱ハシム○同年十月第百三十一號布告ヲ以テ樺木裁判所ヲ茨城ニ移シ水戸裁判所ト稱ス○同年十一月第百三十八號布告ヲ以テ岩國裁判所ヲ廣島ニ移シ廣島裁判所ト稱シ浦和裁判所ヲ熊谷ニ移シ熊谷裁判所ト稱ス○同月第百四十五號布告ヲ以テ一ノ關裁判所ヲ仙臺ニ移シ仙臺裁判所ト稱ス○同年十二月第百五十號布告ヲ以テ米澤裁判所ヲ福島ニ移シ福島裁判所ト稱ス○十年三月第三十三號布告ヲ以テ伊豆七島裁判事務ヲ東京裁判所ニ屬ス○同月第卅五號布告ヲ以テ青森裁判所ヲ弘前ニ移シ弘前裁判所ト稱ス○同年八月第六十一號布告ヲ以テ岐阜縣管下美濃飛騨兩國裁判事務ヲ名古屋裁判所ニ屬ス○同年十月第七十三號布告ヲ以テ自今大坂上等裁判所分轄内へ琉球藩ヲ加フ○十一年九月第廿三號布告ヲ以テ開拓使管下札幌裁判所ヲ置キ宮城上等裁判所ノ轄トス○十四年十月第五十三號布告ヲ以テ裁判所位置及管轄區畫ヲ改正ス○十六年第二號布告ヲ以テ前表ヲ改正ス○二十三年二月法律第六號ヲ以テ裁判所構成法ヲ制定ス

○執達吏規則 (日本六法全書憲法附屬裁
判所構成法ノ部ニ載ス)

○執達吏手數料規則 二十三年七月二十四日 (上同)

○執達吏登用規則 二十三年八月一日 (上同)

○執達吏ニ交付ノ鑑札 二十三年九月十八日 (上同)

○行政裁判法 二十三年六月二十八日 (日本六法全書憲
法附錄ニ載ス)

○行政裁判所評定官ノ員數並書記ノ員數及職務ノ件 二十三年六月二十八日 (上同)

○行政裁判所處務規程 二十三年八月二十九日 (上同)

○行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件 二十三年十月九日 (上同)

○行政訴訟豫納金手續 二十三年十一月十九日 (上同)

○民事訴訟法 二十三年三月二十七日 (日本六法全
書ニ載ス)

○民事訴訟法施行條例 二十三年七月十六日 (上同)

○非訟事件手續法 二十三年十月三日 (上同)

○控訴上告手續 十年二月十九日

明治八年五月第九拾壹號布告大審院諸裁判所職制章程同年同第九拾三號布告控訴上告手續別冊ノ通り改正候條此旨布告候事 (大審院諸裁判所職制章程ハ略之)

(但巡回裁判規則判事職制通則ハ刪除候事)

控訴上告手續 (二十三年七月十六日法律第五十號民事訴訟法施行條例ヲ以テ本條中大審院ヲ上告裁判所ト改メ該條ハ當分ノ内其効力ヲ有スル旨ヲ公布セリ)

第十六條 上告者ハ其上告狀ニ添テ金拾圓ヲ上告裁判所ニ預クヘシ若シ其金高ヲ預ケサルハ上告ヲ爲スコトヲ得ス

第一 若シ上告ヲ取上ケサルハ其預リ金ヲ没入ス
 第二 若シ上告ヲ取上ケ原裁判ヲ破毀シタル時ハ預リ金ヲ還付ス
 第三 若シ上告ヲ取上ケ被告人ト對審シタルノ後之ヲ斥ケテ原裁判ヲ破毀セサル時
 ハ預リ金ヲ没入シ又訴訟入費規則ニ照シテ被告人ノ費用ヲ償ハシム被告人トハ上告者ノ相手方ヲ云
 ○民事訴訟法第十四條ニ依リ國ヲ代表スルニ付規定ノ件二十四年一月六日勅令第三號
 朕民事訴訟法第十四條ニ依リ國ヲ代表スルニ付テノ規定ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第三號

改正追録
見合

第一條 各省大臣ハ其所管事務ニ係ル民事訴訟ニ付國ヲ代表ス

第二條 北海道廳長官及府縣知事ハ其司掌又ハ監督スル國ノ事務ニ係ル民事訴訟ニ付國

ヲ代表ス

改正追録
見合

第三條 特別ニ地方機關ヲ有スル各省大臣ハ省令ヲ以テ民事訴訟ニ付國ヲ代表スルノ權
 利ヲ之ニ委任スルコトヲ得

第四條 官制其他特別ノ勅令ヲ以テ民事訴訟ニ付國ヲ代表スル者ヲ定メタルトキハ本令
 ニ依ルノ限ニ在ラス

○民事訴訟費用法

二十三年八月十五日
法律第六十四號

朕民事訴訟費用法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治廿四年一月一日ヨリ施行スヘ
 キコトヲ命ス

御名 御璽

法律第六十四號

民事訴訟費用法

第一條 民事訴訟法ノ規定ニ於ケル訴訟費用ハ以下數條ノ規定ニ從ヒ之ヲ算定ス

第二條 訴狀其他總テ書類ノ書記料ハ半枚十二行二十字詰ニ付キ金二錢五厘トス但半枚ニ

滿タサルモノモ亦同シ

圖面ハ一葉ニ付金十錢トス但別ニ測量ヲ要シタルトキハ其測量費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ
 定ムル所ニ依ル

第三條 翻譯料ハ半枚十二行二十字詰ニ付キ金五十錢トス但半枚ニ滿タサルモノモ亦同

シ

第四條 民事訴訟用印紙法ニ從ヒ貼用シタル印紙ノ費額ハ其代價ニ依ル

第五條 執達吏ノ手数料及ヒ立替金ハ執達吏手数料規則ノ規定ニ從フ

第六條 郵便料、電信料及ヒ運送料ハ其實費ニ依ル

第七條 官報、公報及ヒ新聞紙ヲ以テ公告シタル公告料ハ各其定價ニ依ル

第八條 民事訴訟法第二百二十七條ノ規定ニ從ヒ辯護士ノ附添ヲ命シタルトキハ其報酬ハ裁

第十七類 第一章 訴訟費用

判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第九條 當事者ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢トス但滞在費ヲ給スル場合ニ於テハ此日當ヲ二十五錢トス

第十條 證人ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢トス但滞在費ヲ給スル場合ニ於テハ此日當ヲ給セス

第十一條 鑑定人及ヒ通事ノ日當ハ出頭一度ニ付キ金五十錢乃至五圓ノ範圍内ニ於テ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

鑑定ヲ爲スニ付キ別ニ支出シタル費用ハ其實費ニ依ル

第十二條 當事者ノ滞在費ハ滿八里以外ノ地ヨリ來リ滞在スルトキハ一日金二十五錢トシ證人、鑑定人及ヒ通事ノ滞在費ハ一日金五十錢トス

第十三條 當事者、證人、鑑定人及通事ノ旅費ハ海陸滿一里毎ニ付キ金十錢トス通路兩線以上アルトキハ最近ノ通路ヲ以テ旅費ヲ算定ス

外國ニ在ル當事者ノ旅費ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

第十四條 判事及ヒ裁判所書記檢證ノ爲メ實地臨檢ヲ爲スニ付テハ旅費及ヒ滞在費ハ證人ニ準ス

第十五條 本法ニ定メサル必要ノ費用ハ其實費ニ依ル

第十六條 強制執行及ヒ非訟事件ニ關ル費用ハ執達吏手数料規則ニ定メタルモノヲ除ク外

前數條ノ規定ヲ準用シテ之ヲ算定ス

強制執行又ハ非訟事件ニ關シテ保管人若クハ管理人ヲ任命シタルトキハ其費用ハ裁判所ノ意見ヲ以テ定ムル所ニ依ル

○民事訴訟用印紙法

二十三年八月十五日
法律第六十五號

朕民事訴訟用印紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

法律第六十五號

民事訴訟用印紙法

第一條 民事訴訟ノ書類ニハ以下數條ノ規定ニ從ヒ其正本ニ印紙ヲ貼用ス可シ但裁判所書記ニ口述シテ調書ヲ作ラシメタルトキハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條 財産權上ノ請求ニ係ル第一審ノ訴狀ニハ訴訟物ノ價額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

- 訴訟物ノ價額金五圓マテ 二十錢
- 同 十圓マテ 三十錢
- 同 二十圓マテ 六十錢
- 同 五十圓マテ 一圓五十錢
- 第十七條 第一章 訴訟費用 千三十三

同	七十五圓マテ	二圓二十錢
同	百圓マテ	三圓
同	二百五十圓マテ	六圓五十錢
同	五百圓マテ	十圓
同	七百五十圓マテ	十三圓
同	千圓マテ	十五圓
同	二千五百圓マテ	二十圓
同	五千圓マテ	二十五圓
同	五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ二圓ヲ加フ	

訴訟物ノ價額ヲ算定スルニハ民事訴訟法第三條乃至第六條ノ規定ニ從フ

第三條 財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ其訴訟物ノ價額百圓ト看做シ印紙ヲ貼用ス可シ

財産權上ノ請求ニ非サル訴訟ト其訴訟ニ由テ生スル財産權上ノ訴訟ト併合スルトキハ其多額ナル一方ノ訴訟物ノ價額ニ依リ印紙ヲ貼用ス可シ

第四條 本訴ト反訴ト其目的カ同一ノ訴訟物ナルトキハ反訴ノ訴狀ニ印紙ヲ貼用スルヲ要セス

第五條 控訴狀ニハ第二條ノ規定ニ從ヒ其半額上告狀ニハ其全額ノ印紙ヲ加貼ス可シ

第六條 左ニ掲クル書類ニハ五十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第一 抗告

第二 故障

第三 證據調ノ申立

第四 假差押及ヒ假處分ノ申請

第五 判決ノ送達アランコトヲ求ムル申立

第六 執行力アル正本ヲ求ムル申立但此正本ノ數通ヲ求ムルトキハ其一通毎ニ五十錢ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用ス可シ

第七條 和解及ヒ督促手續ニ付キ民事訴訟法第三百八十一條第三項及ヒ第三百九十條ノ規定ニ依リ訴カ區裁判所ニ繫屬スルトキハ第二條第三條ノ規定ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ

第八條 再審ヲ求ムルノ訴狀ニハ其訴ヲ爲ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第九條 原狀回復ノ申立ニハ其書面ヲ差出ス可キ裁判所ノ審級ニ依リ相當ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十條 答辯書其他前數條ニ掲ケサル申立及ヒ申請ニハ二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

第十一條 民事訴訟法第九十七條第一號ノ場合ノ外此法律ニ從ヒ印紙ヲ貼用セサル民事訴訟ノ書類ハ其效ナキモノトス但印紙ヲ貼用セス又ハ貼用スルモ不足アルトキハ裁判

所ハ相當印紙ヲ貼用セシメ之ヲ有効ナラシムルヲ得

第十二條 印紙ノ種類及ヒ貼用方ハ明治十七年第四號布達ニ依ル

第十三條 印紙ハ管轄廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ於テ發賣セシム其他ニ於テ發賣スルコトヲ許サス

第十四條 官許賣捌所外ニ於テ印紙ヲ販賣シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス其情ヲ知テ之ヲ買取シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ印紙ヲ沒收ス

第十五條 前條ノ規定ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用井ス

第十六條 第六條第十條乃至第十二條ノ規定ハ非訟事件ニ之ヲ準用ス

○商事非訟事件印紙法 二十三年八月十五日 (日本六法全) 法律第六十六號 (審二職ス)

○刑事訴訟法 二十三年十月六日 (日本六法全) 法律第九十六號 (審二職ス)

○重罪控訴豫納金規則 二十三年二月八日 法律第七號

朕重罪控訴豫納金規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名、御璽

法律第七號 重罪控訴豫納金規則

第一條 重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者控訴ヲ爲サントスルトキハ裁判費用ノ保證トシテ金貳拾圓ヲ豫納スヘシ

第二條 重罪ノ刑ノ言渡ヲ受ケタル者貧困ニシテ保證金ヲ豫納スル能ハサルトキハ控訴ノ申立ト同時ニ保證金ノ免除ヲ請求スルコトヲ得

第三條 保證金ノ免除ヲ請求シタル者ハ其請求ヲ爲シタル日ヨリ十四日內ニ控訴ノ趣意書ト共ニ裁判費用支辨ノ資力ナキコトヲ證スヘキ住居地市町村長ノ證明書ヲ差出スヘシ但其市町村役場三里以外ニ在ルトキハ治罪法第十九條ニ規定シタル猶豫ヲ與フ

第四條 前二條ニ記載シタル書類ハ訴訟ニ關スル一切ノ書類ト共ニ第一審裁判所ノ檢事ヨリ控訴院ノ書記課ニ之ヲ送致スヘシ

第五條 控訴院ハ檢事ノ意見ヲ聽キ保證金免除請求ノ當否ヲ決定スヘシ但控訴ノ事由ナシト認ムルカ又ハ事由アルモ實益ナシト認ムルトキハ免除ヲ與ヘサルモノトス

第六條 保證金ノ免除ナキトキハ控訴ノ申立ハ其効ナキモノトス

第七條 被告人ニ於テ證人鑑定人ノ呼出ヲ請求スルトキ第一條ノ保證金ニテ不足ト認ムル場合ニ於テハ別段其費用ヲ豫納セシムヘシ

○輕罪ニ係ル控訴豫納金規則 十八年一月六日 布告第二號

明治十四年十二月第七拾四號布告ヲ廢シ自今輕罪ニ係ル控訴ハ左ノ規則ニ從ヒ之ヲ爲スニトヲ得但治罪法中此規則ニ抵觸スル條件ハ當分ノ內施行セス

第十七類 第一章 訴訟費用

第一條 (二十三年六月二十八日法律
第四十七號ヲ以テ削除)

第二條 (上同)

第三條 被告人公訴ニ關シ控訴ヲ爲サントスルトキハ裁判費用ノ保證トシテ金拾圓ヲ豫

納スヘシ(二十三年六月二十八日法律第四十七號ヲ以テ(公訴
ノ裁判官渡ニ對シトアルヲ(公訴ニ關シト改ム)

第四條 被告人ニ於テ證人鑑定人ノ呼出ヲ請求スルトキ前條保證金ニテ不足ト認ムル場

合ニ於テハ別段其費用ヲ豫納セシムヘシ

第五條 (二十三年六月二十八日法律
第四十七號ヲ以テ削除)

右奉 勅旨布告候事

○重罪輕罪ノ公訴ノ判決ニ對シ控訴又ハ上告ノ場合ニ於テ被告人及囚人ニ係ル費用ノ件

二十三年十月三十一日
內務省令第五號

重罪輕罪ノ公訴ノ判決ニ對シ控訴アリタル場合又ハ上告ニ由リ他ノ裁判所ニ移スノ言渡アリタル場合ニ於テ被告人拘禁
中ノ費用並ニ裁判確定ノ後囚人ニ係ル費用ハ總テ最前裁判官渡アリタル地方ノ監獄費ヲ以テ支辨シ其費額ハ一人一日金
二十錢トス

但裁判確定後ノ囚人ハ海軍又ハ海船ニ依リ最モ押送ニ便ナル地方ニ在テハ原地方廳ノ請求ニ依リ送還スルコトヲ得此
場合ニ於テハ護送官吏ノ旅費及囚人ニ屬スル費用ハ請求地方ノ負擔トス

○訴訟法中辯護士事務ノ件 二十三年十月十八日
司法省訓令第四號

訴訟法中辯護士ノ執ル可キ事務ハ追テ辯護士ヲ置カルヘキニ付當分ノ内代官人之ヲ取扱フ儀ト心得ヘシ但上席檢事ハ此
旨管内代官人へ通達スヘシ

第二章 家資分散、身代限

○家資分散法 二十三年八月二十日
法律第六十九號

朕家資分散法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキ
コトヲ命ス

御名 御璽

法律第六十九號

家資分散法

第一條 民事訴訟法ノ強制執行處分ニ因リ義務ヲ辨濟スル資力ナキ債務者ニ對シテハ管轄
裁判所ハ職權ニ因リ又ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ家資分散者タルノ宣告ヲ爲ス可シ

右ノ決定ハ口頭辯論ヲ要セスシテ之ヲ爲スコトヲ得

此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二條 前條ノ申立ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三條 第一條ノ宣告ハ裁判所及市町村ノ揭示場ニ揭示シテ之ヲ公告ス可シ

第四條 家資分散者ハ其宣告ヲ受ケタル日ヨリ選舉權及被選舉權ヲ失フ

家資分散者ノ復權ニ付テハ商法第五十五條以下ヲ準用ス

第五條 商法及本法施行以後ニ於テ從前ノ法律中身代限處分ヲ受ケタル者ニ對シ公權ノ喪

失ヲ定メタル條項ハ破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ニ對シ効力ヲ有ス

第十七條 第二章 家資分散、身代限

○商法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ受ケタル者ニ關スル件(日本六法全書商法ノ部ニ載ス)

千四十

○華士族平民身代限規則(五年六月二十三日布告第百八拾七號)

今般華士族平民共身代限規則被相定候條左之通相違候事

但當壬申八月朔日ヨリ施行可致事

華士族平民身代限規則

平民身代限抵償トシテ差押ヲ可ラサル品類

一時服著替共男女一通宛

一夜具男女一通宛

一本ノ職業ヲ爲スニ必要ナル諸物品但學藝ヲ人ニ教ヘ又ハ農工商等職業ニ必要ナル書類器械品物等其金額五十兩ニ至ル迄最モ本人ノ擇ム所ニ任ス可シ其直段ハ貸主借主ヨリ鑒定ノ者道具屋一人宛差出シ外入札人ト共ニ入札致サセ町役人ニ於テ總入札ヲ比較シ高札ヲ以テ其價ヲ定ムヘキ事

一食料

家族ノ人口ヲ量リ一ケ月間用井ル飯米ヲ殘シ置クヘキ事

但男丁ハ一日ニ付五合麥ハ一升雜穀ハ一升五合婦女幼少ハ四合麥ハ八合雜穀ハ一升二合宛ノ事

一鍋釜及炊具各一通

華士族身代限抵償トシテ差押フヘカラサル品類(五年第三百廿七號布告ヲ以テ次項ヲ取消ス)

一大小類 男子一人ニ付各一腰宛

一冠服 男子一人ニ付各一通宛

一時服着替共 男女共各 二通宛

一夜具 男女共各 一通宛

一本ノ職業ヲ爲スニ必要ナル諸物品

但學藝ヲ人ニ教ヘ又ハ農工商等ノ職業ニ必要ナル書類及諸器械品物等其金額五十兩ニ至ル迄最モ本人ノ擇ム所ニ任スヘシ其直段ハ貸主借主ヨリ鑒定ノ者道具屋一人宛差出シ外入札人ト共ニ入札致サセ町役人ニ於テ總入札ヲ比較シ高札ヲ以テ其價ヲ定ム可キ事

一鍋釜及炊具類 各一通

右身代限リノ節ハ六十日間裁判所門前高札場並ニ本人家宅ヘ揭示ヲ出シ其次第傳承日限中追願ノ者ハ取札ノ上可處置事(六年第七十號布告ヲ以テ揭示日數三十日トアルヲ六十日トナル)

但新聞紙ヲ刊行スル地ニ於テハ亦之ニ記載セシムヘシ

一前條ニ記スル所ノ引殘スヘキ必要物件ノ内未タ代價ヲ拂ハサル分ハ賣主ヨリ日限内訴出レハ現品ヲ取戻スヲ得ヘシ

但現在着用ノ衣服夜具ハ此限ニアラス

第十七類 第二章 家資分散身代限

千四十一

一身代限ノ物件ハ入札拂ニ出ス可シ尤金銀器等ノ定價判然タル物品ハ眞價ヨリ低ク賣拂フヘカラス且ツ賣拂金ノ總額ハ其者ノ負債及ヒ右一件ノ諸費用ヲ償フニ過クヘカラス但入札拂ノ日ヨリ三日前ニ其品物及ヒ場所時刻ヲ裁判所門前並ニ其者ノ居室及ヒ各地士民群集ノ所ヘ揭示シ及ヒ新聞紙ヲ刊行スル地ニ於テハ亦之ニ記載セシムヘシ且ツ貸主借主ヨリ差出セシ鑒定ノ者モ他人ト共ニ入札致サセ村役人ニ於テ總入札ヲ比較シ高札ヲ以テ其價ヲ定メ之ヲ現金ニテ取立裁判所ヘ差出スヘシ

○身代限揭示案更正 七年七月三日 布告第七拾壹號

明治六年五月第百八拾壹號布告身代限揭示案左之通改正候條此旨布告候事

何村

何之誰

右之者儀何何ノ誰ヨリ何々其申目出訴ニ及ヒ吟味ノ上身代限申付ルニ付若シ何ノ誰ヘ保リ金穀其他諸取引ノ訴有之者ハ當何日ヨリ來ル何月何日迄日數六十日內ニ當裁判所ヘ訴出ツヘシ右日限過去訴出ルニ於テハ此度身代分散金ノ分配ニハ不差加者也

○父兄ト同居ノ子弟或ハ別居シテ財產ヲ異ニスル者身代限處分方 五年九月十八日布告第 貳百七拾五號

父兄ト同居ノ子弟或ハ別居シテ財產ヲ異ニスルモノ又ハ父既ニ家督ヲ其子ニ讓リ隱居別宅シテ財產ヲ異ニスル者自今一己ニ金銀借受候分其證券中本家ノ戶主保證ノ調印無之上

ハ貸主ニ於テ本家ノ財產ヲ目的トシ貸シ與フル筋無之候ニ付若シ右等ノ者共返金相滞訴訟ニ及ヒ候節同居ノ者ハ其身所持ノ品物ノミ分産異居ノ者ハ其財產ノミヲ以テ之ニ當テ身代限リニ裁判申渡候條爲心得此段相違候事

○身代限ノ處分ヲ受ケタル負債主ニ對スル定約期限未滿ノ貸金穀等處

分方ヲ定ム 六年七月十七日 布告第貳百五拾貳號

負債者身代限ニ遇フ節其者ヘ對シ貸金穀其他義務ヲ得可キ者定約期限未滿內ノ分處置振左ノ通被定候條此旨相違候事

第一條 貸金穀又ハ義務ヲ得可キ者定約期限未滿內ニハ訴出ルコトヲ許サハル規則ナレモ其負債者又ハ義務ヲ行フヘキ者右期限未滿ニ身代限ニ遇フ時ハ訴出ルコトヲ得ヘシ

第二條 定約期限未滿內ニ訴出ル者ハ滿期後訴出ル者ト同一ノ權利ヲ有シ身代限財產糶賣金ノ分配ヲ受ルコトヲ得ヘシ

第三條 請人證人等連印ニテ本人返濟相滞ルニ於テハ引受返濟可致ノ明文之レアル證書ヲ取置タル者ハ本人身代限財產糶賣金ノ分配ヲ受ケ尙ホ不足アラハ滿期ノ時ニ至リ請人證人ニ掛リ之ヲ訴ルコトヲ得ヘシ

第四條 身代限ニ遇フ者期限未滿內ノ者ニハ滿期ノ時ニ至リ返濟セント欲スルトキハ別段請人ヲ立請人ヨリ動不動產ヲ引當又ハ質物ト爲シ違變ナキヲ證明シテ原告人ノ承諾ヲ求ルヲ必要トス

第五條 負債者満期ヲ保スル爲メ改メテ請人ヲ立請人ヨリ動不動産ヲ引當又ハ質物ト爲シ違變ナキヲ證明シ原告人之レヲ承諾スル時ハ其原告人ハ此回ノ身代限財産糶賣金ノ分配ヲ求ムルコトヲ得ヘカラス

第六條 定約期限未滿内ノ債主ハ身代限ニ遇フ負債主ニ對シ期限未滿内ニ訴フルモ満期後ニ至リ訴フルモ其者ノ情願ニ任スト雖モ身代限ニ遇フ者ノ動不動産ヲ引當又ハ質物ニ取置タル債主ハ右動不動産ヲ身代限ノ糶賣ヲ爲スニ付已レノ受取ルヘキ金高ヲ求ムルコトヲ得ヘキ而已ニテ糶賣ヲ爲スコトヲ拒ムヲ得可ラス

第七條 動不動産ヲ引當又ハ質物ニ取置タル者ハ其財産糶賣金ノ内ニテ元金高又ハ利息アレハ利息ト共ニ其定約ノ證書ニ據リ處分ノ時迄ノ金高ヲ算計シ受取ル可キノ求ヲ爲シ裁判所ニ於テハ糶賣金分配ノ規則ニ從ヒ引當又ハ質物ヲ取置タル者ニ分配スヘキ金高ヲ引渡ス可シ

第八條 引當又ハ質物ヲ取置カサル金穀ノ債主定約期限未滿内ニ訴出ル時ハ元金高又ハ利息アレハ利息ト共ニ定約ノ證書ニ據リ處分ノ時迄ノ金高ヲ算計シ受取ヘキノ求ヲ爲シ裁判所ニ於テハ糶賣金分配ノ規則ニ從ヒ處分ヲ爲スヘシ

○身代限財産中質入書入ノ地所アリ債主訴出サル節處分方八年四月十日
布告第五拾三號地所ノ質入書入ハ尋常ノ私約ト違ヒ戸長役場ノ帳簿ニ記載シテ奥書割印モ之レアル公正ノ證書ニ付若シ身代限り財産中質入又ハ書入ノ地所アリテ其債主揭示中ニ訴出サル節ハ

其地所糶賣代價ノ中ニテ債主受取ルヘキ元金高ニ糶賣金配當ノ日マテノ利息ヲ加ヘ第一番ニ引キ去リ裁判所ニ於テ之ヲ糊封シ掛リ官員兩名調印ノ上戸長役場ニ預ケ置キ後日債主願出次第相渡スヘク候條此旨布告候事

但質入書入ノ金高及ヒ利息等不分明ノ節ハ本人呼出シ取調可申事

○華族及華族ノ子弟身代限處分濟宮内省華族局へ通牒方十八年十一月十二日
司法省達丁第二十五號始審裁判所

治安裁

民事裁判上ニ於テ華族及華族ノ子弟身代限處分ニ及ヒタル者有之候ハ、處分完結ノ上其旨直ニ宮内省華族局へ通牒可致此旨相達候事

○裁判所ニ於テ身代限又ハ抵當物公賣處分ヲ爲ス時及其處分ヲ取消ス時登記所ニ通知セシ

二十年三月十四日
司法省訓令第十二號裁判所

裁判所ニ於テ身代限又ハ抵當物公賣ノ處分ヲ爲ス時ハ其地所建物船舶所在地ノ登記所ニ其旨ヲ通知スヘシ其處分ヲ取消ス時亦同シ

○裁判所ニ於テ身代限處分又ハ抵當物公賣處分ノ未落札セシトキ登記所ニ通知方二十年五月
二十三日司法省訓令第

二十三號裁判所

裁判所ニ於テ身代限處分又ハ抵當物公賣ノ處分ヲ爲シ及ヒ其處分ヲ取消ス時ハ其地所建物船舶所在地ノ登記所ニ其旨ヲ通知ス可キ儀ニ付本年三月十四日附ヲ以テ訓令ニ及タル處右處分ノ未裁判所ニ於テ落札ヲ達シタル時モ亦其旨及落札人ノ氏名ヲ該登記所ニ通知ス可シ

第三章 代言人

○代言人規則

十三年五月十三日
司法省布達第一號

廢止
見合

明治九年當省甲第壹號代言人規則左之通改正候條此旨布達候事

但該規則ニ抵觸スル從前ノ布達ハ總テ廢止タル可シ

代言人規則

第一款 總則

第一條 代言人ハ法令ニ於テ代言ヲ許サレタル詞訟ニ付テ原告又ハ被告ノ委任ヲ受ケ其代言ヲ爲ス者トス

第二條 代言ノ業ヲ爲サント欲スル者ハ第四款ニ掲クル所ノ手續ニ依リ定式ノ試驗ヲ經テ司法卿ノ免許ヲ受ケ可シ

第三條 免許ヲ受ケシ代言人ハ大審院及ヒ諸裁判所ニ於テ代言ヲ爲スヲ得

第四條 代言人ノ免許ヲ得ル能ハサル者左ノ如シ

- 一 未丁年者
- 二 身代限リノ處分ヲ受ケ未タ辨償ノ義務ヲ終ヘサル者
- 三 盜罪詐僞罪ニ付刑ヲ受ケタル者
- 四 懲役禁獄一年以上ノ刑ニ處セラレタル者(十四年同省甲第貳號
布達ヲ以テ本項改正)

第十七類 第三章 代言人

五 官吏濫官吏及ヒ公私ノ雇人

第五條 免許ヲ受ケシ者ハ必ス第二款ニ掲グル所ノ代言人ノ組合ニ入りテ其規則ヲ守ル可シ若シ一時他管ニ出テ代言ヲ爲スルハ其地組合ノ規則ヲ遵守ス可シ

第六條 代言人新ニ免許ヲ受ケシ時及ヒ他ノ地ニ轉住セント欲スル時ハ其業ヲ爲ス所ノ裁判所及ヒ檢事檢事ナキ地ハ檢事ノ職務ヲ攝行スル者以下之ニ依テ並ニ議會會長ニ其旨ヲ届ケ廢業ノ時ハ免許狀ヲ檢事ニ返納ス可シ

第七條 代言免許ハ滿一年月ヲ以テ算フヲ以テ限トシ免許料ハ金十圓トス其業ヲ繼續セント欲スル者ハ毎年免許料ヲ納ム可シ既ニ納メタル免許料ハ廢業停業除名ノ時ト雖旧之ヲ還付セ

第八條 新規出願ノ者ハ免許狀ヲ受ル時免許料ヲ直チニ檢事ニ納ム可シ

引續出願ノ者ハ必ス免許期限ノ盡ル前願書ニ免許料ヲ添ヘ檢事ニ差出ス可シ但右手續ヲ爲シタルトキハ期限後ニ係リ未タ免狀ノ下附有ラサルモ其儘代言ヲ爲スヲ得可シ

第九條 免許料ヲ納メサルヲ以テ免許ヲ得ヌ又ハ期限内ニ於テ引續願ヲ爲サシテ免許ノ効ヲ失ヒシ者再ヒ代言ヲ爲サント欲スル時ハ新規出願ノ手續ニ循フ可シ

第十條 免許狀ヲ紛失シ又ハ氏名ヲ改メシ者ハ更ニ免許狀下付ノ願ヲ檢事ニ出ス可シ但願書ノ副本ニ檢事ノ檢印ヲ受ケ置キ引替免許狀下付迄ハ之ヲ以テ免許代言人タルノ證ト爲ス可シ

第十一條 代言ヲ爲スニハ必ス詞訟本人ノ委任狀ヲ受ク可シ

第十二條 代言人ノ懲罰ハ第三款ニ依テ處分ス可シ

第十三條 代言人ノ所業ニ因リ生シタル詞訟本人並ニ相手方關係人ノ損害ハ其代言人ニ於テ之ヲ償フ可シ

第二款 議會

第十四條 代言人ハ各地方裁判所本支廳所轄毎ニ一ノ組合ヲ立テ議會ヲ設ケ左ノ目的ヲ以テ規則ヲ定メ契約ヲ固クヌ可シ但組合ハ各裁判區ノ廣狹遠近ニ依リ檢事ノ見計ヲ以テ之ヲ分合スルコアル可シ

一 互ニ風儀ヲ矯正スル事

二 名譽ヲ保存スル事

三 法律ヲ研究スル事

四 誠實ヲ以テ本人ノ依頼ニ應スル事

五 強テ本人ノ權利ヲ捏造セサル事

六 妄リニ言詞ヲ變改セサル事

七 故ナク時日ヲ遷延セサル事

八 相當謝金ノ額ヲ定ムル事

但該規則ハ必ス檢事ノ照閱ヲ經過シ其改正増補モ亦之ニ同シ

第十五條 組合毎ニ會長一名副會長一名又ハ二名ヲ毎年第一次會ニ於テ投票ノ多數ヲ以テ定ム可シ若シ投票ノ數相均シキ時ハ先キニ免許ヲ得タル者ヲ以テシ其時日相同シキ時ハ年長ノ者ヲ以テ之ニ充ツ可シ

第十六條 會長ハ議會ノ管理ヲ爲シ副會長ハ會長ヲ補助シ會長差支アル時ハ之カ代理ヲ爲ス可シ其任期ハ各滿一年トス但每期投票多數ヲ得ル者ト雖モ其職務ヲ繼續スルハ三期ヲ以テ限リトス

第十七條 第二十二條ニ記載シタル條件ヲ犯ス者アル時ハ各代官人ハ之ヲ會長ニ報告シ會長ハ之ヲ檢事ニ告發ス可シ

第十八條 議會ヲ開クハ毎年二次ヲ以テ定例ト爲シ其日數一次十五日ヲ過クルヲ得ス若シ已ムヲ得サル場合ニ於テ期日ヲ延サントスルカ又ハ臨時會ヲ開カントスル時ハ必ス檢事ノ認可ヲ受ク可シ但其會費ハ各代官人ニ於テ之ヲ擔當スル者ト爲ス

第十九條 會長ハ組合總員ノ名簿ヲ作り其本貫族籍住所年齢及ヒ代言免許ノ年月日ヲ記シ轉住廢業懲罰ノ事アル毎ニ其旨ヲ記ス可シ

第二十條 議會中詞訟事件ニ付參會スルヲ得サル場合ニ於テハ其旨ヲ會長ニ届出ツ可シ

第二十一條 會長及ヒ副會長ト雖モ代言ノ職業ニ付テハ一般ノ代官人ト異ナルナシ

第三款 懲罰

第二十二條 代官人左ノ條件ヲ犯ス時ハ輕重ヲ量リ第二十三條及ヒ第二十四條ニ依テ懲罰ス可シ

- 一 訟廷ニ於テ現行ノ法律ヲ誹議スル者
- 二 訟廷ニ於テ官吏ニ對シ不敬ノ所業ヲ爲ス者
- 三 訟廷ニ於テ相手方ヲ陵辱罵詈シタル者
- 四 詞訟ヲ教唆シタル者
- 五 證據ト爲ル可キ者ヲ捏造シタル者
- 六 他人ノ詞訟ヲ買取り自己ノ利ヲ圖ル者
- 七 強テ謝金ヲ前收シ又ハ過當ノ謝金ヲ貪リタル者
- 八 故ラニ時日ヲ遷延シ詞訟本人並ニ相手方關係人ノ妨害ヲ爲シタル者
- 九 議會組合ノ外私ニ社ヲ結ビ號ヲ設ケ營業ヲ爲シタル者
- 十 議會ニ於テ定メタル取締規則ヲ犯シタル者

第二十三條 懲戒ノ目次左ノ如シ

- 一 罷責
- 二 停業
- 三 除名

第二十四條 所犯法律ニ該ル者ハ法律ニ依テ處斷シ仍ホ第二十三條ノ罰目ヲ併科スルヲ得ル可シ

第二十五條 罷責ハ止タ阿實シテ業ヲ停メス停業ハ一月以上一年以下其業ヲ停メ除名ハ代
言人名簿ノ名ヲ除キ三年ヲ經ルノ後ニ非サレハ復タ代言人タルヲ得ス若シ其所犯ノ情狀
重キ者ハ終身之ヲ許サス

第二十二條ノ懲罰ヲ受ケタル者アルキハ其旨ヲ裁判所ノ控所ニ揭示ス可シ
第四款 出願

第二十六條 代言免許ヲ願フ者ハ第二十九條ノ書式ニ倣ヒ願書ヲ作り現住戸長(又ハ區長)
ノ奥印ヲ受ケ履歷書ヲ添ヘ其所轄ノ檢事ニ差出シ定式ノ試験ヲ受ク可シ
第二十七條 出願定月

二月 八月 各上半ケ月ヲ以テ限リト爲ス

第二十八條 試験ノ課目左ノ如シ

- 一 民事ニ關スル法律
- 二 刑事ニ關スル法律
- 三 訴訟ノ手續
- 四 裁判ニ關スル諸規則

第二十九條 願書及ヒ履歷書々式(略)

消滅追録
見合
○大學法學部ニ於テ法律學卒業ノ者代言人免許方
十三年十一月廿九日
司法省達丙第拾六號地方裁判所檢事檢事
アラサ
ル各縣

明治十二年五月司法省丙第七號達左之通改正候條此旨可相心得事

文部省所轄東京大學法學部ニ於テ法律學卒業ノ者代言人營業出願セシ時ハ明治十三年五月司法省甲第壹號布達改正代
言人規則第二十七條出願期第二十八條試驗ニ關セス免許狀授與候條右出願ノ節ハ卒業免許狀ヲ檢査シ願書ニ其寫ヲ添ヘ進達可
致此旨相達候事

但本文試験ニ關スルモノ、外代言人規則ニ進達スルハ一般代言人ト異ナルナシ

消滅追録
見合

○代言人取扱手續ヲ改正ス
十三年五月十三日
司法省達丙第八號諸裁判所檢事府廳

司法省明治九年二月第二十五號達代言人取扱手續左ノ通改正候條此旨相達候事

- 第一條 代言ノ免許ヲ願フ者アル時ハ檢事(檢事ナキ地ハ檢事ノ職務ヲ攝行スル者)其願書及ヒ履歷書ヲ査問シ若シ寄留ニテ履歷ノ細末分明
ナラサル時ハ本管ニ照會シテ取調ヘタル上之ヲ試験シ一切ノ書類ヲ纏メ司法卿ニ進達スヘシ
- 第二條 試験問題ハ出願定月前司法卿ヨリ各地方ノ檢事ニ送付ス
- 第三條 檢事ハ司法卿ヨリ受クル所ノ問題ヲ以テ出願定月ノ下半ケ月間ニ試験ヲ行フヘシ
但試験ニ法律書籍ヲ携帶スルモ妨ナシ其問題ニ之ヲ許サ、ル旨ヲ記セシ時ハ携帶ヲ禁スヘシ
- 第四條 免許狀ハ司法卿ヨリ檢事ニ送付シ檢事之ヲ其本人ニ授與スヘシ
- 第五條 大審院裁判所并檢事ニ於テハ代言人名簿ヲ製シ年月日ヲ詳ニシテ左ノ件々ヲ登錄スヘシ
 - 一 氏名身分在任所年齡
 - 二 新規及ヒ引續免許
 - 三 住所移轉姓名改換及ヒ廢業免許狀紛失等
 - 四 懲罰

第六條 代言人ハ總テ其地ノ檢事ニテ監視シ代言人規則ニ照シテ之ヲ取扱フヘシ若シ犯則ノ者アル時ハ其處分ヲ裁判官

第十七類 第三章 代言人

二 求ムヘシ訟庭ニ於テノ犯則ハ裁判官直チニ之ヲ處分シ後手檢事ニ通知スヘシ

第七條 議會ノ規則ハ檢事之ヲ認許シ其副本ヲ司法卿ニ進達スヘシ(十九年六月司法省令丙第七號ヲ以テ(副本)ノ下(及)ト會長副會長組合人ノ氏名列)ノ十四字ヲ別除ス

第八條 代官人他ノ裁判所管内ニ轉任シ又ハ廢業スルトキハ檢事ヨリ司法卿へ上申スヘシ尤モ廢業ノトキハ其免許狀ヲ返納スヘシ

第九條 免許狀紛失或ハ改名ニ係リ書換等ニテ更ニ下付ヲ願出ル者アル時ハ檢事ヨリ司法卿へ上申シ其免許狀下付ヲ得テ之ヲ本人ニ授與スヘシ但右出願ノ時其願書ノ寫(檢印ヲナシテ本人へ與へ置クヘシ

第十條 檢事ハ免許料ヲ收領シタル上ニテ免許狀ヲ本人ニ授與スヘシ

第十一條 免許料ハ一月毎ニ司法省へ納ムヘシ(十三年丙第十四號省)達ヲ以テ全條改正ス

但シ檢事所在ノ裁判所ハ該會計課へ交付スル額ト心得ヘシ

第十二條 代官人ノ處刑懲罰ハ其都度檢事ヨリ之ヲ司法卿へ上申スヘシ除名ノ時ハ其免許狀ヲ褫奪シテ返納スヘシ

第十三條 檢事ハ停業ノ罰ヲ受ケタル者ノ免許狀ニ某年月日ヨリ某年月日マテ停業シタル旨ヲ取書シ檢事ヲシテ之レヲ本人ニ下付スヘシ

(括弧内朱書)

免許狀

〔何 某〕

〔代 言 ヲ 免 許 シ〕

〔此 證 ヲ 授 ク〕

〔番 號〕

〔免 許 期 限〕

〔從 何 年 何 月〕

〔至 何 年 何 月〕

離 形

司法 省 印

明 治 年 月 日

〔停 業 期 限〕

〔從 何 年 何 月 何 日〕

〔至 何 年 何 月 何 日〕

印

消滅追録

○大審院諸裁判所所屬代官人規則ヲ定ム

十四年十二月二日 司法省布達第八號

大審院諸裁判所所屬代官人規則別紙之通相定候條此旨布達候事

(別紙)

所屬代官人規則

第一條 治罪法中所屬代官人ト稱スルハ大審院及ヒ各裁判所所在ノ地ニ住居スル免許代官人ヲ云

第二條 裁判官ノ職權ヲ以テ選任シタル代官人辯護人ハ正當ノ事由ヲ證明スルニアラサレハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三條 代官又ハ辯護受任中代官免許滿期ニ至リ引續營業セス又ハ廢業スト雖モ該事件終結ニ至ルマテ其代官辯護ヲ擔當ス可シ

第四條 代官又ハ辯護受任中ハ他ノ訴訟事件ヲ以テ其任ヲ關クコトヲ得ス

第五條 裁判官ノ職權ヲ以テ代官人辯護人ヲ選任シタル場合ニ於テモ其謝金ハ被告人之ヲ擔當ス可シ

總テ謝金ニ付テハ出訴スルコトヲ許サス

消滅追録

○司法省變則法學生徒卒業業者代官營業出願方

二十年十二月十三日 司法省訓令第二十六號檢事

司法省變則法學生徒卒業業者代官營業ヲ出願セントキハ代官人規則第二十七條第二十八條ニ關セス免許狀ヲ授與スヘキニ付出願ニ際シ卒業證書ヲ檢査シ其寫ヲ願書ニ添ヘテ進達スヘシ

第十七條 第三章 代官人

消滅追録

○代官人試験出願者申報方 二十一年十二月十二日
司法省訓令第十八號始審裁判所本支廳上席檢事

代官出願人試験自今毎年九月ヲ以テ執行スルニ付代官人規則第二十七條兩次出願定月ノ出願人ハ八月ノ下半月中其應員
ヲ申報シ出願書類ハ兩次ノ分ヲ取備置キ試験執行後答案ト共ニ進達スヘシ
但來二十二年ハ人員申報書類進達共二十一年八月期ノ分ヲモ併スル儀ト心得ヘシ

消滅追録

○代官出願人試験執行ノ期月ヲ定ム 二十年一月十四日
司法省告示第一號
代官出願人試験ノ儀ハ自今出願ノ都度之ヲ爲サス毎年四月ヲ以テ執行ス

消滅追録

○法學博士ノ學位ヲ得タル者代官營業出願取扱方 二十二年三月二十八日
司法省訓令第五號檢事
明治二十年勅令第十三號學位令ニ依リ法學博士ノ學位ヲ得タル者代官營業ヲ出願セシトキハ代官人規則第二十七條第二
十八條ニ關テ免狀狀ヲ授與スヘキニ付出願ニ際シ學位記ヲ檢査シ其寫ヲ願書ニ添テ進達スヘシ

消滅追録

○訴訟法中辯護士事務ノ件 二十三年十月十八日
司法省訓令第四號
訴訟法中辯護士ノ執ル可キ事務ハ追テ辯護士ヲ置カルヘキニ付當分ノ内代官人之ヲ取扱フ儀ト心得ヘシ但上席檢事ハ此
旨管内代官人へ進達スヘシ

沿革要領

明治九年二月司法省甲第一號布達ヲ以テ代官人規則ヲ定ム○十三年五月司法省甲第一號布達ヲ以テ前令ヲ改正ス○
同月同省第二號ヲ以テ勸解又ハ調訟ニ付代人差出方ヲ布達ス○十七年一月同省第一號布達ヲ以テ前令ヲ改正ス

第十八類

第一章 刑罰 罰例

○刑法 三十三年七月十七日(日本六法全)
布告第三十六號(審三載ス)

○決闘罪 二十二年十二月二十八日(上同)
法律第三十四號

○明治十七年第一號布告廢止ノ件 二十二年六月十日(上同)
法律第十七號

○竊盜罪 二十三年十月八日(上同)
法律第九十九號

○讒謗律 八年六月二十八日(上同)
布告第一百十號

○刑法附則 十四年十二月十九日(上同)
布告第十七號

○刑法附則中改正 二十三年十月八日(上同)
法律第二百二號

○公署公吏公署ノ印、文書及免狀鑑札ニ關スル件 二十三年十月八日(上同)
法律第三百號

○憲兵卒ノ職務ニ關スル犯罪處斷例 十五年十二月二十八日
布告第七十三號

憲兵卒其職務ニ關シ罪ヲ犯シタル時ハ官吏犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

憲兵卒ノ職務ニ對シ罪ヲ犯シタル者ハ官吏ニ對スル犯罪ノ例ニ照シテ處斷ス

右奉 勅旨布告候事

○陸海軍法衙ニ於テ罰金料料ニ處スル時換刑方 十六年十一月十日
布告第三十七號

陸海軍法衙ニ於テ罰金料料ニ處スル時ハ直ニ輕禁錮拘留ニ換フルコトヲ得

右奉 勅旨布告候事

○偽證又ハ贋造文書沒收方等 十二年七月二十九日 司法省達丙第拾號大審院諸裁判所檢察檢事アラサル府縣

凡ソ偽證或ハ公私文書ノ贋造ニ係ル一發覺シ刑事裁判ヲ經シ上ハ其文書ハ棄ヨリ其裁判所ニ没入シ置クヘシト雖モ或ハ其文書ノ證憑ナキヲ以テ他ニ同證ヲ起スヘキ途方ヲ失ヒ宛枉者ナキヲ保シ難シ故ニ其文書ヲ没入スルニ當リ其文書ノ寫ヲ請求スル者ニハ必ス之ヲ與フヘシ

但裁判所ニ於テ該書類ニ消印ヲ押捺スル如キノ慣習ハ廢止トス

各裁判所ニ於テハ前條文書ノ寫ヲ以テ取出ルモノアラハ尋常ノ證據ト見ルハ勿論ト雖モ若他ノ裁判ニ在リテハ一應其没入セシ所ノ裁判所ヘ照會シテ其没入セシハ果シテ信ナルヤヲ認メシ上裁判ヲ與フヘシ

○各地方ノ便宜ニ從ヒ違警罪目ヲ定メ發行シタル片主務省ニ届出方 十四年八月三十一日 第七拾七號違警視廳府

縣(東京府ヲ除ク)

刑法第四百三十條ニ依リ各地方ノ便宜ニ從ヒ違警罪目ヲ定メ發行シタルトキハ之ヲ主務ノ省ヘ届出ヘシ此旨相違候事

○死刑者犯由牌揭示式ヲ改正ス 十五年二月六日 司法省達丙第三號裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

處刑ノ者犯由揭示ノ儀ニ付明治七年五月當省第九號ヲ以テ相違候旨モ有之候處今般新刑法實施ニ付テハ明治十四年十二月第六拾七號公布刑法附則第八條ニ據リ自今左ノ通改正候條此旨相違候事

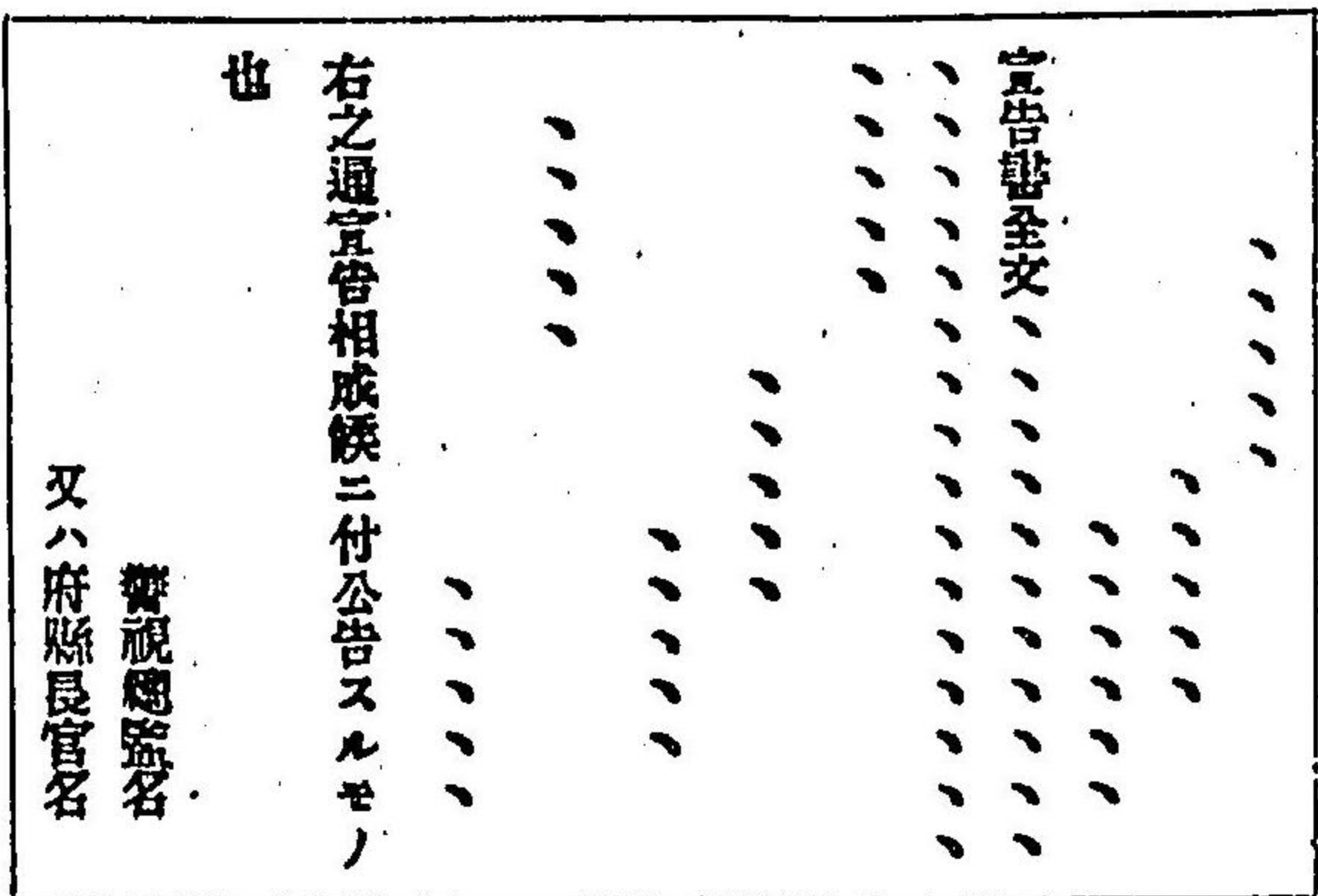
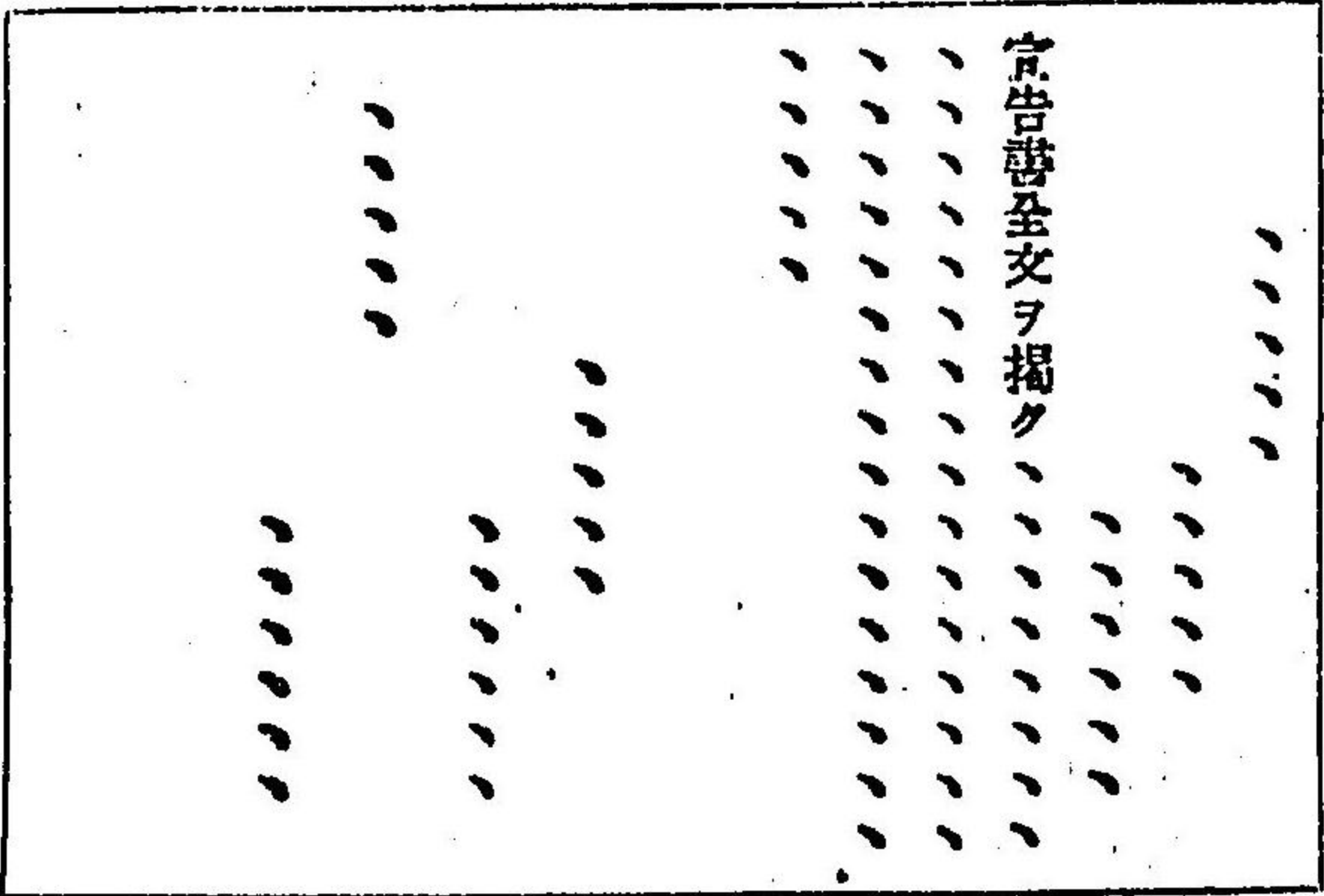
一死刑ノ執行アリタルトキハ重罪裁判所書記ニ於テ左ノ輪形ニ據リ公告案ヲ製シ三日間該廳門前ニ揭示シ且別ニ宣告書ノ謄本ヲ製シ犯罪ノ地并犯人住居ノ地方(東京ハ府縣ハ速ニ送達スヘシ) 警視廳府縣ニ於テハ重罪裁判所書記ヨリ死刑宣告書ノ謄本送達アレハ左ノ輪形ニ據リ犯罪ノ地并犯人住居ノ地何レモ

三日間通衢ニ榜示公告スヘシ 死刑宣告書示公告輪形

罪裁判所門前榜示

犯罪ノ地又ハ犯人住居ノ地榜示

用紙堅質ノ品ヲ撰用ス



右之通宣告相成候ニ付公告スルモノ也

警視廳監督
又ハ府縣長官名

○刑法附則中監視表旅券書式ヲ定ム 十五年三月二十二日 內務省達乙第拾九號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

刑法附則中監視表旅券共別紙書式之通相定候條各廳ニ於テ調製シ下附スヘシ此旨相違候事 但紙質堅緻ナルモノヲ用ユヘシ

別紙

十水十
同以五四厘分寸縦色ハ花原
シ下分寸横五二七刷線梓書

監 視 票

刑名刑期

何年何月何日
何年何月何日
何年何月何日
何年何月何日
何年何月何日
何年何月何日
何年何月何日
何年何月何日
何年何月何日
何年何月何日
何年何月何日
何年何月何日

監視何年何月何日

何 某

明治何年何月何日

監視ノ期限間左ノ條件ヲ遵守スヘシ

- 一 毎月二度所轄ノ警察署ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ此票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但疾病又ハ已ムヲ得サル事故アリテ警察署ニ到ルヲ能ハサルハ其事由ヲ届出ヘシ
- 二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ許サス
- 三 事故アリテ其住居ヲ轉移セントスルハ警察署ニ申請シ許可ヲ受ク可シ
- 四 擅ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サス若シ已ムヲ得サル事故アルハ其事由ヲ警察署ニ具申シ許可ヲ受ク可シ

右刑法附則第二十六條ニ因リ此ノ票ヲ下付スル者也

署

東京ニテハ
何警察署

明治何年何月何日

警察使何某

印

印

府縣ニテハ

何府縣何警察署

警 部何某

印

認 印 表 (十六年司法省令乙第
十號ヲ以テ本表改正)

	月一	月二	月三	月四	月五	月六	月七	月八	月九	月十	月十一	月十二
初年	前十五日以後十六日以前											
二年	前十五日以後十六日以前											
三年	前十五日以後十六日以前											
四年	前十五日以後十六日以前											
五年	前十五日以後十六日以前											

旅券

刑名刑期
監視何年何月
罪質犯數

何年何月何日
何年何月何日
何年何月何日

族籍

何某

何年何月生
明治何年何月何日生

何府何區何村何番地住又ハ許可何某
子孫何某何某

一此者何府縣何區郡何町村何某方へ旅行スル
トヲ許可ス

一何年何月何日日本地ヲ發途ス

一先方ノ地トキハ其旨ヲ記スニ滞在スル日數何日
間トス

一何年何月何日版宅スルモノトス

先方ノ地トキハ其旨ヲ記スニ到レハ此旅券ヲ直ニ其
地ノ警察署ニ出シテ官吏ノ認印ヲ受クヘキ事

旅行中天災又ハ疾病等ニヨリ已ムコトヲ得スシテ
滞シタルハ其事由ヲ其地ノ警察署ニ具申シ

官吏ノ證書ヲ請ヒ歸著シタルハ若シクハ先方ノ
地ニ到レハ此旅券ニ副ヘ速ニ之ヲ其警察署ニ示

スヘキ事

歸著シタルハ此旅券ヲ直ニ還納スヘキ事
右刑法附則第三十條ニ依リ下付スル者也

東京ニテハ

何警察署

警察使何某印

明治何年何月何日

印

府縣ニテハ

何府縣何警察署

警部何某印

認印表

某警察署

何年何月何日ヨリ
何年何月何日迄何
府縣何區何村何番
地何某方ニ滞在ス

印

印

印

旅券

十六年司法省達シ第拾四號ヲ以テ姓名ノ上ヘ刑名刑期監視年月罪質犯數等云云ヲ追加ス

何府縣何町何番地在又ハ警署何某

刑名刑期

何年何月何日

族籍

監視何年何月

何年何月何日

何某

罪質犯數

一此者監視假出獄ヲ許サ之ヲ執行スヘキニ付該地ニ到ル者也

一何年何月何日先方ノ地ニ到ルモノトス

先方ノ地ニ到レハ直ニ其地ノ警察署ニ此旅券ヲ差出ス可キ事

但シ本文旅券ニ假出獄證票ヲ添ヘ官吏ノ監査ヲ受クヘシ

旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滞シタル時

ハ其事由ヲ其地ノ警察署ニ具申シ官吏ノ證書ヲ請ヒ到著ノ日此旅券ニ副ヘ警察署ニ差出ス可キ事

右刑法附則第二十五條ニ依リ下付スル者也

署
明治何年何月何日
府縣ニテハ
何府縣何警察署
警察使何某印

東京ニテハ

何警察署

警察使何某印

印

府縣ニテハ

何府縣何警察署

警部何某印

印

特別監視票

何府縣何町何番地在又ハ警署何某

刑名刑期

何年何月何日

附加監視何年何月

何年何月何日

族籍

假出獄何年何月何日許可

何某

特別監視何年何月

何年何月何日

特別監視ノ期限間左ノ條件ヲ遵守スヘシ

一每週間一度所轄ノ警察署ニ到リ其謹慎ナル

ヲ表シ此票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受クヘシ

但疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察署ニ到ルコト能ハサルハ其事由ヲ届出ツヘシ

二酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス

三事故アリテ住居ヲ轉移セントスルハ警察署ニ申請シ許可ヲ受クヘシ但他ノ府縣ニ轉移スルコトヲ許サス

四往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルヲ許サス

(重罪ノ刑ニ處セラレタル者ナルハ左ノ一項ヲ附加ス)

自ラ財産ヲ治メ若シクハ職業ヲ營マントスルハ刑法附則第四十一條ニ從ヒ警察署ニ申請シ許可ヲ受クヘシ

右刑法附則第六條ニ依リ此票ヲ下付スル者也

署
明治何年何月何日
府縣ニテハ
何府縣何警察署
警察使何某印

東京ニテハ

何警察署

警察使何某印

印

府縣ニテハ

何府縣何警察署

警部何某印

印

刑部	大正六年											
	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
初年度	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
二年度	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
三年度	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
四年度	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
五年度	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
六年度	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
七年度	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
八年度	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
九年度	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
十年度	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
十一年度	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
十二年度	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
十三年	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
十四年	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
十五年	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
十六年	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二

刑部 印 表 (大正六年四月二十九日法律第六十七号) 拾四號ヲ以テ改正ス

○軍人制服ヲ着用乘馬シタル者ハ刑法第四百貳拾七條第二項ノ限ニ無之日
十五年四月二十九日太政官達第二十九號内務省陸軍省海軍省司法省警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

○犯罪ノ用ニ供シ及犯罪ニ因テ得タル物件所有主ニ還付方
十五年五月十一日司法省達丙第貳拾號大審院裁判所警視廳府縣
候條此旨相達候事

○犯罪ノ用ニ供シタル物件及ヒ犯罪ニ因テ得タル物件ハ本案ノ裁判ヲ言渡ス迄ニ所有主ヲ發見セサル時ハ刑法第四十三條第四十四條ニ從ヒ其本案ノ裁判ト共ニ沒收ノ旨渡ヲ爲スヘシト雖モ右ノ物件ハ之ヲ其裁判所所在ノ地及ヒ犯罪ノ地ニ公告シ一年間ヨリ起算ス
二所有主ヲ發見シタル時ハ檢察官ヨリ直ニ之ヲ還付スヘシ此旨爲心得相達候事
但檢察官ニ於テ保存ス可カラサル物件又ハ保存スルニ付費用ヲ要スヘキ者ト思料スル時ハ公費ノ處分ヲ爲シタル上其代金ヲ保存シ置クヘシ

○犯罪ノ用ニ供シ又ハ犯罪ニ因リ得タル物件其所有主ヘ假ニ下渡方
十五年六月廿六日司法省達丙第貳拾四號大審院裁判所警視廳府縣(東京府ヲ除ク)
犯罪ノ用ニ供シ又ハ犯罪ニ因リ得タル物件ハ轉讓シテ他人ノ手ニ在リ及ヒ沒收スヘキモノ若クハ贈憑ノ爲メ官ニ保存シ置クヲ必要トスルモノヲ除クノ外ハ裁判官檢察官司法警察官ニ於テ實際ノ便宜ニ因リ裁判言渡アルマテ其所有主ヘ假ニ之ヲ下渡シ置クヲ得ヘシ此旨爲心得相達候事

○陸軍上等卒ニシテ刑法特ニ官吏ノ爲メ定メタル罪ヲ犯シタル時處斷方
十五年八月二十一日司法省達丁第四拾號大審院裁判所
今般太政官ヨリ左ノ通御達有之候條此旨相達候事

大政官達 十五年八月十五日

千六十八

陸軍上等卒ニシテ刑法特ニ官吏ノ爲メニ定メタル罪ヲ犯シタル時ハ都テ官吏ニ准シ候儀ト可心得此旨相達候事

○罰金ヲ禁錮ニ換フルノ手續 明治十七年十月十日 司法省達丁第五拾三號大審院裁判所

罰金ヲ禁錮ニ換フル儀ニ付神奈川重罪裁判所判事荒木博臣ヨリ別紙申出候ノ通伺出候ニ付シ號ノ通及指令候條爲心得此旨相達候事

(別紙) 甲號

罰金ヲ禁錮ニ換フル儀ニ付伺

重罪裁判所ニテ罰金ノ膏渡ヲ受ケタル者期限内ニ納完セサル時ハ刑法第廿七條ニ照シ輕禁錮ニ換フヘキ處重罪裁判所開庭後ハ始審裁判所ニ於テ開キタル片 右禁錮ニ換フル事ヲ檢察官ノ求ニ因リ其始審裁判所ノ所長判事ニテ之ヲ命シ候條致度右ハ差掛リ候事件有之候間至急御指令相成度此段相伺候也

明治十五年九月十八日

神奈川重罪裁判所

司法卿大木喬任殿

判事荒木博臣印

乙號 伺ノ通

明治十五年九月廿六日

○監視ニ附セラレタル者他ノ地方旅行ノ取計方 明治十七年三月二十六日

監視ニ付セラレタル者他ノ地方ニ旅行スルハ必ス監視票ヲ携帶セシメ其帶數日ニ涉ル者ハ帶留地ノ警察署ニ到リ該地官吏ノ認印ハ監視票ノ裏面旅行中欄内ニ捺印スヘシ

○監視假免出獄上申方 明治十七年七月九日

刑法附則ニ從ヒ監視假免ハ警察官假出獄ハ典獄ヨリ其實實ヲ具シ直ニ上申致來候處自今其所屬長官ヲ經由スル儀ト心得ヘレ此旨相達候事

沿革要領

明治元年正月廿三日布告ヲ以テ暗殺ヲ嚴禁シ犯ス者ハ嚴科ニ處ス○同年四月布告ヲ以テ阿片烟草賣買吸食ヲ嚴禁ス○同年十月三十日布告ヲ以テ強刑禁刑等ヲ改正ス○二年五月廿八日布告ヲ以テ廢造金銀貨ヲ行使スル者ハ嚴科ニ處セシム○三年七月二日偽造貨律ヲ定ム○同年八月九日販賣鴉片烟律ヲ定ム○同年十一月十八日准流法ヲ設ケ今後流罪ヲ犯ス者處分方ヲ定ム○同年十二月二十日新律綱領六卷ヲ頒布ス○六年六月第二百六號布告ヲ以テ改定律例ヲ頒布ス○十三年七月第三十六號布告ヲ以テ刑法ヲ改定ス

○法律規則中罰例ニ係ルモノ處斷例 十四年十二月二十八日 布告第七十二號

明治十五年一月一日ヨリ刑法施行候ニ付法律規則中罰例ニ係ルモノハ左ノ例ニ照シテ處斷スヘシ

第一條 凡懲役ハ十一日以上ヲ重禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第二條 凡禁獄及禁錮ハ十一日以上ヲ輕禁錮ニ處シ十日以下ヲ拘留ニ處ス

第三條 凡罰金及科料ハ貳圓以上ヲ罰金ニ處シ貳圓未滿ヲ五錢以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第四條 法ニ照シ律ニ照シ若クハ違令違式ニ照シ處斷ストアリ及ヒ答可申付トアルハ總テ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條 法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十八類 第一章 罰例

千六十九

第六條 法律規則中罰例アリト雖モ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依テ處斷ス

第七條 前數條ノ罪ヲ犯シ拘留科料ニ處スル者ト雖モ輕罪裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

但始審裁判所所在ノ地ヲ除クノ外ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヲ得
右奉 勅旨布告候事

○省令廳令府縣令及警察令ニ關スル罰則(第一類第一章法例ノ部ニ載ス)

○諸罰則ヲ犯シ罰金科料ニ處セララル、者處分法(十三年三月三十一日布告第拾壹號)

諸罰則ヲ犯シ罰金科料ニ處セララル、者處分法左ノ通相定候條此旨布告候事

一罰金科料ハ宣告ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ壹圓ヲ一日ニ折算シ禁獄ニ換フ其壹圓以下ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

但算シテ禁獄二年以上ニ及ホスヲ得ス

一禁獄限内罰金科料ヲ納完シ又ハ親屬等代テ納完スル時ハ經過シタル日數ヲ扣除シテ禁獄ヲ免ス

一罰金科料ノ實決ノ刑ヲ併科シタル時完納セサル者ハ刑期滿限ノ後例ニ照シテ禁獄ス

○諸罰則ヲ見届ケ訴出ル者科料罰金ノ半高給與方(十三年三月二十日司法省達丙第壹號大審院諸裁判所檢事檢事ヲ置カサル府縣)

諸罰則中逃犯者ヲ見届ケ訴出ル者ハ其貫トシテ科料又ハ罰金ノ半高ヲ給付スト之レアルハ其逃犯者無力ニシテ科料又ハ罰金ノ全部ヲ完納スル能ハサル片ハ實地徵收セシ金高ノ半額ヲ給付スル儀ト心得ヘク此旨相達候事
但シ本文ニ抵觸セル從前ノ何指令ハ總テ取消候事

第二章 治罪 司法警察 逃亡犯罪人

○普通治罪法陸海軍治罪法交渉ノ件處分法ヲ制定ス(十八年五月廿九日布告)

第拾貳號

普通治罪法陸軍治罪法海軍治罪法交渉ノ件處分法左ノ通制定ス但從前ノ成規中本則ニ抵觸スルモノハ當分施行セス(二十三年十月六日法律第九十六號ヲ以テ刑事訴訟法發布ニ付普通治罪法廢止)

第一條 常人ニシテ陸軍刑法若クハ海軍刑法ノ罪ヲ犯シタル者ハ普通裁判所ニ於テ之ヲ審判ス但刑ノ執行ハ普通ノ規則ニ從フ

第二條 軍人常人共ニ重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ軍人ハ軍法會議ノ判決ニ付シ常人ハ普通裁判所ノ公判ニ付ス軍符ニ於テ共犯人ヲ逮捕シタルトキハ常人ハ審問ノ上證據書類ト共ニ之ヲ管轄ノ普通裁判所檢事ニ送致シ普通裁判所ニ於テ共犯人ヲ逮捕シタルトキハ軍人ハ審問ノ上證據書類ト共ニ之ヲ被告人ノ所屬長若クハ陸海軍檢察官ニ送致スヘシ

第三條 敵前軍中陸戰合圍ノ地若クハ海軍諸用ニ供スル船舶ニ在テ重罪輕罪ヲ犯シタルトキハ常人ト雖モ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スルコトヲ得但戒嚴令第十一條第十二條ニ掲クルモノハ軍法會議ニ於テ之ヲ審判スヘシ

第四條 軍法會議ト普通裁判所トノ管轄違ニ付テハ軍法會議又ハ普通裁判所ノ言渡ニ對シ普通治罪法ニ定メタル手續ニ從ヒ大審院ニ上告スルコトヲ得但軍法會議ノ言渡ニ對シ上告スルハ被告人ニ限ルヘシ

第五條 多衆ノ軍人常人鬪毆殺傷其他疑讞ニ係ル罪ヲ犯シタルトキハ軍官法司會同審問スルコトヲ得

第六條 軍法會議ト普通裁判所トヲ問ハス既ニ確定シタル裁判ノ効力ハ互ニ之ヲ侵スコトヲ得ス

右奉 勅旨布告候事

○違警罪即決例 十八年九月二十四日 布告第三十一號

明治十四年九月第十四號布告及ヒ同年十二月八拾號布告ヲ廢止シ違警罪即決例別紙ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

(別紙)

違警罪即決例

第一條 警察署長及ヒ分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル違警罪ヲ即決スヘシ但私訴ハ此限ニ在ラス

第二條 即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ取調ヘ直チニ其言渡ヲ爲スヘシ

又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出シタリト雖モ出廷セサル時ハ直チニ其言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルコトヲ得

第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ違警罪裁判所ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得但正式ノ裁判ヲ經スシテ直チニ上訴ヲ爲スコトヲ得ス

第四條 即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齢身分職業住所犯罪ノ場所年月日時罪名刑名及ヒ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期限並ニ其言渡ヲ爲シタル警察署年月日警察官ノ氏名ヲ記載スヘシ

第五條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立書ヲ差出スヘシ但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヨリ三日内第二項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス

第六條 警察署ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタル時ハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ違警罪裁判所檢察官ニ送致スヘシ

第七條 第五條ニ定メタル期限内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時ハ即決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス

第八條 科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第九條 科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサル者ハ一圓ヲ一日ニ折算シテ之ヲ留置ス其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第十條 拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ一日ヲ一圓ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保證トシ

ヲ差出サシムヘシ若シ差出サハル者ハ第五條ニ定メタル期限内之ヲ留置ス但刑期五日
内ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス

第十一條 保證金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直チニ出廷シテ其執行ヲ受ク
ヘシ若シ出廷セサル時ハ保證金ヲ没入シテ本刑ニ換フ

第十二條 留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アリタル時ハ直チニ留置
ヲ解クヘシ

第十三條 留置ノ日數ハ一日ヲ一圓ニ折シテ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入
スヘシ

○商船内犯罪取扱規則ヲ制定ス 十四年十二月十五日 布告第六拾五號

商船内犯罪取扱規則別紙ノ通制定ス

右奉 勅旨布告候事

(別紙)

商船内犯罪取扱規則

第一條 何人タリトモ商船内ニ於テ重罪輕罪アルコトヲ認知シ又ハ重罪輕罪ニ因リ損害ヲ
受ケタル者ハ船長ニ告訴告發ヲ爲スコトヲ得

第二條 船長告訴告發ヲ受ケタル時又ハ重罪輕罪ノ現行犯アルコトヲ知リタル時ハ其事件
ニ付假ニ訊問檢證ノ處分ヲ爲シ且證憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ集取シ調書ヲ作

ルヘシ但調書ヲ作ルコト能ハサル時ハ第二條ニ記載シタル官吏ニ其申立ヲ爲スヘシ
前項ノ場合ニ於テハ立會人二名以上アルヲ要ス

第三條 船長ハ證憑及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ヲ取纏メ被告人ト共ニ該船碇泊又ハ着
港ノ地ノ檢事又ハ司法警察官ニ引渡スヘシ若シ外國ノ港埠ニ着シタル時ハ其地駐劄ノ
領事ニ之ヲ引渡スヘシ

○樺戶集治監ノ囚人輕罪以下ノ罪ヲ犯シタル者裁判手續 十五年三月三日 布告第六拾六號
樺戶集治監ノ囚人 假出獄免幽 閉ノ者トモ 罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手
續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

右奉 勅旨布告候事

○空知集治監ノ囚人輕罪以下ノ罪ヲ犯シタル者裁判及治罪手續 十五年 八月十 日 布告第 四拾一號

空知集治監ノ囚人 假出獄免幽 閉ノ者トモ 罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手
續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ函館重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

右奉 勅旨布告候事

○釧路集治監ノ囚人犯罪ノ者處分方 十八年十二月十七日 布告第四十二號

第十八類 第二章 治罪

銚路集治監ノ囚人假出獄免由罪ヲ犯シ輕罪以下ニ該ル者ハ司獄官吏ニ於テ裁判シ治罪ノ手續モ便宜取計フヘシ

但重罪ハ根室重罪裁判所ノ管轄ニ屬ス

右奉 勅旨布告候事

○帶勳者ノ犯罪ニ付勳章ヲ褫奪シタルキ犯人本籍ヘ通知方十九年四月三十日 司法省令丙第六號大審院裁判所

刑事裁判官渡ヲ犯人本籍ヘ通知方ノ儀明治十四年當省丁第三十三號ヲ以テ相違置タル處自今帶勳者ノ犯罪ニ付勳章ヲ褫奪シタル時ハ其旨併セテ通知ス可シ

○帶勳有位者罪ヲ犯シ公權剝奪又ハ停止ノ言渡アリタルキ届出方十五年三月六日 司法省達丙第九號大審院裁判所府縣(東京府ヲ除ク)

帶勳者罪ヲ犯シ公權ヲ剝奪又ハ停止スルノ言渡アリタルキハ其罪狀并刑名宣告文ノ寫ヲ以テ當省ヘ可届出此旨相違候事

但剝奪公權ノ者ハ勅記勳章并年金票共收奪ノ上當省ヘ届出スヘク候事

○勅奏任官華族帶勳有位者禁錮以上ノ刑ヲ犯シタル時處分方十五年三月二十七日 司法省達丙第拾壹號大審院裁判所府縣(東京府ヲ除ク)

今般大政官ヨリ別紙ノ通御達相成候條此旨相違候事

勅任官禁錮ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シ及ヒ奏任官華族帶勳有位ノ者禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シタル時ハ當該檢察官ヨリ司法卿ニ具狀シ司法卿其事由ヲ奏聞シテ處分スヘシ但現行犯罪ニ係ル者ハ處分シテ後ニ奏聞スルヲ得此旨相違候事

司法省

明治十五年三月二十二日

大政大臣三條實美

○恩給扶助料ヲ有スル元軍人並軍人及寡婦孤兒罪ヲ犯シ公權剝奪停止ノ處分ヲ受ケタル者

アルキ大藏省ヘ通知方十六年四月二十七日 司法省達丁第拾五號大審院裁判所

明治八年第百四拾八號公達海軍退隱令並ニ明治九年第九拾九號公達陸軍恩給令ニ據リ恩給ヲ有スル元軍人及其扶助料ヲ有スル寡婦孤兒罪ヲ犯シ公權剝奪若クハ停止ノ處分ヲ受ケ並ニ該恩給ヲ有スル軍人ニシテ治罪法第二百七十三條ニ據リ公權停止ノ處分ヲ受ケタル者アルキハ其都度直ニ大藏省ヘ通知可致此旨相違候事

但新法實施已後是迄本文ノ處分ヲ受ケタル者有之候ハ、其旨直ニ大藏省ヘ通知可致事

○勅奏任官華族并有位帶勳者犯罪取扱ニ付更ニ心得方ヲ達ス十六年五月十四日 司法省達丙第貳號大審院裁判所府縣(東京府ヲ除ク)

勅奏任官華族并有位帶勳者犯罪取扱方ノ儀ニ付キ別紙ノ通り大政官ヘ相伺候處朱書ノ通御指令相成候條爲心得此旨相違候事

但御指令文中十五年三月二十二日附御達ハ同年當省丙第拾壹號達ト可相心得事

勅奏任官華族等犯罪取扱方ノ儀伺

勅任官禁錮ノ刑ニ該ルヘキ罪ヲ犯シ及ヒ奏任官華族帶勳有位ノ者禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ犯罪取扱方ノ儀ニ付テハ明治十五年三月二十二日附ヲ以テ御達有之候處其罰金ニ處スヘキモノト雖モ或ハ本人ヲ出廷セシムル場合モ有之且又拘留ノ刑ニ處シ及ヒ罰金科料ヲ納充セサル節ハ則換刑シテ輕禁錮又ハ拘留ニ處スヘキ儀モ有之候條右本人出廷セシムル場合及ヒ換刑シテ輕禁錮又ハ拘留ノ刑ニ處スヘキ時ハ矢張其時々奏聞可致儀ト相心得可然哉此段相伺候也

明治十六年三月三十一日 司法卿大木喬任

朱書

伺ノ運

但十五年三月二十二日附其省へ達中帶勲有位者トアルハ勲六等以上從六位以上ヲ指シタル儀ト可相心得事
明治十六年五月八日

○華族罪ヲ犯シ拘留シタル時宮内省へ通牒方十六年十一月八日
司法省達丁第三拾二號大審院裁判所

華族ノ地位記ノ有無且戸主屬雖ヲ犯シ拘留シタル時ハ自令其院裁判所ヨリ直ニ宮内省へ通牒シ猶刑ノ言渡ヲ爲シタル時
居子第ニ拘ハラス
ハ其宣告書ノ附本ヲ添へ是亦同機速ニ可致通牒此旨相達候事

○刑事裁判所ニ於テ被告人ヲ責付スルノ手續十四年九月二十日
布告第四拾七號

刑事裁判所ニ於テ被告人ヲ責付スルニハ左ノ手續ニ從フヘシ此旨布告候事

第一條 被告人ヲ責付スルニハ親屬又ハ故舊ヨリ何時ニテモ呼出ニ應シ出廷セシムヘキ
ノ證書ヲ其裁判所書記局ニ差出サシムヘシ

第二條 責付中被告人ヲ呼出ス時ハ出廷ヨリ二十四時前ニ其通知ヲ爲スヘシ

第三條 被告人呼出ヲ受ケ正當ノ事由ナクシテ出廷セサル時ハ檢事ノ意見ヲ聽キ責付ヲ
取消スヘシ

○保釋責付中ノ被告人取締方心得十六年十一月五日
司法省達丙第八號警視廳府縣

保釋責付中ノ被告人取締方心得ノ儀ニ付左ノ通各裁判所へ相達候條此旨爲心得相達候事

丁第三十一號

裁 判 所

保釋責付ヲ得タル被告人ハ左ノ取締條件ニ服從セシム可キ儀ニ付キ保釋責付ヲ爲スノ際其旨ヲ被告人ニ豫知セシム可シ
但其言渡書ノ紙尾ニ記載印刷スルモ妨ケナシ

第一條 治罪法第二十一條ニ從ヒ保釋所ヲ定メ居置ク可キトハ言ヲ待タス其裁判所ノ管轄地外ニ旅行スルト得ス若シ
已ムヲ得サル事由アルハ其旨ヲ檢事ニ申立テ許可ヲ受ク可シ

第二條 裁判所ノ管轄地内ト雖モ住所外ニ於テ一泊以上滞在スルハ滞在ノ場所ヲ其家族又ハ同居人ニ通知シ置ク可シ
若シ同居人アラサルトキハ其住所ノ地ノ戸長ニ届置ク可シ

第三條 代言人辯護人又ハ代人トシテ法廷ニ出頭シ其他議會集會等公然ノ場所ニ參會スルト得ス

第四條 治罪法第百二十一條ニ適當スル者及ヒ前收條ノ規則ニ背キタル者ハ治罪法第二百十六條第二項ニ從ヒ保釋ヲ取
消ス可シ其責付ヲ受ケタル者モ亦同シ

右相達候事

○郵便犯則者ニ對スル未納稅不足稅等徵收方十七年八月十三日
司法省達丙第三號大審院裁判所警視廳府縣(京

府ヲ除ク)
憲兵本部
郵便犯則者ニ對スル未納稅不足稅等徵收方ノ儀ニ付太政官ヨリ左ノ通御達有之候條此旨相達候事

司 法 省

驛遞局ヨリ郵便犯則者ヲ告訴スルト併シテ未納稅不足稅等ノ徵收ヲ請求スルトキハ其請求ニ應シ之ヲ受理スヘキ儀ト可
心得此旨相達候事

明治十七年七月二十三日

大政大臣三條實美

○醫師タル者醫業ニ關スル犯罪有之節内務省へ通知方十五年八月二十一日
司法省達丁第四拾貳號大審院裁判所

本年八月第三拾九號公布ニ依リ今般内務卿ヨリ照會ノ趣モ有之候ニ付テハ自令醫師タル者醫業ニ關スル犯罪有之處斷致シ
候節ハ其都度該宣告文附本相添内務省へ通知候様可致此旨相達候事

第十八類 第二章 治罪

千七十九

○醫師醫業ニ關シテ罪ヲ犯シ處斷セシキ内務省へ通知方再達 十六年十二月二十八日 司法省達丁第三拾九號大審院
所裁判

本年第三拾五號布告ヲ以テ明治十五年第三拾九號布告被廢候ニ付同年當省丁第四拾貳號達ハ自然消滅ノ處今般内務卿ヨ
リ更ニ照會ノ趣モ有之候條同省へ通牒方從前ノ通り可取計此旨相達候事

○西洋形船舶長運轉手機關手免狀ヲ有スル者罪ヲ犯シ輕罪以上ノ刑ニ處シタル節農商務省
へ通牒方 十六年七月五日 司法省達丁第貳拾壹號大審院裁判所

明治十四年十二月 第七拾五號公布西洋形船舶長運轉手機關手免狀規則ニ據リ免狀ヲ有スル者罪ヲ犯シ輕罪以上ノ刑ニ處シ
タル節ハ刑名並ニ宣告ノ月日ヲ詳記シ其都度直ニ農商務省へ通牒スヘシ此旨相達候事

○陸軍常備下士卒服役中違警罪ヲ犯シ處分セシキ本人所管へ通報方 十六年八月七日 司法省達丙第六號府縣
（東京府 ヲ除ク）

陸軍常備下士卒服役中ノ者違警罪ヲ犯シ其處分ヲ爲シタル節ハ其人名罰科ヲ詳記シ其都度本人所管 隊附ナレハ連ニ通報
可致此旨相達候事

○海軍軍人軍屬犯罪者送致方 二十二年十一月七日 司法省訓令刑甲第四三二號裁判所警視廳北海道廳府縣（東京府
ヲ除ク）憲兵 司令部

海軍軍人軍屬ノ犯罪者ヲ逮捕シタル時ハ從來橫須賀鎮守府軍法會議へ送致シ來リタル處明治二十二年七月東京吳佐世
保ノ各地ニ軍法會議開設後モ仍ホ橫須賀へ向送致シ來リ候モノ有之趣自今海軍軍法會議ノ管轄ニ屬スル犯罪者ヲ逮捕
シ或ハ其自首ヲ受ケタル時ハ其最近ノ軍法會議若クハ被告人ノ所屬長ニ送致スヘキ儀ト心得ヘシ
但シ海軍諸官ヨリ逮捕ヲ囑托シタル者ハ其囑托シタル諸官ニ送致スル義ト心得ヘシ

右訓令ス

○獸醫及獸類傳染病豫防規則ニ違犯ノ者處分ノ節農商務省へ通牒方 二十年十二月二十三日 司法省訓令第十號裁判所
十八年八月第二十八號布告及十九年九月第十一號農商務省令ニ依リ今般農商務省ヨリ照會ノ趣モ有之候ニ付テハ自今獸
醫免許規則第十四條並獸類傳染病豫防規則第十九條ノ犯罪其他刑法ニ正條アル獸醫ノ犯罪處斷致候節ハ其都度裁判宣告
文牒本相添へ農商務省へ通知スヘシ

○犯罪又ハ犯則ニ依リ沒收ノ物件地方廳へ引繼處分方 十八年十一月二十六日 太政官達第六十三號府縣
裁判所ニ於テ犯罪又ハ犯則ニ依リ沒收シタル物件ハ自今都テ地方廳ニ引繼地方廳ニ於テ便宜之ヲ賣却スヘシ此旨相達候事

○犯罪又ハ犯則ニヨリ沒收シタル物件取扱手續 十九年四月十九日 大藏省訓令第三號北海道廳府縣
明治十八年十一月太政官第六十三號違犯罪又ハ犯則ニヨリ沒收シタル物件ハ左ノ手續ニ據リ取り扱フヘシ

第一項 裁判所ヨリ沒收物件引渡ノ通知ヲ得タルトキハ其物件受取ノ手續ヲ爲シ物件ノ性質ニ從ヒ得失ヲ量リ其應ニ
取寄セ又ハ其所在地ノ戶長ニ保管セシムヘシ

第二項 沒收ノ物件ハ裁判所ヨリ受取タル後三箇月以内ニ於テ公賣ニ付スヘシ但公賣ノ場所ハ物件所在ノ地ニ限ラス
總テ適當ノ地ヲ選定スルモノトス

第三項 沒收物件中官廳ノ烙印アルモノハ公賣ニ付スル前其烙印ヲ削除スヘシ

第四項 公賣ノ方法ハ入札拂若クハ競賣ニ據ルヘシ

第五項 沒收ノ物件公賣ニ付スルモ買受人ナキカ若クハ代價相當ノ價格ニ達セサルトキハ公賣ヲ停止シ爾後三箇月以
内ニ於テ更ニ公賣ニ付スヘシ

第六項 沒收物件中毀損腐敗ニ係リ若クハ物品輕微ニシテ公賣ニ付スルモ價值ナシト認ムルモノ或ハ運搬費置場敷料
ヲ要シ公賣スルモ其得失相償ハサルモノ或ハ第五項期限内ニ於テ公賣ニ付スルモ買受人ナク若クハ代價不相償ニシ
テ公賣ヲ停止シタルモノハ適宜處分スヘシ

第七項 沒收物件中其物品取扱上特ニ成規アルモノハ各主管廳ノ指揮ニ據リ之ヲ處分スヘシ

千八十二

○司法警察規則附錄

十九年九月二十九日
太政官達第百二十八號(使)府縣

本年第十四號ヲ以テ相達候司法警察規則附錄別紙之通相定候條此旨相達候事
(別紙)

司法警察規則附錄

外國公使及ヒ公使館屬員ノ事

第一條 外國公使ハ我國憲ヲ以テ羈縻スヘカラサル通義ナレハ是ヲ擴充スル時ハ其家屬並ニ公使館屬員書記官附員公使ノ僕隸書記官ノ家族及ヒ書記官ノ僕隸等總テ公使館ノ名籍ニアル者ヲ云フ及ヒ其家屋車馬迄モ同様ナリト思量スヘシ

第二條 內國人公使館又ハ公使ノ書記官ニ備ハレ公使館ノ名籍ニ在ル間ハ公使館ノ屬隸ト見做シ若シ事故アリテ逮捕セサルヲ得サルカ或ハ呼出シテ糾問セサルヲ得サル時ハ外務省ヲ歷テ公使館ヘ報知シ其唯諾ヲ待チテ後引出スヘシ尤其者ヲ處分スルハ公使ノ關係スルニニアラス

第三條 內國人各公使館及書記官ニ備ハレ中ハ其公使又ハ代理ヨリ其者ノ名籍ヲ外務省ヘ届出外務省ハ其届書ヲ速ニ司法警察官吏ヘ送達シ置ヘシ警察官吏ハ常ニ其姓名ヲ簿記シ置ヘシ若シ途中ニテ或ル人ヲ引留其名籍ノ在ル處ヲ聞糺ス時公使館ニ備ハレ中ト稱スル時其簿記ト校照シ愈相違ナキハ一旦公使館迄同道シ照會ヲ遂ケタル後其處分ヲ施スヘシ若其姓名簿記中ニ在ラサル者ニテモ其本人決シテ相違ナキ旨ヲ述ル時ハ公使館ヘ同道シ

右ノ如ク處置スヘシ

但シ重科ニテ捕縛セサルヲ得サル者ハ第六條ニ照シテ處分スヘシ

外國公使館ノ事

第四條 外國公使館内ハ事故アリテ館主ヨリ請求スル時ノ外決シテ立入ルヘカラス若シ重科ヲ犯シタル罪人ト見留タル者奔逃シテ門内ヘ匿入セシ等毫髮ノ間モ猶豫スヘカラサル時ハ其把門者ニ告ケ其館主ノ許可ヲ受ケテ後館内又ハ邸内ヲ探索スヘシ

第五條 右公使館書記官ノ住宅内ニ在ル内外屬員ハ勿論馬車家畜ノ末ニ至ル迄一切手ヲ觸ルヘカラス若シ職務上止ムヲ得ス手ヲ降スヘキ事故アラハ是ヲ外務省ニ打合セ而シテ其處分ヲ爲スヘシ

外國公使館屬員罪ヲ犯シ並犯罪ノ內國人公使館ニ住居スル時ノ事

第六條 外國公使館ノ屬員ナル外國人殺傷或ハ剽盜放火強姦等目前ニ顯ハレタル罪ヲ公使館外ニテ現ニ行フ見及フカ或ハ現ニ見スト雖モ衆人ヨリ報告シ確證アリテ片時モ猶豫ナシカタヤ時ハ其人ヲ其場ニ引留置即刻公使館ヘ報知ノ上同館ヘ引渡シ又外務省ヘ報知シ是ヲ公使館ニ引渡セシ手續ヲ申スヘシ決シテ手鎖捕縛等ノ事アル可ラス或ハ屬員ノ內國人ハ引留置即刻公使館ヘ報知シ改メテ彼レヨリ引渡ヲ受クルノ手順ヲ施シ又コレヲ外務省ニ申ヘシ

第七條 犯罪ノ風聞アルカ或ハ他人ノ白狀ヨリ明了ニ其罪科ノ知レタル內國人現ニ公使館

内ニ備ハレテ公使館ニ住居スル時ハ其館外周圍ノ各路ヲ遮斷シ而後外務省ヘ報知シ同館
ヘ照會ヲ乞館主ニ引渡シヲ要求シ其人ヲ受取リテ後之ヲ捕縛ス可シ若シ館主之ヲ拒ムル
ハ其旨ヲ猶外務省ヘ報知シテ其處分ヲ定ム可シ

○司法警察ニ關スル細則ヲ設ントスルトキ檢事ニ協議セシム
十九年四月三十日 司法省訓令第一號 警視廳北海
道廳府縣(東
京府ヲ除ク)

爾後各地方ノ便宜ニ基キ司法警察ニ關スル細則ヲ設ケントスルトキハ其地始審裁判所檢事ト協議ノ上皆達スヘシ
右訓令ス

○憲兵將校下士ハ司法警察官トシ卒ハ巡查ト同ク司法警察ノ事務ヲ行
ハシム
十五年五月十三日 布告第貳拾三號

憲兵ヲ設置シタル地方ニ於テハ其將校下士ハ司法警察官トシ卒ハ巡查ト同シク司法警察
ノ事ヲ行ハシム

右奉 勅旨布告候事

○司法警察上巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシム
十四年十月十日 司法省布達甲第五號
新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシムル儀モ可有之候條此旨布達候事

○司法警察上巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシムルヲ許ス
十四年十月十日 司法省達丙第拾三
號 警視廳府縣(東京府ヲ除ク)
新法實施ノ後ハ司法警察事務上時宜ニ依リ不得止場合ニ於テハ巡查ヲシテ警部ノ代理ヲ爲サシム不苦候條此旨相達候事
但代理ヲ命スヘキ巡查ノ姓名ハ豫シメ其地方輕罪并遠審罪裁判所ヘ通牒致シ置候條ト心得ヘシ

○巡查ニテ警部代理ノ資格ヲ以テ取扱タル事件ニ付テハ警部同様ノ取扱ヲ爲サシム
十六年
十四日 司法省達丁第
九號 大審院裁判所
明治十四年十月當省甲第五號布達ニ據リ巡查ニ於テ警部代理ノ資格ヲ以テ取扱事件ニ付テハ裁判上準テ警部同様ノ取扱ヲ
爲スヘシ此旨相達候事

但從前ノ指令内訓本文ニ抵觸スル條件ハ取消候事

○陸軍省所管ノ軍人軍屬逃走之者捕縛遞送方
五年六月二十九日 布告第百九拾五號
陸軍省所管ノ軍人軍屬逃走之者各府縣ニ於テ見當リ候ハ、致捕縛府縣送リヲ以テ其地方所
管ノ鎮臺本營或ハ分營ヘ護送可致候此旨相達候事

○逃亡犯罪人引渡條例
二十年八月三日 勅令第四十二號
朕逃亡犯罪人引渡條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第四十二號

逃亡犯罪人引渡條例

第一條 本條例ニ於テ締約國ト稱スルハ既ニ帝國ト犯罪人引渡條約ヲ締結シ若クハ今後
締結スル外國ヲ謂フ

引渡犯罪ト稱スルハ外國ト締結シタル犯罪人引渡條約ニ掲クル犯罪ヲ謂フ

逃亡犯罪人ト稱スルハ締約國ノ管轄内ニ於テ犯シタル引渡犯罪ニ付告訴告發ヲ受ケ若
クハ有罪ノ宣告ヲ受ケタル帝國臣民外ノ人ニシテ帝國ノ管轄内ニ逃避シタル者又ハ逃

第十八類 第二章 逃亡犯罪人

避シタルノ嫌疑若クハ逃避セントスルノ嫌疑アル者ヲ謂フ但左ノ場合ニ於テハ帝國臣民ヲ包含ス

一 帝國ト請求國トノ犯罪人引渡條約ニ交互其臣民ノ引渡ヲ爲スヘキ條款アルトキ

二 犯罪人引渡條約ニ交互ノ任意ヲ以テ其臣民ノ引渡請求ニ應スルコトアルヘキ旨ノ

條款アリ且請求國ニ於テ同様ノ場合ニハ自國ノ臣民ヲ引渡スヘキ旨ヲ申出テタルトキ

第二條 締約國ヨリ逃亡犯罪人ノ引渡請求アリ之カ引渡ノ目的ヲ以テ其手續ヲ爲ストキ

ハ本條例ニ定ムル所ノ條款ニ據ルヘキモノトス

第三條 左ノ場合ニ於テハ逃亡犯罪人ヲ引渡スコトヲ得ス

一 引渡ノ請求ニ係ル者ノ所犯政事上ノ犯罪ナルトキ

二 引渡ノ請求ハ實際政事上ノ犯罪ニ付審問シ若クハ處刑セントスルノ目的ニ出テタル旨ヲ本人ニ於テ證明シタルトキ

第四條 逃亡犯罪人其引渡請求ニ係ル犯罪外ノ事件ニ付帝國内ニ於テ告訴發シ受ケ又

ハ處刑中ナルトキハ無罪又ハ刑期滿限若クハ其他ノ事由ニ因リ釋放セラレタル後ニア

ラサレハ之ヲ引渡スコトヲ得ス

第五條 帝國ト外國ト犯罪人引渡條約ヲ締結シタルトキハ逃亡犯罪人ノ犯事其締約以前

ニ係ルト雖モ該締約國ノ請求ニ應シ其引渡ヲ爲スコトアルヘシ

第六條 引渡犯罪ニ付帝國裁判所ニ於テ締約國裁判所ト均シク裁判權ヲ有スト雖モ若シ

司法大臣ノ意見ニ於テ其審判ヲ便ナラシメンカ爲メ逃亡犯罪人ノ引渡ヲ可トスルトキハ之ヲ引渡スコトアルヘシ

第七條 本條例ニ據リ發シタル總テノ逮捕狀ハ帝國内何レノ地ニ於テモ効力アルモノトス

第八條 一逃亡犯罪人ヲ二國以上ノ締約國ヨリ各其國ニ於テ犯シタル罪ノ爲メ引渡請求

ヲ爲シタルトキハ最初請求ヲ爲シタル國ニ之ヲ引渡スヘシ但其請求ヲ爲シタル締約國

間ニ特別ノ約束若クハ協議アル場合ハ此限ニ在ラス

第九條 司法大臣ハ外務大臣ノ請求ニ依リ一名若クハ二名以上ノ上席檢事ニ命シ逃亡犯

罪人ヲ假ニ逮捕スル爲メ附錄第一號書式ニ依リ假逮捕狀ヲ發セシムルコトヲ得

外務大臣ハ締約國ヨリ相當ノ順序ヲ經由シ書面又ハ電信ヲ以テ逃亡犯罪人ヲ逮捕スル

爲メ既ニ逮捕狀ヲ發シタルコトノ通知ト其引渡ハ正式ニ依リ請求スヘキ旨ノ保證トニ

接シタル後ニ限リ本條ノ請求ヲ爲スヘシ

第十條 假逮捕狀ニ據リ逃亡犯罪人ヲ逮捕シタル場合ニ於テ二月ヲ過キサル相當ノ期限

内ニ其引渡ノ請求ナキトキハ之ヲ釋放スヘシ但此場合ニ於テ逮捕シタル者ヲ釋放スル

モ再ヒ之ヲ逮捕シ及引渡スコトヲ妨ケサルモノトス

假逮捕狀ニ據リ逮捕シタル者ノ引渡請求アリタルトキハ更ニ附錄第二號書式ノ逮捕狀

ヲ發シ假逮捕狀ト交換スヘシ

第十一條 第九條ニ定メタル例外ノ場合ヲ除クノ外ハ引渡請求ヲ爲シタル國トノ條約ニ

第十八類 第二章 逃亡犯罪人

定メタル相當ノ順序ヲ經由シ左ノ書類ヲ添ヘ引渡ノ請求アリタル後ニアラサレハ何人
ヲモ引渡ノ目的ヲ以テ逮捕スルコトヲ得ス

一 告訴告發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ其所犯ニ付訴アリタル國ノ相當官吏ニ於テ
發シタリト認メ得ヘキ逮捕狀ノ公寫及該逮捕狀ヲ發スルノ根據ト爲リタル口供書
若クハ陳述書ノ公寫

二 有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ其宣告ヲ爲シタル裁判所ノ證印アル宣告
書ノ寫

第十二條 外務大臣引渡請求書ニ接シ犯罪人引渡條約ノ條款ニ適合シタリト思量スルト
キハ該請求書ニ其關係書類ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ送付スヘシ

司法大臣本條ノ請求ニ接シ妥當ノ事由アル請求ト思量スルトキハ逃亡犯罪人ノ所在又
ハ其到着スヘシト認ムル地ノ上席檢事ニ命シ逮捕狀ヲ發セシムヘシ

第十三條 上席檢事前條ニ掲ケタル司法大臣ノ命令ニ接シタルトキハ附録第二號書式ニ
依リ逮捕狀ヲ發スヘシ

第十四條 請求ニ係ル逃亡犯罪人ヲ逮捕シ若クハ假逮捕シタルトキハ其逮捕狀ヲ發シタ
ル上席檢事又ハ之ヲ逮捕シタル地ノ上席檢事ニ引渡スヘシ

上席檢事ハ逃亡犯罪人逮捕ノ顛末ヲ直ニ司法大臣ニ具申スヘシ
司法大臣上席檢事ノ具申ニ接シタルトキ引渡請求書アレハ其寫及附屬書類ヲ速ニ該檢

事ニ送付スヘシ但被告人ヲ釋放スヘキノ命令ヲ發スルトキハ此手續ヲ爲スニ及ハス

第十五條 告訴告發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ上席檢事ハ速ニ之ヲ訊問シ其人違ナキ

コト及引渡請求書ニ附屬セル書類ノ確實公正ナルコトヲ認定スヘシ但上席檢事該書類ノ
ミニテハ證據不充分ナリト認ムルトキハ仍ホ被告人ノ犯罪ニ對スル證據ヲ取ルコトヲ得
有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ上席檢事ハ速ニ之ヲ訊問シ其人違ナキコト及
其引渡ヲ請求シタル締約國ノ相當裁判所ニ於テ宣告ヲ爲シタルノ確實ナルコトヲ認定
スヘシ

第十六條 上席檢事被告人ノ訊問ヲ結了シタルトキハ訊問書ニ其處分方ニ關スル意見書
ヲ添ヘ之ヲ司法大臣ニ具申スヘシ但上席檢事ハ之ト共ニ引渡請求書寫及附屬書類ヲ返
却スヘシ

司法大臣該檢事ノ具申ニ接シタルトキハ附録第三號書式ニ依リ引渡狀ヲ發スルカ又ハ
逮捕シタル者ヲ釋放スヘシ

第十七條 逃亡犯罪人ハ逮捕狀ニ據リ逮捕セラレタル後二月以上留置セラルハコトナカ
ルヘシ

第十八條 司法大臣ハ左ノ場合ニ限り引渡狀ヲ發スルコトヲ得

一 引渡犯罪ニ付告訴告發ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ若シ其告訴告發ヲ受ケタル罪
ヲ帝國内ニ於テ犯シタルモノトセハ帝國ノ法律ニ據リ被告人ヲ審判ニ付スルニ充

分ナル犯罪ノ證據アリト認メタルトキ

二 有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ノ場合ニ於テハ相當裁判所ニ於テ其宣告ヲ爲シタルコトヲ認メタルトキ

第十九條 闕席裁判ニ由リ有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ハ其引渡ヲ請求シタル締約國トノ間ニ特別ノ約款アルニ非サレハ本條例ニ於テハ之ヲ告訴告發ヲ受ケタル者ト爲シ有罪ノ宣告ヲ受ケタル者ト認メス

第二十條 逮捕シタル者ヲ釋放シ又ハ其引渡ノ爲メ引渡狀ヲ發シタルトキハ司法大臣ハ引渡ノ請求書及附屬書類ニ其執行シタル手續及其理由ノ略記ヲ添ヘ之ヲ外務大臣ニ返付スヘシ
第二十一條 引渡狀ヲ發シタル後何人ヲモ一月以上留置スルコトヲ得ス但此期限内ニ之ヲ帝國外ニ引取ラサルトキハ請求國相當官吏ニ於テ正當ノ事由ヲ示スニアラサレハ釋放スヘシ

第二十二條 逃亡犯罪人ヲ引渡ストキハ其逮捕ノ際差押ヘタル本人ノ携帶品ハ正當ノ理由アルニアラサレハ其引渡ノ節本人ト共ニ悉ク之ヲ交付スヘシ

第二十三條 司法大臣ハ外務大臣ノ請求ニ依リ一外國ヨリ他ノ外國ニ引渡シタル者ノ帝國内海陸ノ通行ヲ認可スルコトヲ得
本條ノ請求ハ引渡ヲ受クヘキ國ノ政府ヨリ引渡狀ノ公寫ヲ添ヘ相當ノ順序ヲ經由シタル照會書ヲ外務大臣ニ於テ受領シタルトキニ限ル但帝國ト請求國トノ間ニ特別ノ約款

ナキトキハ該照會書ノ外仍ホ請求國ノ政府ニ於テ之ト同一ノ場合即チ第三國ヨリ帝國ニ逃亡犯罪人ヲ引渡シタル場合ニ該請求國內海陸ノ通行ヲ均シク認可スヘキノ保證ヲ爲シタルトキニ限ル
附錄

第一號書式

假逮捕狀

逮捕セラルヘキ者ノ氏名
年 齡 本 質 住 所
司法大臣ノ命令ヲ受ケ逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此假逮捕狀ヲ發シ右ニ掲タル、、、ニ於テ、、、ノ犯罪ニ付 告訴 有罪ノ宣告 ヲ受タル、、、ノ國ノ逃亡犯罪人、、、ヲ法律ニ遵ヒ處分スル爲メ逮捕スヘキコトヲ命スルモ也

假逮捕狀 逮捕セラルヘキ者ノ氏名 年 齡 本 質 住 所		逮捕ヲ受ケタル者ノ姓名 若シ之ヲ得ル能ハサルトキハ其理由ヲ記スヘシ	
執 行 日 時	執 行 所	執 行 手 續	家 宅 ヲ 搜 索 シ タ ル ト キ ハ 其 事 實 ヲ 記 ス ヘ シ
右ノ通執行候也 明治 年 月 日 巡查又ハ憲兵署名捺印		逮捕ヲ受ケタル者ノ姓名 若シ之ヲ得ル能ハサルトキハ其理由ヲ記スヘシ	

檢事局
明治 年 月 日
上席檢事署名捺印
裁判所書記署名捺印

割印

(此状ヲ送達シ一
葉ヲ受取人ニ渡
スヘシ)

英譯文ヲ此状ノ
裏面ニ記スヘシ

假逮捕状

逮捕セラルヘキ者ノ氏名
年齢本質住所

司法大臣ノ命令ヲ受ケ逃亡犯罪人引渡條例ニ
據リ此假逮捕状ヲ發シ右ニ掲タル、、、ニ
於テ、、、ノ犯罪ニ付 告訴
有罪ノ宣告 ヲ受タル、、
、國ノ逃亡犯罪人、、、ヲ法律ニ遵ヒ處分
スル爲メ逮捕スヘキコトヲ命スルモノ也

檢事局
明治 年月 日
印

上席檢事署名捺印

裁判所書記署名捺印

逮捕ヲ受タル者ノ姓名若シ之ヲ得ル能ハサルトキハ其理由ヲ記スヘシ	執行ノ年月日時	執行ノ場所	執行ノ手續	家宅ヲ搜索シタルトキハ其事實ヲ記スヘシ	右ノ通執行候也 明治 年月 日 巡查又ハ憲兵署名捺印
---------------------------------	---------	-------	-------	---------------------	----------------------------------

式書號二第

逮捕状

逮捕セラルヘキ者ノ氏名
年齢本質住所

司法大臣ノ命令ヲ受ケ逃亡犯罪人引渡條例ニ
據リ此逮捕状ヲ發シ右ニ掲タル、、、ニ於
テ、、、ノ犯罪ニ付 告訴
有罪ノ宣告 ヲ受タル、、
、國ノ逃亡犯罪人、、、ヲ法律ニ遵ヒ處分
スル爲メ逮捕スヘキコトヲ命スルモノ也

檢事局
明治 年月 日
印

上席檢事署名捺印

裁判所書記署名捺印

逮捕ヲ受タル者ノ姓名若シ之ヲ得ル能ハサルトキハ其理由ヲ記スヘシ	執行ノ年月日時	執行ノ場所	執行ノ手續	家宅ヲ搜索シタルトキハ其事實ヲ記スヘシ	右ノ通執行候也 明治 年月 日 巡查又ハ憲兵署名捺印
---------------------------------	---------	-------	-------	---------------------	----------------------------------

割印

(此状ヲ送達シ一
葉ヲ受取人ニ渡
スヘシ)

英譯文ヲ此状ノ
裏面ニ記スヘシ

逮捕状

逮捕セラルヘキ者ノ氏名
 年齢本質住所
 司法大臣ノ命令ヲ受ケ逃亡犯罪人引渡條例ニ
 據リ此逮捕状ヲ發シ右ニ掲タル、、、ニ於
 テ、、、ノ犯罪ニ付^{告發}有罪ノ宣告^{告發}ヲ受タル、、、
 國ノ逃亡犯罪人、、、ヲ法律ニ遵ヒ處分ス
 ル爲メ逮捕スヘキコトヲ命スルモノ也

検事局
 明治 年 月 日
 印

上席検事署名捺印

裁判所書記署名捺印

逮捕ヲ受タル者ノ署
 名若シ之ヲ得ル能ハ
 サルトキハ其理由ヲ
 記スヘシ

執行ノ 年月日時	執行ノ 場所	執行ノ 手續	家宅ヲ搜索シタルト キハ其事實ヲ記スヘシ

右ノ通執行候也

明治 年 月 日

巡查又ハ憲兵署名捺印

引渡状

引渡サルヘキ者ノ氏名
 年齢本質住所
 逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此引渡状ヲ發シ明

執行ノ 年月日時	

式書號三第

治、、年、、月、、日附ノ^假逮捕状ニ據リ、、
 國ニ於テ、、ノ犯罪ニ付^{告發}有罪ノ宣告^{告發}ヲ受タル逃
 亡犯罪人トシテ明治、、年、、月、、日逮捕
 シタル右、、ヲ受取コトヲ相當ニ命セラレタ
 ル、、ニ之ヲ引渡スヘキコトヲ命ス因テ該受
 取人、、ニ於テ右、、ヲ監禁シ、、國ノ管轄
 内ニ送致シ相當官吏ニ交付スルコトヲ命スル
 モノ也

明治 年 月 日 司法大臣、、、
 印

割印

(此状ヲ送達シ一
 葉ヲ受取人ニ渡
 スヘシ)

英譯文ヲ此状ノ
 裏面ニ記スヘシ

執行シタル 場所	受取人ノ 署名	右ノ通執行候也

明治 年 月 日

引渡サルヘキ
 者ヲ^明監シタル
 ノ署名捺印

引渡状

引渡サルヘキ者ノ氏名
 年齢本質住所
 逃亡犯罪人引渡條例ニ據リ此引渡状ヲ發シ明

執行ノ 年月日時	

第十八類 第二章 逃亡犯罪人

治、年、月、日附ノ逮捕狀ニ據リ、
 國ニ於テ、ノ犯罪ニ付告發有罪ノ宣告ヲ受タル逃
 亡犯罪人トシテ明治、年、月、日逮捕
 シタル右、ヲ受取コトヲ相當ニ命セラレタ
 ル、ニ之ヲ引渡スヘキコトヲ命ス因テ該受
 取人、ニ於テ右、ヲ監禁シ、國ノ管轄
 内ニ送致シ相當官吏ニ交付スルコトヲ命スル
 モノ也

明治 年 月 日 司法大臣、
 印

執行シタル 場所	受取人ノ 署名	右ノ通執行候也
		明治 年 月 日

引渡サルヘキ
者ヲ留置シタ
ル監獄ノ典獄
ノ署名捺印

千九十六

第十九類

第一章 監獄 看守監獄傭人

○監獄則二十二年七月十二日
勅令第九十三號

朕監獄則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第九十三號

監獄則

第一條 監獄ヲ別テ左ノ六種ト爲ス

- 一 集治監 徒刑流刑及舊法懲役終身ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス
- 二 假留監 徒刑流刑ニ處セラレタル者ヲ集治監ニ發遣スル迄拘禁スル所トス
- 三 地方監獄 拘留禁錮禁獄懲役ニ處セラレタル者及婦女ニシテ徒刑ニ處セラレタル者
ヲ拘禁スル所トス
- 四 拘置監 刑事被告人ヲ拘禁スル所トス
- 五 留置場 刑事被告人ヲ一時留置スル所トス但警察署内ノ留置場ニ於テハ罰金ヲ禁錮
ニ換フル者及拘留ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルコトヲ得
- 六 懲治場 不論罪ニ係ル幼者及瘠羸者ヲ懲治スル所トス

第十九類 第一章 監獄

千九十七

第二條 監獄ハ内務大臣ノ監督ニ屬ス

千九十八

第三條 集治監^{北海道ニ在ルモノヲ除ク}及假留監ハ内務大臣之ヲ管理シ其他ノ監獄ハ警視總監北海道廳長官府縣知事^{東京府ヲ除ク}之ヲ管理ス

第四條 内務大臣ハ隨時監獄巡閱官ヲシテ各監獄ヲ巡閱セシムヘシ

警視總監北海道廳長官府縣知事^{東京府ヲ除ク}ハ每年少クトモ一回所轄ノ監獄ヲ巡閱スヘシ

裁判官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル拘留監ヲ巡視スヘシ

檢察官ハ時々其裁判所管轄内ニ在ル監獄ヲ巡視スヘシ

第五條 府縣會議員ハ臨時其府縣所轄ノ監獄ヲ巡見スルコトヲ得

第六條 新ニ入監スル者アルトキハ典獄先ツ令狀又ハ宣告書ヲ査閱シテ之ヲ領シ其領收證ヲ引致シ來リタル者ニ交付シタル後入監セシムヘシ其文書ナクシテ引致セラレタル者ヲ入監セシムルコトヲ得ス

第七條 在監ノ婦女其子ヲ乳養セント請フトキハ其齡滿二歳ニ至ル迄之ヲ許ス

第八條 新ニ入監スル者ノ携有スル財貨物件ハ典獄悉ク點檢シテ之ヲ領置スヘシ

第九條 水火風震等非常ノ變災ニ際シ監獄圍内ニ於テ避災ノ手段ナシト考定スルトキハ典獄ハ其狀況ニ依リ在監ノ囚人懲治人及刑事被告人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避ケシムヘシ若シ押送スルノ適ナキトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得

解放ニ遭ヒタル者ハ其時ヨリ二十四時以内ニ監署又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ツヘシ

第十條 滿期ノ者ヲ釋放スルハ其滿期ノ翌日午前十時ヲ過クヘカラス

第十一條 囚人ハ各罪質ニ從テ嚴ニ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ左ノ如ク別異ス

一 滿十二歳以上十六歳未滿ノ者

二 滿十六歳以上二十歳未滿ノ者

三 滿二十歳以上ノ者

四 滿十六歳以上二十歳未滿再犯ノ者

五 滿二十歳以上再犯ノ者

第十二條 懲治人ハ左ノ年齡ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

一 滿八歳以上十六歳未滿ノ者

二 滿十六歳以上二十歳未滿ノ者

三 滿二十歳以上ノ者

第十三條 刑事被告人ハ各罪質ニ從テ其監房ヲ別異シ其中ニ就キ年齡ニ從ヒ左ノ如ク別異ス

一 滿十二歳以上十六歳未滿ノ者

二 滿十六歳以上二十歳未滿ノ者

三 滿二十歳以上ノ者

第十四條 地方監獄拘留監懲治場ノ一區畫内ニ在ルモノハ塙壁ヲ以テ之ヲ區畫スヘシ

第十五條 凡ソ監獄ハ男監女監ノ別ヲ嚴隔スヘシ

第十六條 囚人及刑事被告人ヲ裁判所又ハ他監ニ押送スルトキハ男ト女トヲ分チ時宜ニ依リ戒具ヲ用フルコトヲ得但懲治人ニハ戒具ヲ用ヒス

第十七條 定役ニ服スヘキ囚人ノ作業ハ毎囚ノ體力ニ應シテ之ヲ課シ一日ノ科程ヲ定メテ服役セシムヘシ但科程ノ標準ハ内務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十八條 左ニ記載シタル日ハ服役ヲ免ス

一月一日二日 元始祭

孝明天皇祭 紀元節

春季皇靈祭 神武天皇祭

秋季皇靈祭 神嘗祭

天長節 新嘗祭

十二月三十一日

父母ノ喪ニ遭フ者ハ三日免役ス

第十九條 無定役囚ニシテ監獄圍内ニ於テ自ラ作業ヲ爲サント請フトキハ之ヲ許シ作業ノ種類ハ典獄之ヲ指定ス刑事被告人モ亦之ニ準スルコトヲ得

第二十條 懲治人ニハ毎日五時以内農業若クハ工藝ヲ教ヘ力作セシムヘシ

第二十一條 役場ハ男女ノ別ヲ嚴隔シ仍ホ定役囚無定役囚懲治人ノ役場ハ各別ニ之ヲ設ケ

其中ニ就キ丁年以上ノ者ト未丁年者トヲ區別スヘシ

第二十二條 定役ニ服スヘキ囚人現役一百日ヲ經レハ始メテ各自ノ工錢ヲ料定シ之ヲ十分シテ重罪囚ニハ其二分輕罪囚ニハ其四分ヲ與ヘ餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス

無定役囚懲治人及刑事被告人ニシテ作業スル者ノ工錢ハ之ヲ十分シテ其六ヲ與ヘ其餘分ハ監獄ノ費用ニ供ス定役ニ服スル囚人ニシテ科程外ノ作業ヲ爲ス時ノ工錢モ亦之ニ準ス

第二十三條 前條ニ依リ作業者ニ與フヘキ工錢ハ典獄之ヲ領置スヘシ

第二十四條 囚人懲治人及刑事被告人逃走シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ逃走ノ日ヨリ滿一箇年ヲ經テ之ヲ受クヘキ者ナキトキハ監獄慈惠ノ用ニ充ツ刑死者死亡者ノ領置貨物ニシテ受クヘキ者ナキトキモ亦同シ

第二十五條 囚人及懲治人監署ニ領置ノ貨物ヲ以テ其父母妻子ノ扶助及正當ノ費用ニ充ント請フトキハ典獄其事情ヲ取糺シテ之ヲ許可スヘシ

刑事被告人ニ係ルトキハ當該裁判官ノ允許ヲ經ヘシ

第二十六條 囚人及懲治人ノ衣服臥具ハ之ヲ貸與ス但拘留囚ハ自衣ヲ著スルコトヲ得

第二十七條 刑事被告人ノ衣服ハ總テ自辨トシ臥具ハ之ヲ貸與ス若シ臥具ヲ自辨セント請フ者アルトキハ之ヲ許ス赤貧ニシテ衣類ヲ自辨スルコト能ハサル者ニハ之ヲ貸與ス

第二十八條 囚人及懲治人一人一日ノ食糧

一 下白米十分ノ四 七合乃至八合 最モ強キ作業ニ服スル者
麥 十分ノ六

- 一同 五合乃至六合 作業ニ服スル者
- 一同 四合 作業ニ服セサル者
- 一同 三合 十歳未満ノ幼者
- 一茶 金壹錢以下

地方ノ便宜ニ依リ粟稗黍薯ノ類ヲ以テ麥ニ代用スルコトヲ得又麥粟稗黍等ニ乏シキ地方ニ於テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ下白米ノミヲ給スルコトヲ得

刑事被告人モ亦前項ニ準ス但自費ヲ以テ食物ヲ購求セント請フトキハ之ヲ許ス

第二十九條 定役ニ服スル男囚ノ髪ハ常ニ之ヲ短薙シ髭鬚ハ常ニ剃除セシム

定役ニ服スル女囚ノ梳髪ハ膏ヲ用ヒテ裝飾スルコトヲ許サス

第三十條 囚人及懲治人ニハ教誨師ヲシテ悔過遷善ノ道ヲ講セシム

第三十一條 囚人十六歳未満ノ者及懲治人ニハ毎日四時以內讀書習字算術ヲ教フヘシ

第三十二條 囚人懲治人及刑事被告人現行ノ法律命令書ヲ看ント請フトキハ之ヲ許ス

囚人及懲治人書籍ヲ看ント請フトキハ修身宗教教育及營業ニ必要ナルモノニ限り之ヲ許ス

刑事被告人書籍ヲ看ント請フトキハ總テ之ヲ許ス但領置外ノ書籍ハ當該裁判官ノ承認ヲ經ヘキモノトス

新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前二項ノ例ニアラス

第三十三條 囚人其親屬故舊ニ信書ヲ贈ルハ一箇月ニ一次懲治人ハ一箇月ニ二次トシ共ニ一通ニ過クルコトヲ得ス但官司ノ訊問等ニ由テ書信ヲ要スルトキ又ハ親屬故舊ニ回答セ

ント請ヒ典獄ニ於テ之ヲ必要ト認メタルトキハ此限ニ在ラス

第三十四條 囚人及懲治人ノ發スル信書又ハ外人ヨリ送リ來ル信書ハ典獄之ヲ檢閱スヘシ若シ書中不正不良ニ涉リ又ハ其改悛ヲ妨クルモノト認ムルトキハ之ヲ發贈付與スルコトヲ許サス但刑事被告人ニ係ル信書ハ總テ當該裁判官ノ檢閱ヲ經ヘキモノトス

第三十五條 囚人懲治人及刑事被告人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄ノ立會ヲ以テ之ヲ許スヘシ但典獄ニ於テ形跡ノ疑フヘキコトアリト認ムルトキハ之ヲ許サ、ルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ受ケタル者ハ裁判言渡アル迄辯護人ヲ除ク

ノ外其現在地ノ裁判所長ノ允許ヲ受クヘク密室監禁者ハ當該裁判官ノ允許ヲ受クヘシ

第三十六條 囚人懲治人及刑事被告人疾病ニ罹ルトキハ病狀ノ輕重ヲ料リ其監房若クハ病室ニ於テ醫療セシム懲治場ニ在ル者ハ情狀ニ由リ其親屬ニ交付スルコトヲ得

第三十七條 囚人懲治人及刑事被告人死亡シタルトキハ典獄看守長醫師ノ立會ヲ以テ之ヲ

檢視シ監署ニ於テ速ニ其本籍ニ通知スヘシ其遺骸ハ親屬若クハ故舊ノ之ヲ請フ者ニ下付

ス但死亡後二十四時以內ニ在テ其下付ヲ請フ者無キトキハ監署ニ於テ之ヲ假葬シ其姓名

ヲ記シタル木柩ヲ立ツヘシ

第十九條 第一章 監獄

千百二

刑死者ハ死相ヲ驗シタル後仍ホ五分時ヲ過サレハ其遺骸ヲ絞架ヨリ解下シ之ヲ埋葬シ若クハ下付スルコトヲ許サス

第三十八條 刑事被告人ニ其親屬故舊ヨリ書類書籍用紙衣服臥具其他必要ノ物品又ハ飲食物ヲ贈ラント請フトキハ之ヲ許ス但書類書籍ハ當該裁判官ノ檢閲ヲ受クヘシ其密室監禁者ニ係ルトキハ他物ニ於テモ亦同シ

新聞紙及時事ノ論說ヲ記スルモノハ前項ノ例ニアラス

第三十九條 囚人及懲治人ニハ現行ノ法律命令書並ニ書籍用紙印紙郵便切手貨幣及内務大臣ニ於テ許可シタルモノヲ除クノ外差入ヲ許サス但書籍ハ第三十二條ニ記載シタル制限ニ從フ

第四十條 囚人獄則ヲ謹守シ作業ニ勉勵シ且改悛ノ行爲アル者ト典獄ニ於テ確認スルトキハ之ヲ賞譽スヘシ

賞譽セシ者ハ之ヲ表スル爲メ賞表ヲ與ヘ獄衣ニ縫著セシムヘシ
賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ憑據ト爲スコトヲ得

第四十一條 賞表ヲ有スル囚人ハ其監房ヲ區別シテ尋常囚人ト別異シ賞表ノ多寡ニ應シテ優遇ヲ爲スヘシ

第四十二條 囚人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ役場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシメ服役時間坐作ノ役ヲ課

ス

二 減食 一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス

三 闇室 闇室ニ入レ一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減シ鹽湯二品ノ外菜ヲ與ヘス仍ホ臥具ヲ禁ス

屏禁ハ二月以内減食ハ一週日以内闇室ハ五晝夜以内トス

第四十三條 囚人十六歳未滿ノ者及懲治人獄則ヲ犯ストキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 獨愼 晝夜一室ニ獨居セシム

二 減食 一日ノ食糧ヲ二合乃至三合ニ減ス

獨愼ハ七晝夜以内減食ハ三日以内トス

第四十四條 減食若クハ闇室ノ罰ニ處スヘキ者アルトキハ醫師ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキヲ證シテ後之ヲ行フヘシ其處罰中ハ醫師ヲシテ毎日之ヲ視察セシメ醫師ニ於テ身體ニ妨アルヲ證スルトキハ處罰ヲ中止スヘシ

第四十五條 無期徒刑ノ囚人重罪ヲ犯シ若クハ逃走シ又ハ獄舍獄具ヲ毀壞シ又ハ暴行脅迫ヲ爲シタルトキハ一年以上五年以下其他ノ輕罪ヲ犯シタルトキハ一年以上一年以下兩州又ハ一脚ニ鈇ヲ施シ仍ホ鐵丸ヲ屬シタル鐵索ヲ其鈇ニ貫キ腰間ニ締帶セシメ締帶ノ所ニ下鍵ス其監房ニ在ルモ晝間ハ仍ホ之ヲ施スモノトス

若シ再ヒ重罪ヲ犯シタルトキハ五年以上十年以下前項ノ例ニ照シテ處罰ス

鐵丸ノ量ハ二百目以上一貫目以下トシ被罰者ノ體力ニ應シテ之ヲ施ス九ハ索尾ニ屬シ地上ヲ轉ハスモノトス若シ外役ニ服スルトキハ鐵丸ヲ除キ二人聯絆ノ法ニ從フ

第四十六條 施欽中ノ者病ニ罹リ醫師ノ診斷ニ依リ欽ノ解除ヲ必要トスルトキハ一時之ヲ解除スルコトヲ得但解除中經過セシ日數ハ施欽期限ニ算入セス

第四十七條 賞表ヲ有スル者處罰ヲ受ケタルトキハ其情狀ニ因リ賞表一箇又ハ數箇ヲ褫奪スルコトアルヘシ

第四十八條 獄則ヲ犯シ罰ニ處セラレタル者改悛ノ狀著シキトキハ處罰中ト雖モ之ヲ免スルコトヲ得

第四十九條 免幽閉ヲ受ケタル流刑ノ者監署ノ命令ニ違背シタルトキハ七日以内之ヲ拘留スルコトヲ得

第五十條 囚人懲治人及刑事被告人司獄官吏ノ處置ニ對シ情苦ヲ訴ヘントスルトキハ第四條ニ記載シタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得

第五十一條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ內務大臣之ヲ定ム

第五十二條 此規則ハ陸海軍ニ屬スル監獄ニ適用セサルモノトス

○監獄則施行細則 二十二年七月十六日 內務省令第八號

監獄則施行細則左ノ通相定ム

監獄則施行細則

第一章 規程

第一條 此細則ニ於テ在監人ト稱スルハ囚人懲治人及刑事被告人ヲ云フ

第二條 新ニ入監スル者アルトキハ先ツ之ニ番號ヲ付シ一小房內ニ於テ通身ヲ検査シ了リテ名簿ニ其要項ヲ詳録シ仍ホ房內揭示ノ事項ヲ説示スヘシ

第三條 各監房內ニハ在監人ノ遵守スヘキ事項ヲ揭示シ傍訓ヲ施シ解シ易カラシムヘシ其事項左ノ如シ

- 一 在監人ハ互ニ和順ヲ主トシ常ニ致令ヲ遵守スヘシ
- 一 教誨聽聞ノ席ニ就クトキハ慎テ容止ヲ正フスヘシ 刑事被告人ヲ拘禁スル監房ニハ此項ヲ除ク
- 一 毎朝常用ノ諸器具ヲ清潔ニシ之ヲ排列シテ點檢ヲ受ケ及厠壁厠圍等ヲ掃除スヘシ
- 一 便器若クハ物件ヲ汚損シ不淨器ノ外ヘ唾ハキ及貯水ヲ濫用スヘカラス
- 一 房外ニ出タル時ハ他人ト手ヲ交ヘ又ハ濫リニ交談スヘカラス
- 一 夜間ハ最モ鎮靜ヲ主トシ說話騷擾又ハ濫リニ起歩スヘカラス但晝間ト雖放歌喧嘩又ハ高聲ニ誦讀シ及隣房ヘ通聲交談スヘカラス
- 一 許可ヲ得サル物品ヲ監房ニ置キ或ハ勝負ヲ爭ヒ若クハ賭博類似ノ遊戲ヲナシ或ハ他人ニ汚辱ヲ被ラシメ猥褻ニ洩ルカ如キ所爲アルヘカラス

- 一 服役中其作業ニ關セサル他事ヲ談話シ及服役セサル時間タリトモ部外ノ役場ニ至ルヘカラス
- 一 許可ヲ得スレテ物件ヲ受授貸借スヘカラス
- 一 監房ニ於テ異常ノ事アレハ晝夜ニ拘ラス直ニ看守所ニ通報スヘシ
- 一 病者アルトキハ同房ノ者共ニ介保シ看病人タル者ハ切實ニ之ヲ看護スヘシ

第四條 領置ノ貨物ハ其名數ヲ簿冊ニ記載シ典獄之ニ壓印スヘシ

領置ノ貨物ハ本人釋放又ハ假出獄免幽閉假出場所時之ヲ下付スヘシ

第五條 領置物品中保存ニ堪ヘ難キモノハ本人ヘ告知ノ上之ヲ密却シテ其代金ヲ領置スルコトヲ得

第六條 入監中外人ヨリ差入タル貨物ニシテ領置スルモノモ亦第四條第五條ノ例ニ依ル

第七條 總テ監房ニ入ル、物品ハ典獄之ヲ點檢シ其危險ノ虞アルモノハ一切之ヲ禁スヘシ

第八條 入監後出房セシメタル者ニ對シテハ還房ノ際通身ノ檢査ヲ爲スヘシ

第九條 通身ノ檢査ハ一人宛之ヲ爲シ他人ヲシテ見セシムヘカラス但役場談話運動場及浴室等ヨリ一時多人數ヲ還房セシムル場合ハ此限ニ非ラス

第十條 男子ノ檢身ハ看守長臨監シ看守之ヲ行ヒ女子ニ係ルトキハ看守長臨監シ女監取締之ヲ行フヘシ

第十一條 典獄看守長ハ日夜不時ニ監獄ノ内外ヲ巡視スヘシ但看守長ノ巡視ハ一晝夜三回以上タルヘシ

第十二條 典獄ハ看守及女監取締ノ警守受持場ヲ定メ晝夜絶ヘス之ヲ巡警セシムヘシ

第十三條 典獄ハ看守長及看守女監取締ヲシテ常ニ在監人ノ行狀ヲ録サシムヘシ但押送途中ニ在テハ押送官吏之ヲ録シテ典獄ニ差出スヘシ

第十四條 看守長ハ毎日二回以上各監房ニ就キ在監人ノ員數ヲ點檢シ毎日一回以上監房ヲ檢査スヘシ

第十五條 囚人及懲治人ノ放免期日ハ入監後典獄直ニ之ヲ調査シテ名簿簿ニ記入シ仍ホ本人ニ告知スヘシ

第十六條 囚人及懲治人ニシテ釋放スヘキ者アルトキハ典獄名簿簿ニ照シテ其氏名等ヲ問糺シ釋放スル旨ヲ言渡スヘシ

刑事被告人ニシテ放免保釋及買付スヘキ者アルトキモ亦同シ

第十七條 領置ノ貨物ヲ下付スルトキハ典獄其名數ヲ領置簿ニ照シテ其旨ヲ記シ受取人ヲシテ蓋印セシムヘシ

第十八條 刑事被告人ノ中共犯人アルトキハ其監房ヲ別異シ談話通聲スルコトヲ得サラシメ裁判所又ハ他監ニ引致ノトキモ同行セシムルコトヲ得ス

第十九條 在監人ヲ他監ニ移ストキハ其名籍又ハ宣告書其他必要ノ文書及領置ノ貨物ヲ具シテ送致スヘシ

第二十條 在監人押送ノ際送致スル貨物ハ典獄ニ於テ目錄ヲ作リ其貨物並ニ目錄ハ押送官吏ヲシテ保管セシムヘシ但金銀ハ破綻ノ憂ナキ機殻封シ之ニ封印ヲ捺スヘシ

第二十一條 特赦アリタルトキハ典獄ハ速ニ其旨ヲ所屬長官ニ申報シ所屬長官ハ内務大臣ニ申報スヘシ

第二十二條 特赦免幽閉假出獄ノ申渡ハ其裁可又ハ許可ノ監署ニ達シタル時ヨリ二十四時以内ニ之ヲ爲スヘシ

假出獄ノ申渡ヲ受ケタル者ニハ典獄其証票ヲ與ヘテ最近ノ警察署ヘ護送スヘシ

第二十三條 特赦免幽閉假出獄ヲ申渡シ又ハ賞表ヲ授與スルハ別ニ定ムル方式ニ依ル但賞表ハ免役日若クハ日曜日ニ於テ之ヲ與フヘシ

第二十四條 免幽閉ノ申渡ヲ受ケタル者ハ監獄近傍ノ地ヲ限リ居住セシメ典獄之ヲ監督スヘシ但土地家屋ナキ者ニハ之ヲ貸與スヘシ

已ムヲ得サル事故アリテ一時限外ニ出シコトヲ請フトキハ典獄其事由ヲ取糺シテ許可スルコトアルヘシ

第二十五條 免幽閉中重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判定ノ上免幽閉ヲ爲シタル所ノ監獄ニ於テ直ニ其刑ヲ執行スヘシ

第二十六條 免幽閉ノ申渡ヲ受ケタル者其配偶者又ハ其他ノ親屬ヲ招キテ同居シ又ハ結婚セント請フトキハ典獄其生計ノ方法ヲ取糺シテ許可スヘシ

第二十七條 假出獄中重罪輕罪ヲ犯シタル者アルトキハ其裁判定ノ上現ニ之ヲ管束スル所ノ典獄ニ於テ假出獄ノ停止ヲ言渡シ証票ヲ取上ケ其旨ヲ所屬長官ニ申報シ所屬長官ハ内務司法兩大臣ニ申報スヘシ

甲地ニ於テ假出獄ヲ許サレタル者ヲ乙地ニ於テ停止シタルトキハ乙地典獄ヨリ其取上タル証票ヲ甲地典獄ニ送致シテ其旨ヲ通知スヘシ

前項ニ依リ乙地ニ於テ假出獄ヲ停止シタルトキハ集治監ニ入ルヘキ者ヲ除クノ外其他地監獄ニ拘禁シ前刑後刑トモ乙地ニ於テ之ヲ執行スヘシ

第十九類 第一章 監獄

千百九

第二十八條 死刑ノ宣告ヲ受ケタル者アルトキハ他ノ者ト別異シ一房ニ一名ヲ拘禁シテ特ニ戒護ヲ殿ニスヘシ
第二十九條 死刑ノ執行ハ午前十時ヲ過ルヲ得ス其執行中ハ看守ヲシテ殿ニ刑場ノ門戸ヲ護ラシムヘシ
第三十條 死刑ヲ執行スヘキ者同時ニ二人以上アルトキハ之ニ前後ヲ付シ一人宛執行シ其間他ノ受刑者ヲシテ刑場ニ入ラシムヘカラス

第三十一條 死刑ハ受刑者自衣若用ノ儘之ヲ執行スルコトヲ得

第三十二條 監房ハ看守長ノ立會アルニアラサレハ開扉スルコトヲ得ス但在監人ノ在ラサルトキハ此限ニ在ラズ

第三十三條 囚人ノ監房ニハ疊ヲ敷クコトヲ得ス但病室及拘留囚ノ監房ハ此限ニ在ラズ

第三十四條 密室ハ拘留監ニ設クヘシ
開室ハ暗ニ空氣ヲ通セシメモ光線ヲ通セサラシムルヲ要ス
密室及開室ハ一室一人ヲ限リトス

第三十五條 接見室ハ監舎ノ首部ニ設クヘシ

第三十六條 死刑場ハ監獄ノ一隅ニ設ケ塙壁ヲ以テ外見ヲ防クヘシ

第三十七條 各監房ノ鑰匙ハ彼此適用スヘキ爲メ其製式ヲ同クスヘシ

第三十八條 監房ノ鑰匙ハ常ニ一定ノ場所ニ置キ看守長之ヲ監守スヘシ

第三十九條 看守所ニハ開室ヨリ鐵線ノ類ヲ通架シ置キ發病等ヲ報スルノ用ニ供スヘシ

第四十條 監獄ニハ防火具ヲ備ヘ置クヘシ

第四十一條 煙火ハ監房外ニ置キ在監人之ニ觸ルノ虞ナカラシムヘシ
第二章 役法及時限
第四十二條 定役ニ服スヘキ入監人アルトキハ典獄醫師ヲシテ其身體ヲ診視セシメテ強弱ヲ分チ就業簿ニ記入シ其就役スヘキ業名ヲ指定スヘシ

第四十三條 男囚ノ監獄内ノ作業ハ春米瓦工煉石石工石碎石鍛冶工油鞆工耕耘木挽工抄紙木工桶工瓦工炊事掃除ノ内ヲ撰ムヘシ
女囚ノ作業ハ紡績裁縫織濯ノ内ヲ撰ムヘシ

右ノ外各地方ノ便宜ニ依リ他ノ作業ニ服役セシメントスルトキハ内務大臣ノ認可ヲ得ヘシ

第四十四條 男囚ハ碎石製煉土方石工耕耘運搬若クハ監獄ノ用ニ限リ獄外ノ役ニ服セシムルコトヲ得其外役ニ服セシムルトキハ鍊鐵ノ鍛ヲ用テ二囚毎ニ聯結シ雨ヲ問ハス空ヲ用テ其面ヲ掩ハシムヘシ

外役ノ囚徒ハ一組十人以上二十人以下ト定メ看守一人押丁二人以上ヲシテ之ヲ監セシム但島地ニシテ逃走ノ虞ナシト認ムル場合ニ於テハ此割合ヲ變更スルコトヲ得

第四十五條 定役ニ服スヘキ者刑期五分ノ三ヲ經過シタルトキハ典獄ニ於テ現ニ其監獄ニ在ル所ノ作業ノ中ニ就キ出獄後自活ノ道ヲ得ヘキト認ムルモノヲ指定スヘシ但刑期一年未滿ノ者ハ此限ニ在ラズ

第四十六條 定役ニ服スヘキ者ハ風雨積雪等ノ爲メ既定ノ作業ニ就ケシメ難キトキト雖他ノ作業ニ就ケ休役セシムヘカラス

第四十七條 科程ノ了否ハ正午ト罷役前トニ於テ毎日二回之ヲ検査スヘシ

第四十八條 毎日囚人ヲシテ作業ニ就カシムルニ際シ悉ク之ヲ監房外ニ整列セシメ看守長及看守女監取驗檢ヲナスヘシ選房セシムルトキモ亦同シ

第四十九條 在監人ノ起床ヨリ就寢ニ至ル迄ノ動作時限ハ別表ニ之ヲ定ム但作業ニ依リ已ムヲ得サル場合ニ於テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ其時限ヲ伸縮スルコトヲ得

第五十條 起床選房就役罷役就寢其他ノ動止ヲ令スルハ鈴若クハ柝ヲ以テシ全監一齊ニ動止セシム
第三章 工錢
第五十一條 各種ノ工錢ハ其他普通ノ傭工錢ニ照シ各自ノ技能ト就役時間トニ應シ一日若干ト定ムヘシ

第五十二條 免役日ニ於テ四人ヲ炊事掃除病者ノ看護其他監獄ノ用ニ使役スルトキハ科程外ノ工錢ヲ與フヘシ
第五十三條 在監人ニ與フヘキ工錢ハ毎月ノ首ニ於テ其前月ノ總計金額ヲ本人ニ示スヘシ

第四章 給與

第五十四條 囚人ノ衣類ハ赭色懲治人ノ衣類並ニ刑事被告人ニ貸與スル衣類ハ淺藍色ニシテ總テ筒袖トシ長短二種ニ分
ツ男ノ通常服ハ長衣就役服ハ短衣トシ女服ハ總テ長衣トス

第五十五條 囚人ノ蒲團ハ赭色懲治人及刑事被告人ノ蒲團ハ淺藍色トシ各自ニ貸與シ二人以上合著セシムルコトヲ得
ス

第五十六條 刑事被告人ノ着用スル衣類ニシテ時季ニ適セス又ハ汚穢シテ衛生上ニ害アリト認ムルトキハ之ヲ貸與
ス

第五十七條 在監人ノ衣服ノ外襟及蒲團ニハ白布ヲ縫著シ之ニ其者ノ番號ヲ墨書スヘシ
第五十八條 在監人ニ貸與スル衣類雜具左ノ如シ

通常服

- 一 單衣
- 一 袴
- 一 襦袢
- 一 綿入
- 一 襦袢
- 一 就役服
- 一 單衣
- 一 袴
- 一 綿入

- 一 襦袢
- 一 股引

婦女ニハ股引ニ代テ前垂ヲ貸與スルコトヲ得

雜具

- 一 蒲團
- 一 蚊帳
- 一 寢蓆
- 一 木枕
- 一 帶長三
- 一 褌長三
- 一 手巾
- 一 襪
- 一 笠
- 一 履物

以上ノ貸與品ハ地方ノ便宜ニ依リ之ヲ斟酌取捨シ澁滯補綴シテ其用ニ充ルコトヲ得此他草鞋用紙ハ之ヲ付與ス
極寒ノ地方ニ於テハ内務大臣ノ認可ヲ得テ足袋ヲ貸與スルコトヲ得

第五十九條 病者ニ貸與スル衣類雜具ハ醫師ノ意見ヲ問ヒタル上典獄ニ於テ變更又ハ増減スルコトヲ得

第六十條 病者ノ食量ハ醫師ノ診斷ニ依テ之ヲ増減スヘシ

第六十一條 病者ノ攝養ニ効アル飲食物又ハ温ヲ取ル湯嚢等ヲ用ユルコトヲ要スルトキハ醫師ヲシテ其旨ヲ證明セシメ
典獄之ヲ考査シテ許可スルコトアルヘシ

第六十二條 囚人及懲治人作業ニ勉勵シテ食費ヲ償フニ足ルヘキ工錢ヲ得ル者ニハ其請ニ由リ領置シタル工錢ヲ以テ食物ヲ購ヒ之ヲ給スルコトヲ得但其種類分量ハ典獄豫メ制限ヲ設クヘシ

第六十三條 工錢ヲ以テ食物ヲ購給スルハ一月十回以下ニシテ一回金三錢ヲ過ルコトヲ得但其購給費ハ領置工錢ノ半額ヲ過クヘカラス

第六十四條 食用器具左ノ如シ

- 一 木碗
- 一 箸
- 一 飯器

第六十五條 監房常置ノ器具左ノ如シ

- 一 貯水器並ニ飲器 木製
- 一 唾壺 木製又ハ竹製
- 一 便器 木製大小二種但監房ニ廁圍ノ際糞スルモノニハ此器ヲ用ヒス
- 一 小掃 草ノ種類ヲ用テ製作セシ軟ナルモノ
- 一 洗手盆 木製

第五章 衛生及死亡

第六十六條 監獄ハ常ニ清掃シ不潔ナラシメサルヲ要ス

監獄内ノ廁圍並ニ便器ハ度數ヲ定メテ掃除シ常ニ清潔ナラシムヘシ

第六十七條 病者ノ居室身體衣類臥具等ハ特ニ清潔ニ爲スヘシ

第六十八條 刑事被告人及定役ニ服セサル囚人ハ毎日一時以內監房外ニ於テ運動ヲ許ス

第六十九條 衣類臥具雜具其他ノ物品ハ種質ニ由リ時々熱湯ヲ用ヒテ之ヲ滌ヒ又ハ大氣ニ晒シ臭氣ヲ去リ虫害ヲ防ク

ヲ要ス但病者ノ物品ト混一シテ之ヲ晒洗スヘカラス

第七十條 入浴ノ定度ハ毎年六月ヨリ九月迄ハ五日毎ニ一次以上十月ヨリ五月迄ハ十日毎ニ一次以上トス

第七十一條 刑事被告人又ハ定役ニ服セサル囚人及拘留囚ノ鬚髮ハ不潔ナラサル様梳理セシムヘシ但鬚髮ヲ剃刈センコトヲ請フ者アルトキハ典獄之ヲ許可スルコトアルヘシ

第七十二條 髮ヲ短縮セサル者ノ監房ニハ木梳一箇ヲ備ヘ置クヘシ

第七十三條 刑事被告人ノ親屬故舊ヨリ淋瀝ノ爲メ其衣類ノ下付ヲ請フトキハ本人ノ承諾ヲ得テ典獄之ヲ許可スルコトアルヘシ其密室監禁者ニ係ルトキハ當該裁判官ノ允許ヲ經ヘキモノトス

第七十四條 傳染病流行ノ兆アルトキハ其豫防ヲ慎重ニスヘシ若シ在監人中傳染病者アルトキハ直ニ離隔室ニ移シ其消毒ヲ殿ニシ病性及感染ノ形狀ヲ詳悉シ典獄ヨリ所屬長官ニ報告シ且其旨ヲ市町村長及警察署ニ通知スヘシ

第七十五條 傳染病流行ノ際ハ飲食物ノ差入及贈給ヲ停止スルコトヲ得

第七十六條 傳染病流行地ヲ發シ若クハ其地方ヲ經過シタル者新ニ入監スルトキハ一週日以上他ノ者ト離隔シ其携有スル物品ハ消毒ヲ行フヘシ

第七十七條 死亡者又ハ刑死者アルトキハ其年月日時ヲ記シ典獄ヨリ親屬ニ通知スヘシ

刑事被告人死亡シ又ハ囚人及懲治人ニシテ裁判所ノ訊問中ニ係ル者死亡シタルトキハ之ヲ其裁判所ニ申報スヘシ

第七十八條 在監人病死シタルトキハ醫師ノ診察ニ據リ病症及其因由並ニ死亡ノ年月日時ヲ名籍簿ニ記載スヘシ若シ疑死シタルトキハ醫師ノ檢案ニ據リ死亡ノ因由及其年月日時場所死狀等ヲ名籍簿ニ詳記スヘシ

第七十九條 死者ノ親屬若クハ故舊ニ其遺骸ノ下付ヲ許シタルトキハ其者ヲシテ簿冊ニ署名捺印セシムヘシ

監署ニ於テ遺骸ヲ假葬スルトキハ棺ニ入テ之ヲ埋メ其上ニ面三寸長三尺五寸ニ過キサル氏名標ヲ建ツヘシ

第八十條 在監人ノ遺骸ハ假葬シタル後下付ヲ請フ者アルトキハ之ヲ許ス

第八十一條 在監人死亡シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ親屬ニ下付ス刑死者ノ貨物モ亦同シ

第十九類 第一章 監獄

親屬遠地ニ在テ物品ヲ送付スルニ入費ヲ要スルモノハ其物品ヲ販賣シテ代價ヲ騰送スルコトヲ得但運送費ハ親屬ノ自
辨トス

第八十二條 假釋シタル死亡者刑死者ノ遺體ニシテ滿三箇年ニ至ルモ引取人ナキトキハ更ニ合葬スルコトヲ得但合葬シ
タルトキハ其墓標ニ石ヲ用ユヘシ

第六章 書信及接見

第八十三條 在監人ヨリ發スル信書ハ書信紙ヲ用ヒシメ典獄之ヲ封緘送送スルモノトス但郵便稅ハ自辨トス

第八十四條 官印ノ訊問ニ由テ發信ヲ要スルニ當リ郵便稅ヲ自辨スルコト能ハサルトキハ監獄費ヲ以テ支辨スヘシ

第八十五條 信書ヲ檢閱スルハ先ツ直行順讀シ次ニ逆讀糾讀又ハ横讀シ不正不長ノ文意アルヤ否ヲ詳查スヘシ

第八十六條 在監人ニ接見セント請フ者アルトキハ典獄其氏名身分住所職業及縁由ヲ詳悉シタル上之ヲ許スモノト
ス

接見ノ時間ハ三十分時ヲ過クルヲ得ス但死刑ノ執行以前及集治監又ハ假留監ニ押送以前ニ係ル囚人ニハ特ニ一時間ノ
接見ヲ許スコトヲ得

接見ヲ許シタル者若シ接見ヲ請ヒシ旨趣ニ違フ談話ヲ爲シタルカ又ハ容貌其他形狀等ヲ以テ相通スルノ形跡アルトキ
ハ之ヲ停止スヘシ

接見ノ際ハ在監人男子ニ係ルトキハ看守長看守立會女子ニ係ルトキハ看守長女監取締立會ヲヘシ

第八十七條 辯護人トノ接見ハ接見室ニ於テノ談話ニテ事實ヲ盡シ難キトキニ限リ訊問所ニ於テ之ヲ爲サシムルコトヲ
得

病囚トノ接見ハ危篤ノ際ニ限リ病室ニ於テ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第八十八條 在監人接見ノ時限ハ午前八時ヨリ午後四時迄ノ間トス

第七章 差入品

第八十九條 刑事被告人ニ差入ルヘキ飲食物ハ酒及烟草ヲ除キ監獄内ニ於テ炊煮ヲ要セサルモノニシテ一日三回一人一
食ノ量ニ限ル

第九十條 總テ差入品ハ看守長立會看守ニ於テ之ヲ檢査シ毒氣酒氣又ハ包藏物其他通謀ノ媒介トナルモノナキヤ否ヲ精
檢スヘシ但飲食物ノ檢査ニハ醫師ヲシテ立會ハシムヘシ

第九十一條 檢査ノ爲メ解離シタル衣類臥具アルトキハ監獄ニ於テ之ヲ原形ニ復スヘシ

第九十二條 免幽閉ヲ受ケタル者親屬故舊ヨリ金錢衣服家具等ノ寄贈ヲ受ケタルトキハ其旨ヲ典獄ニ申告セシムヘシ

第八章 教誨

第九十三條 教誨ハ免役日又ハ日曜日午後又ハ平日罷役後又ハ休役間ニ於テ之ヲ行フヘシ

第九十四條 免役日及日曜日ノ教誨ハ教誨堂ニ於テシ休役間又ハ罷役後ノ教誨ハ被教誨者ノ居所ニ就キ之ヲ爲スモノト
ス

第九章 賞譽

第九十五條 監獄則ニ依リ賞譽セシ者ニ與フル賞表ニハ曲尺方二寸ノ淺藍色ノ布ヲ用ヒ賞譽セシ毎ニ之ヲ與ヘ上衣ノ左
袖肩幅間ノ表面ニ縫着スルモノトス

第九十六條 賞表ヲ有スル者ニハ左ノ優遇ヲ爲スモノトス

一 第五十八條ニ定メタル衣類雜具ハ成ルヘク良品ヲ貸與ス

二 書信ハ一箇月ニ二週二次之ヲ爲スコトヲ許ス

三 入浴ハ尋常囚人ニ先キタ、シムルコトアルヘシ

四 賞表二箇以上ヲ有スル者ニハ仍ホ作業ノ労働稍輕キモノヲ課シ且飯米ノ割合ヲ十分ノ五ニ増加ス

五 賞表三箇以上ヲ有スル者ニハ仍ホ將來生計ノ爲メ作業ノ擬換ヲ請ハシムルコトヲ得

六 賞表一箇ヲ得タル者ニハ監獄則第二十八條ニ定メタル外案ヲ一週ニ一回其二箇ヲ得タル者ニハ二回其三箇以上ヲ

第十九類 第一章 監獄

得タル者ニハ三回増給ス但兵價ハ一回一錢ニ過クルコトヲ得ス
第九十七條 囚人及懲治人左ニ掲ケタル所爲アルトキハ金二十五錢以下ヲ以テ之ヲ賞與スルコトヲ得但賞與ヲ與フルノ
限ニ在ラス

- 一 在監人ノ逃走セントスル者ヲ密告シタルトキ
- 二 人命ヲ救護シ及逃走者ヲ捕得シタルトキ
- 三 監獄ニ係ル水火風災ヲ防禦シタルトキ

第九十八條 刑事被告人ニシテ前條ノ所爲アルトキハ之ヲ録シテ所屬長官ニ申報シ仍ホ當該裁判官ノ參考ニ供スヘシ

第十章 懲罰

第九十九條 減食受罰者ハ其罰期中別房ニ入レ置クヘシ

第一百條 懲罰ヲ受ケタル者ノ居房ハ其罰期終ルモ仍ホ懲罰ヲ受ケサル者ト別異スヘシ但改悛ノ情著シキトキハ合居セシ
ムルコトヲ得

第一百一條 犯則者ニシテ事未タ發覺セサル前ニ於テ司獄官吏ニ自首シタルトキハ其懲罰ヲ全免又ハ減輕スルコトヲ
得

第一百二條 懲罰ニ處セラレタル者裁判事件ニテ出廷スルトキハ當日ニ限り其執行ヲ中止スヘシ但中止中經過セシ日數ハ
懲罰期限ニ算入スヘカラス

第一百三條 兩脚ニ鈎ヲ施ス者改悛ノ狀顯ハレ其施鈎期限ノ半ヲ經過シタルトキハ一脚ノ鈎ハ免除スルコトヲ得

第一百四條 鈎ヲ施シタル者改悛ノ狀最モ顯著ニシテ其施鈎期限ノ四分ノ三ヲ經過シタルトキハ假ニ其鈎ヲ免除スルコト
ヲ得

第一百五條 假ニ鈎ヲ免除シタル者其罰期内更ニ懲罰ヲ受クルトキハ直ニ之ヲ復シ其假免中經過セシ日數ハ施鈎期限ニ算
入スヘカラス

第一百六條 懲罰ニ處シタル者アルトキハ典獄若クハ看守長時々其動靜ヲ觀察シ敎誨師ヲシテ之ヲ問ハシムヘシ

附則 此細則ニ於テ市町村長トアルモノ市町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ戶長之ニ當ルヘシ

在監人動作時限表

月名	時限	起	床	監房掃除 並ニ喫飯	就	役	午	飯	濯	役	遷	房	就	寢	服	時間合計
一月	前六時	六時	一時	一時	七時	十二時	十二時	四時	四時	五時	八時	八時	八時	七時三十分	八時	八時
二月	六時	六時	一時	一時	七時	十二時	十二時	四時	四時	五時三十分	八時	八時	八時	八時	八時	八時
三月	五時三十分	六時	一時	一時	六時三十分	十二時	十二時	四時	四時	六時	八時	八時	八時	八時三十分	八時	八時
四月	五時	六時	一時	一時	六時	十二時	十二時	四時	四時	六時三十分	九時	九時	九時	九時三十分	九時	九時
五月	五時	六時	一時	一時	六時	十二時	十二時	五時	五時	七時	九時	九時	九時	九時三十分	九時	九時
六月	四時	五時	一時	一時	五時	十二時	十二時	五時三十分	五時三十分	七時三十分	九時	九時	九時	十時三十分	十時	十時
七月	四時	五時	一時	一時	五時	十二時	十二時	五時三十分	五時三十分	七時三十分	九時	九時	九時	十時三十分	十時	十時
八月	四時三十分	五時	一時	一時	五時三十分	十二時	十二時	五時	五時	七時	九時	九時	九時	九時三十分	九時	九時
九月	五時	六時	一時	一時	六時	十二時	十二時	四時三十分	四時三十分	六時	八時	八時	八時	九時	九時	九時
十月	五時三十分	六時	一時	一時	六時三十分	十二時	十二時	四時	四時	五時三十分	八時	八時	八時	八時三十分	八時	八時
十一月	六時	七時	一時	一時	七時	十二時	十二時	四時	四時	五時	八時	八時	八時	八時	八時	八時

十二月	六時三十分	一時	四時	七時三十分	十二時	四時	八時	七時	四時
備考	一就役罷役及還房ノ時間ヲ除クノ外ハ囚人ニシテ服役セザル者懲治人及刑事被告人ニモ亦本表ヲ適用ス 一炊事又ハ病者ノ看護ニ從事スル囚人並ニ病者ノ起床及就寝時間ハ本表ニ依ルノ限リニ在ラス								

○假出獄證票ノ雛形並ニ特赦免幽閉假出獄申渡及賞表授與式ヲ定ム
二十二年七月三十一日
内務省訓令第三十三號

監獄則施行細則第二條同第二十三條及刑法附則第三十九條ニ所定ノ名稱假出獄證票ノ雛形並ニ特赦免幽閉假出獄ノ申渡及賞表授與式左ノ通相定ム

番號	典獄 (檢印) 四人名籍	主檢書記氏名印
出身地籍	某府縣郡市(區)町村産	
生年	何年某月某日	
刑名及宣告ノ月	何刑若干年月日	
收監及滿期ノ年月日	何年月日何裁判所ニ於テ宣告	
及犯由ノ大略	何年月日午前何時入監何年月日滿期	
身	財物ヲ竊取シ或ハ人ヲ毆傷スル等犯罪ノ大略ヲ記ス若シ再犯ナレハ往年何罪ヲ犯シ其裁判所ニ於テ何刑ニ處セラル	
容貌	長何尺何寸何分肥瘠強弱	
聲貌	面顴眉毛耳目鼻口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘痕瘰癧子癭瘰癧瘋風天癩創瘻ノ類及音聲ノ高低ヲモ細數ニ具載ス	

管業及親屬	營業ノ種類及親屬ノ營業住所 父母兄弟及配偶者子孫ノ有無 文字ノ知否或ハ贈遺ヲナスヲ得或ハ普ク贈遺ヲナス 何宗或ハ宗門不詳	
教育及宗門	何年月日假出獄或ハ免幽閉或ハ減等	
假出獄	何年月日滿期放免或免他監押送死亡逃走	
出監及終結	前項欄内ニ記入スヘカラサル事項假令ハ乳兒携帶者等ノ如キハ其乳兒ノ男女生年月及出監死亡等ヲ詳記スヘシ	
要摘		
番號	典獄 (檢印) 懲治人名籍	
出身地籍	某府縣郡市(區)町村産	
生年	何年某月某日	
刑名及宣告ノ月	何刑若干年月日	
收監及滿期ノ年月日	何年月日何裁判所ニ於テ宣告	
及犯由ノ大略	何年月日午前何時入場何年月日滿期	
身	犯由ノ大略及某裁判所	
容貌	長何尺何寸何分肥瘠強弱	

容 貌	面體眉毛耳目口ノ形容面色ノ黑白四肢ノ姿態其他痘斑瘰癧子癩瘡黑痣癩風天鵝 刺癩ノ類及音聲ノ高低ヲモ細數ニ具載ス
身 材	長何尺何寸何分肥瘠強弱
入 監 時 及 罪 件	何年月日午時何時入監 何罪ヲ犯ス共犯者ノ有無前犯ノ有無
本 籍 地 分 名	何國郡市(區)町村產
寄 居 地 分 名	某府縣郡市(區)町村番地住又ハ何某子弟妻女 身分 何 某年月生
番 號	典獄 (檢印) 刑事被告人名籍 主檢 書記氏名印
要 摘	病室ニアル者情狀ニ由リ親屬ニ交付スル等ハ此欄ニ詳記スヘシ
出 監 及 終 結	何年月日某家ニ放逐轉監死亡逃走
假 出 場	
教 育 及 宗 門	入場ノ時文字ノ知否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス 何宗或ハ宗門不詳
管 業 親 屬 ノ 有 無	任所及管業ノ種類 父母兄弟及配偶者ノ有無
管 業 親 屬 ノ 有 無	父母兄弟及配偶者ノ有無
管 業 親 屬 ノ 有 無	父母兄弟及配偶者ノ有無

管 業 及 親 屬	管業ノ種類 父母兄弟及配偶者ノ有無
教 育 及 宗 門	文字ノ知否或ハ讀書ヲナスヲ得或ハ善ク讀書ヲナス 何宗或ハ宗門不詳
裁 判 關 係 ノ 事 項	何年月日令狀發換故障上告審問度數
保 釋	何年月日保釋若クハ責付
出 監 及 終 結	何年月日放免若クハ刑ノ宣告執行又ハ他監押送死亡逃走 前項欄内ニ記入スヘカラサル事項假令ハ乳兒幼帶者等ノ如キハ其乳兒ノ男女 生年月及出監死亡等ヲ詳記スヘシ

假出獄之匯票

某府縣郡市(區)町村番地住又ハ何某子弟妻女

身分
何
某年月日生

身
材
名稱ノ様本ニ倣
ヒ詳記スヘシ

容
貌
上ニ同シ

罪
實
犯
數
刑
名
刑
期
附
加
刑

何年月日某裁判所ニ於テ宣告ヲ受ケ
何年月日ヨリ執行何年月日滿期歿期

何年月日間假出獄ヲ許ス

一此者ハ假出獄ノ裁可アリタルヲ以テ何年月日出獄ヲ許シ何地ヲ通過シ居住スヘキ何地ノ警察署ニ約テ何日迄ニ到着シテ此證書ノ檢閱ヲ受タル上住宅ヲ定ムヘキ旨申渡シタル事

一此者ハ本刑期限内特別監視ニ付セラレタル事

一此者假出獄中更ニ重罪輕罪ヲ犯スコトアルトキハ直ニ出獄ヲ停止シ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セラレサル事

一此者發病其他ノ事變ニ因テ途中ニ滞留スルトキハ滞留地ノ警察官ヨリ其證書ヲ受ケ居住スヘキ地ノ警察署ニ到着ノ上之ヲ差出スヘキ旨申渡シタル事

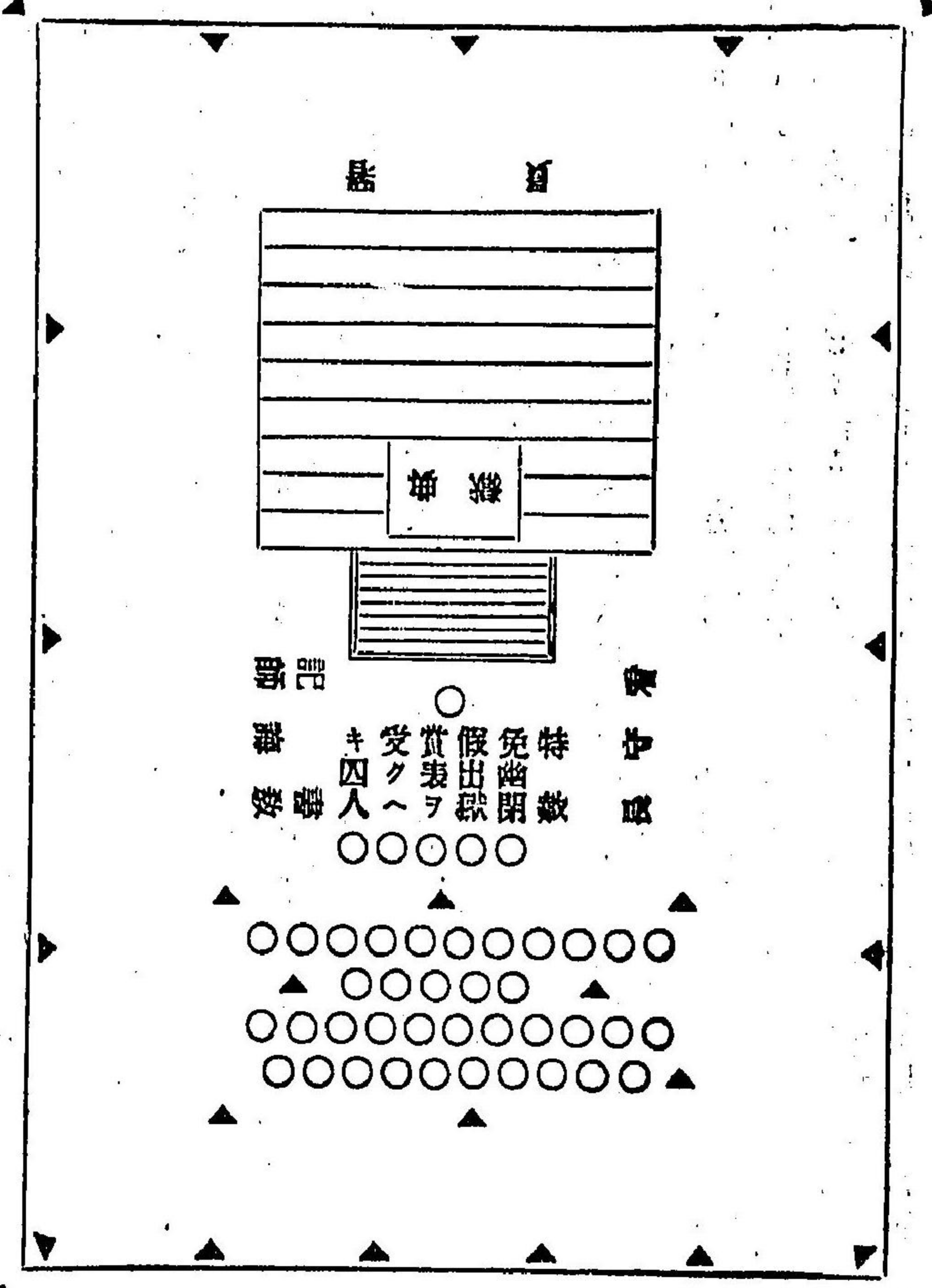
右ノ通心得サセ假出獄ノ證書ヲ與フル者也

何年月日

典獄 某印

特赦免幽閉假出獄ノ申渡及賞表授與式

- 一式場ハ教誨堂又ハ衆囚ヲ整列セシムルニ足ルノ場所ヲ以テ之ニ充テ臨場官吏ノ席次及ヒ囚人ノ列次ハ左圖ノ如クス
- 但女囚ハ男囚ト同列セシメス其式場又ハ時日ヲ異ニスヘシ
- 一典獄席ニ著クヤ看守ハ衆囚ニ號令ノ類シ之ヲシテ齊シク敬禮セシムヘシ式畢テ典獄ノ退席セントスルトキモ亦同シ
- 一典獄卓ニ著ケハ書記ハ特赦免幽閉假出獄若クハ賞表ヲ受クヘキ囚人ヲ一人ツ、順次ニ呼出シ典獄ノ卓前ニ進マシメ而シテ典獄ハ其申渡書ヲ執リ之ヲ朗讀シテ聽待セシメ免幽閉又ハ假出獄者ニハ尚ホ出獄後ノ心得方ヲ懇諭シテ其證書ヲ授與シ賞表ヲ受クヘキ者ニハ其申渡書ノ證書ヲ添ヘ賞表ヲ授與スヘシ
- 但賞表ハ白紙ニ包ム等其鄭重ナランコトヲ要ス
- 一假出獄申渡モ亦此式ニ準スヘシ



○監獄内ノ建物中稟請ヲ要セス處分ノ件

二十一年十二月十四日
内務省訓令第二十六號
府廳

第十九類 第一章 監獄

○▲看守徒

監獄内ノ建物ニシテ左ニ掲グルモノハ自今廢請ヲ要セス處分シテ後其位置ノ略圖ヲ具シ一箇年取纏メ翌年一月三十一日迄ニ報告スヘシ

千百二十六

- 一 倉庫ノ新築
- 一 物置ノ新築
- 一 人民控所ノ新築
- 一 小使部屋ノ新築
- 一 監舎ニ關セサル厠ノ新築
- 一 馬建ノ新築

○監獄ニ係ル建物ハ處分後取纏メ報告ス 内務省訓令第二十二號 六月二十二日
監獄新築改築又ハ監房建設ノトキテ除外自今監獄ニ係ル建物ハ二十一年十二月當省訓令第二十六號ニ掲ケサルモノト雖モ廢請ヲ要セス處分シテ後其位置ノ略圖ヲ具シ一箇年取纏メ翌年一月三十一日迄ニ報告スヘシ

○監獄慈惠ノ貨物ハ府縣會ノ決議ヲ經テ地方稅ニ組入ル 内務省訓令第二十三號 警視廳府縣
(沖繩縣ヲ除ク)
監獄則第二十四條ニ依リ監獄慈惠ノ用ニ充ツヘキ貨物ハ追テ開ク所ノ府縣會ノ決議ヲ經テ地方稅雜收入ニ編入シ其金額ハ監獄費内譯ニ慈惠費ノ科目ヲ設ケ支辨スヘシ

廢止起算
見合

○監獄則ニ依リ處分ノ貨物精算報告方 二十二年八月十二日
監獄則第二十四條ニ依リ處分シタル貨物ハ毎年四月三十日限リ前一週年度ノ收支精算書ヲ圖製シ當省ヘ報告スヘシ

○沖繩縣人民ノ徒流刑ニ處セラレタルモノノ發配所 十六年十一月五日
沖繩縣人民ニ限リ徒流刑ニ處セラレタルモノハ同縣下八重山島ニ發配スルヲ得ヘシ此旨相達候事

但囚人取扱方ハ舊價ニ因リ沖繩縣令之ヲ管理スヘシ

○懲治場ニ留置セシ者假出獄規則ヲ定ム 十九年十一月十日
刑法第七十九條第八十條第八十二條ニ依リ懲治場ニ留置セラレタル者ニシテ獄則ヲ遵守シ改悛ノ狀アルトキハ警視廳監

北海通廳長官府縣知事ハ左ノ規則ニ據リ假ニ出場ヲ許スコトヲ得

假出場規則

第一條 假出場ヲ許スヘキ者アルハ典獄ヨリ其長官ニ狀ヲ具シテ認可ヲ受ク可シ

第二條 假出場ヲ許シタルハ典獄ヨリ其監票ヲ本人ニ下付ス可シ

第三條 假出場監票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

- 一 本人ノ屬籍氏名年齢住所懲治期限及ヒ宣告并ニ滿期ノ年月日
- 一 殘期何年何月何日 何年何月何日起
- 一 本日出場ヲ許スニ由リ住居ノ地ニ歸着ノ上ハ即チ所轄警察署ニ其旨ヲ届出ツ可シ
- 一 毎月一回謹慎ヲ要スル爲メ所轄警察署ニ到リ假出場監票ヲ出シ警察官吏ノ認印ヲ受ク可シ但己ムヲ得サル事故アレハ其事由ヲ届出可シ
- 一 一日程ヲ過クル地ニ旅行スルハ其行先並往復滞在日數等ヲ詳記シ所轄警察署ニ届出可シ但シ其滞在一月以上ニ涉ルハ一箇月毎ニ其滞在地ノ警察署ニ到リ前項ノ手續ヲナス可シ
- 一 事故アリテ其住居ヲ轉スルハ所轄警察署ニ届出ツ可シ
- 一 第三項以下ノ事ハ本人自ラ爲ス能ハサル場合ニ於テハ親屬故舊代リテ之ヲ爲スコトヲ得

右ノ各項ニ違背シタルハ直チニ出場ヲ停止シ出場中ノ日數ヲ懲治期限内ニ算入スルコトヲ得

○罰金ヲ輕禁錮十日以下ニ換ヘタル時警察署附屬ノ留置場ニ於テ執行方 十七年七月十日
兩省達シ第三拾四號 警

視廳府縣(東京府ヲ除ク)

第十九類 第一章 監獄

罰金ヲ輕罰額ニ換ヘタル場合ニ於テ其日數十日以下ナル時ハ拘留ノ例ニ依リ警察署附屬ノ留置場ニ於テ執行スルコトヲ得ル儀ト心得可シ此旨相違候申(刑法第二十條參看)

千百二十八

○看守及監獄備人分掌例

二十二年六月二十六日
內務省訓令第二十九號 廳府縣集治監假留監

看守及監獄備人ノ分掌例左ノ通改ム

第一章 看守ノ職務

- 第一條 晝夜交番シテ警守受持場ヲ巡警スヘシ
- 第二條 看守長若クハ看守副長ノ立會ヲ受ケ在監人員ノ點檢ヲ爲スヘシ
- 第三條 看守長若クハ看守副長ノ立會ヲ受ケ監房ヲ檢査シ其常置器具等ヲ點檢スヘシ
- 第四條 在監人ノ鄉貫、氏名、年齡、罪質、刑名等ヲ記憶スルハ勿論日々ノ行狀ヲ視察シ其事項ヲ手帳ニ詳記シ看守長若クハ看守副長ノ檢閱ニ供スヘシ
- 第五條 在監人ノ役業ヲ督勵シ其科程ノ了否ヲ點檢スヘシ
- 第六條 服役者ニシテ其作業ニ關セサル他事ヲ交談シ又ハ器具等ヲ交換シ或ハ漫部リニ外ノ工場ニ到ルカ如キ所爲ナカラシムヘシ
- 第七條 新ニ入監スルモノアルトキハ其身體衣服ヲ搜檢スヘシ其入監後監房ヲ出入スルトキモ亦同シ
- 第八條 監門ヲ守リ其出入者ニ注目シ漫リニ通行セシムヘカラス
- 第九條 監房ノ開閉ヲ掌リ其鎖否ヲ點檢スヘシ
- 第十條 工場、器械庫其他ニアル物件排列ノ整否ヲ注視シ器具等ノ散失ナキ様嚴密取締ヲ爲スヘシ

爲スヘシ

- 第十一條 炊場、浴場等ヲ巡視シ火災ノ虞ナキ様嚴密取締ヲ爲スヘシ
- 第十二條 獄則違犯者又ハ應禁物藏匿等アルコトヲ認知シタルトキハ嚴密ニ取糺シ其證據ヲ明舉シテ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ
- 第十三條 密室監禁者及屏禁、關室、獨愼者ノ動靜ハ特ニ之ヲ視察シ其狀況ヲ看守長若クハ看守副長ニ具申スヘシ
- 第十四條 戒具ハ日々點檢シ不時ノ使用ニ支障ナカラシムヘシ
- 第十五條 食物ノ配與、獄衣其他給與品及差入品等ノ受渡ニ立會ヒ不正不長ノ所爲ナカラシムヘシ
- 第十六條 在監人ノ接見及教誨ノ席ニ立會ヒ其舉動ヲ注視スヘシ
- 第十七條 病者ノ醫治ニ立會ヒ其舉動ヲ注視スヘシ
- 第十八條 在監人中ニ急發病者アルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ
- 第十九條 水火風震等非常ノ變災ニ際シテハ最モ取締ヲ嚴ニシ在監人ヲ避ケシムルノ準備ヲナシ上官ノ指揮ヲ待ツヘシ
- 但事急遽ニ出テ上官ノ指揮ヲ待ツノ違ナキトキハ救護ノ爲メ一時房外ニ出スコトヲ得
- 第二十條 反獄逃走等アルトキハ非常ノ合圖ヲ爲シ直ニ鎮壓捕獲ノ手配ヲナスヘシ此場合ニハ直ニ上官ニ報告スヘシ
- 但事急遽ニ出テ捕キ難キトキハ直ニ追跡スルコトヲ得

第十九條 第一章 看守監獄備人

千百二十九

第二十一條

在監人ノ頭髮、身體、衣服ニ注目シ若シ垢染破損セシ等ノモノアルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ

第二十二條

監房、炊場、浴場、廁園、工場等ノ掃除ニ立會ヒ不潔ナカラシムヘシ

第二十三條

押丁、授業手ノ在監人ニ接スル狀態ヲ視察シ若シ相狂ル、モノアルヲ認ムルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ

第二十四條

監内ノ異狀ヲ見聞スルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ押丁ヨリ報告又ハ在監人等ヨリ密告ヲ得タルトキモ亦同シ

第二十五條

在監人ノ押送ヲ掌リ其押送中ハ在監人ノ賂人ト聲語シ又ハ之ヲ侮笑シ又ハ歩行ヲ紊シテ行人ヲ妨クル等不都合ノ所爲ナカラシムヘシ

第二十六條

在監人ヨリ願訴ヲ爲サントスル者アルトキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ若シ封書ヲ出ストキハ直ニ看守長若クハ看守副長ニ致スヘシ

第二十七條

文字ヲ書スル能ハサル在監者ノ爲メニ願訴ノ書面ヲ代書シ且之ヲ本人ニ讀ミ聽スヘシ

第二章 教誨師ノ職務

第二十八條

典獄ノ指揮ヲ受ケ專ラ已決囚及懲治人ノ教誨ニ從事シ又懲治人及十六歳未満ノ已決囚ニ讀書、算術、習字等ノ學科ヲ教授スヘキモノトス

第二十九條

新ニ入監スル已決囚若クハ懲治人アルカ又ハ賞表ヲ受クヘキ者アルトキハ其者ニ對シ特ニ教誨ヲ爲スヘシ其出獄スルトキモ亦同シ

第三十條

在監人ノ起居、動靜、勤怠及其行狀ノ良否ハ時々其狀ヲ具シテ典獄ニ報告スヘシ

第三十一條

監房ヲ巡迴シ修身齊家ノ講談ヲ爲シ又揭示條項等ヲ解説スヘシ

第三十二條

懲治人ノ就學、年月、卒業ノ科目、學業ノ優劣等ヲ簿冊ニ記載シ典獄ノ檢閱ニ供スヘシ

第三十三條

在監人ノ賞罰ニ付典獄ヨリ意見ヲ問フコトアルトキハ之ニ報告スヘシ

第三十四條

獄則處分ヲ受ケ受罰中ノ者アルトキハ其居所ニ就キ教誨ヲ加ヘ又其狀況ヲ視察シテ典獄ニ報告スヘシ

第三十五條

受罰者ニシテ改悛ノ狀顯著ナルヲ認知セシトキハ典獄ニ具狀スヘシ

第三十六條

授學上及教誨上ニ要スル書籍、器具等ヲ管理シ散失破損セサル様注意スヘシ

第三十七條

特赦、免幽閉、假出獄、假出場、假免懲罰ノ言渡又ハ賞表授與式ニ立會フヘシ

第三章 醫師ノ職務

第三十八條

典獄ノ指揮ヲ受ケ在監人ノ疾病ヲ診察治療シ醫治ニ關スル一切ノ事務ニ從事スヘキモノトス

第三十九條

常ニ監内一般ノ衛生事項ニ注目シ其方法ヲ考究シテ意見ヲ典獄ニ具申スヘシ若シ衛生上ニ關スル事項ニ付典獄ヨリ諮問ヲ受ケタルトキハ之ヲ詳查シテ報告スヘシ

第四十條

在監人ヲ診斷シタルトキハ其氏名、病性、徵候、治否、及處方ヲ調治簿ニ詳記シ典獄ノ檢閱ニ供スヘシ

第四十一條

已決囚新ニ入監スルキハ其體質ヲ檢査シ其體質ノ強弱等ヲ典獄ニ具申スヘシ

第四十二條 各監房及工場等ヲ巡迴シ在監人ノ飲食物及衣類等ヲ注視シテ衛生上ニ害アリト認ムル事アルトキハ改良ノ意見ヲ典獄ニ具申スヘシ

第四十三條 流行病及傳染病發生ノ兆アルカ又ハ該患者アルトキハ直ニ典獄ニ稟議シ其病症及感染ノ形狀ヲ詳悉シ豫防消毒ヲ施行スヘシ

第四十四條 減食又ハ關室等ノ懲罰ニ處セラルヘキモノヲ診察シ其身體ニ妨ケナキヤ否ヤヲ詳記シ其證明書ヲ典獄ニ差出スヘシ

第四十五條 在監人中ニ急發病者アルノ報知ヲ受ケタルトキハ直ニ其居所ニ就キ診察治療スヘシ

第四十六條 服役スヘキ囚徒ノ疾病快復スルトキハ其堪ニヘキ役業ノ種類ヲ指定シ典獄ニ具申スヘシ

第四十七條 患者攝生ノ爲メ特別ノ衣食物品等ヲ要スルトキハ事由ヲ詳記シ典獄ニ具申スヘシ

第四十八條 施療上危險ノ恐アル手術ヲ施ストキハ其旨ヲ典獄ニ具申シテ許可ヲ受クヘシ

第四十九條 患者癡篤疾若クハ危篤ニ至レハ診斷書ニ處方箋ヲ添ヘ之ヲ典獄ニ差出スヘシ

第五十條 在監人中病死又ハ變死シタルモノアルトキハ典獄竝ニ看守長ト俱ニ驗屍シ其死亡ノ原由及病症死狀等ヲ詳記シ死亡證書又ハ檢案書ヲ添ヘ之ヲ典獄ニ差出スヘシ

第五十一條 患者若シ死後ニ解剖ヲ請フモノアルトキハ速ニ之ヲ典獄ニ具申スヘシ

第五十二條 在監人中作病ヲ構ヘ診察ヲ乞フモノアルトキハ看守長若クハ看守副長ニ申告スヘシ

スヘシ

第五十三條 差入飲食物アルトキハ之ヲ検査シ其可否ヲ典獄ニ具申スヘシ

第五十四條 看病者ノ適否ヲ監視シ意見アルトキハ直ニ典獄ニ具申スヘシ

第五十五條 醫療器械竝ニ書籍等ヲ管理シ散失破損セサル様注意スヘシ

第五十六條 患者ノ日表及月表ヲ製シ典獄ノ檢閲ニ供スヘシ

第五十七條 看守押丁志願者ノ體格ヲ検査スヘシ

第五十八條 看守長ノ指揮ヲ受ケ女監ノ戒護其他婦女ノ取締ニ關スル一切ノ事務ニ從事スルモノトス

第五十九條 監守ノ職務第一條乃至第二十四條及第二十六條第二十七條ハ本職ニモ之ヲ適用ス

第六十條 病監ニ於テ治療中ノ未決患者ヲ看護スヘシ

第六十一條 作業器械及素品製品ノ受渡ヲ爲スヘシ

第六十二條 看守ノ助手トナリ新ニ入監スル者ノ身體衣服ヲ搜檢スヘシ入監後監房ヲ出入スルトキモ亦同シ

第六十三條 看守ノ指揮ヲ受ケ監外押發ノ在監人ニ戒具ヲ施シ又ハ控繩戒護ニ從事スヘシ

第六十四條 死刑者アルトキハ上官ノ指揮ヲ受ケ其執行方ニ従事スヘシ

第十九章 第一章 看守監獄備人

第六十五條 看守ノ助手トナリ監房ノ検査ヲ爲スヘシ

第六十六條 看守ノ指揮ヲ受ケ監門及監房戸扉ノ開閉ヲ爲スヘシ

第六十七條 看守ノ立會ヒヨ受ケ食物ノ配與、獄衣其他給與品及差入品ノ受渡ヲ爲スヘシ

第六十八條 上官ノ指揮ヲ受ケ病監ニ於テ治療中ノ未決患者ヲ看護スヘシ

第六十九條 上官ノ指揮ヲ受ケ刑死者及死亡者ノ死體取片付方ニ從事スヘシ

第七十條 看守ノ立會ヒヨ受ケ作業器械及素品製品ノ受渡ヲ爲スヘシ

第七十一條 工場内其他ニアル諸器具其他ノ物件ヲ排列シ看守ノ點檢ニ供スヘシ

第七十二條 獄具及消防具等ヲ看守シ毀損紛亂セサル様注意スヘシ

第七十三條 在監人ノ頭髮身體衣服ニ注目シ若シ垢染破損セシ等ノモノアルトキハ直ニ看守ニ申告スヘシ

第七十四條 獄則違犯者又ハ應禁物藏匿等アルト認知シタルトキハ直ニ看守ニ申告スヘシ

第七十五條 監内ニ異狀アルトキハ直ニ之ヲ上官ニ申告スヘシ在監人ヨリ密告ヲ得タルトキモ亦同シ

キモ亦同シ

第七十六條 在監人ノ行狀ノ良否ヲ認知シタルキハ之ヲ手帖ニ記シ置キ看守ニ申告スヘシ

第七十七條 炊場、浴場等ニ於テハ火災ノ虞ナキ様注意スヘシ

第六章 授業手ノ職務

第七十八條 工業掛員ノ指揮ヲ受ケ農業工業等ヲ教授スヘシ

第七十九條 受業囚ヲ督勵シ科程ノ了否ヲ注視スヘシ

第八十條 授業上ニ要スル器械雜具ヲ整理シ取扱上及保存方ニ注意スヘシ

第八十一條 役業ノ科程及工錢料定上ニ付テハ意見ヲ工業掛ニ開申スヘシ

第八十二條 役業ノ廢設及改良方ニ付意見アルトキハ之ヲ典獄ニ具申スヘシ

第八十三條 役業ヲ怠ルカ又ハ指導ニ從ハサルモノアルトキハ速ニ看守長ニ申告スヘシ

第八十四條 器具ノ新調及修繕ヲ要スルトキハ其買入又ハ修繕方ヲ工業掛ニ申立ツヘシ

第八十五條 毎月受業囚ノ勤怠及技藝ノ優劣進否等ヲ調査シ之ヲ看守長ニ具申スヘシ

○看守長看守ニ帶劍ヲ許ス十四年三月十八日 太政官達第十八號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

監獄看守長看守ニ爲取帶劍可爲致此旨相達候事

但劍制ハ適宜タルヘシ

○看守被服及帶劍給貸並保存期限十四年四月十五日 內務省達第十七號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

本年第十七號第十八號ヲ以テ看守被服及帶劍之儀御達相成候ニ付テハ被服ハ適宜保存期限ヲ定メ給與シ帶劍ハ貸與候儀下可相心得此旨相達候事

○監獄署押丁給與品ヲ定ム十四年三月三十日 內務省達第十七號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

集治監監獄署押丁給與品左ノ通相定候條此旨相達候事

一笠 暖頂 晴雨 共用

一筒袖注被 色紺地 質木綿

一股引 同上

一雨衣 桐油 色黒

第十九類 第一章 看守監獄備人

一 簿籍
一 手帖
一 呼子笛

○集治監假留監典獄書記看守長獄醫旅費支給方ヲ定ム 二十年二月十八日 内務省訓令第十號 集治監假留監 集治監及假留監官制被定候ニ付テハ典獄即典獄書記看守長監獄醫ノ旅費ハ明治十九年六月閣令第十四號内國旅費規則ニ據リ官等相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

○集治監假留監看守人員及俸給ヲ定ム 二十三年十月十日 勅令第二百二十八號
朕集治監假留監看守人員及俸給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二百二十八號

集治監假留監看守ノ人員及俸給ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 看守ノ人員ハ在監人五百名ニ付七十五名トス
但三池集治監及北海道ニアル各集治監ニハ此定員ノ外五十名以下ノ看守ヲ増置スルコトヲ得
- 二 在監人五百名ヲ超ユルトキハ百名ヲ増ス毎ニ看守十名ヲ加ヘ五百名ニ滿タサルトキハ百名ヲ減スル毎ニ看守十名ヲ減ス
- 三 看守人員ノ増減ヲ行フハ在監人ノ員數ニ百名ノ差ヲ生シタルトキニ於テスヘシ

- 四 看守俸給ハ月俸拾圓以下六圓以上トス但勤績滿九年以上ノ者ハ拾貳圓滿十二年以上ノ者ハ拾五圓ヲ給スルコトヲ得
- 五 在監人ノ減少ニ由リ過員トナリタル看守ハ休職ヲ命シ現俸ノ三分一ヲ給スルコトヲ得但休職ハ一年ヲ期トス期滿ツレハ其職ヲ免ス

○府縣看守俸給ノ件 二十三年十月十日 勅令第二百二十九號

朕府縣看守俸給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

勅令第二百二十九號

勅令第二百二十八號集治監假留監看守人員及俸給ノ件中俸給及休職ニ關ル規定ハ府縣看守ニモ適用ス

- 看守押丁賞與方 上卷第四類第一二章ニ載ス
- 巡查看守精勤證書授與規則 上同
- 警部消防指令看守長等官等俸級改正 上同
- 巡查看守俸給支給規則 上同
- 巡查看守給助令 上同
- 巡查看守給助條例施行前二年以上在職者退職ノ時慰勞金支給方 上同
- 巡查看守給助例第二條第一項勤績制註心得方 上同

第十九類 第一章 看守監獄備人

- 巡查看守給例助施行期限(上同)
- 巡查看守給助例中年金支給方(上同)
- 警察官吏司獄官吏内國旅費概則(上同)
- 警察官吏等官船へ乗込出張ノ節食卓料支給方(上同)

第二章 囚人

○囚人護送手續

十五年二月一日
大政官達第十號内
稍省開拓使警視廳府縣(東京府ヲ除ク)

明治六年^{十一月}第三百九十一號並同十年^{七月}第四十九號ヲ以テ囚人護送規則及ヒ遞傳方相達置候處今般更ニ別冊ノ通囚人護送遞傳方改正シ本年七月一日ヨリ施行候條從前達中矛盾ノ麻ハ同日限り廢止ス此旨相達候事

(別冊)

囚人護送手續

第一條 甲廳ヨリ乙廳又ハ集治監へ送移スル囚人ハ囚籍及ヒ處刑宣告書所持ノ物品ヲ併セ沿道警察本分署ニ於テ遞傳護送スヘシ

但一府縣管内本支監獄ノ間ニ護送スル囚人モ其距離拾里以外ニ至ルモノハ本文ニ準スルヲ得

第二條 新タニ就捕セシ犯罪人及ヒ諸令狀ニ據リ引致スル刑事被告人又ハ脫走ノ軍人軍屬ノ遞傳護送ヲ要スル者モ前條ノ手續ニ準スヘシ

但入監後糾問等ノ爲メ所在ノ法衙ニ往復スルハ本條ノ限ニ在ラス

第三條 第一條第二條ノ護送ニ付スル囚人ノ員數及ヒ發出日時ハ其當該官吏ヨリ前以テ沿道警察本分署へ遞報スヘシ

第四條 護送囚人ノ數ハ一行拾名以下トス護送警吏及ヒ繩取ノ人員ハ適宜タルヘシ

第十九類 第二章 囚人

但便利海路ニ依ルトキハ適宜四人ヲ増加スルヲ得

第五條 遞傳護送ハ日出ヨリ日没マテヲ限トス

第六條 警察本分署ニ於テハ護送囚人ノ郷貫氏名刑名又ハ犯罪見込書ノ要領及著發日時ヲ記載シ置クヘシ

第七條 護送ノ囚人ハ沿道警察本分署ニ宿セシムヘシ若シ支障アルトキハ該地戸長ニ照會シ宿所ヲ定メ適宜取締ヲナスヘシ

第八條 護送途中囚人病發スルトキハ沿道警察本分署ニ付シ治療スヘシ若シ死去スルトキハ該地戸長ニ埋葬ヲ囑シ引取人アル者醫師ニ死去證書ヲ作ラシメ戸長及ヒ護送警吏連印シ書類物品ヲ併セ送達スヘキ符署ニ遞付シ仍ホ發出符署ニ報知スヘシ

第九條 護送途中囚人逃亡スルトキハ先ツ緝捕方ヲ最寄警察本分署ニ報告シ仍ホ發出符署及ヒ達スヘキ符署ヘ報告スヘシ

但第八條及ヒ本文ノ手續ヲ爲スヌ他囚護送ヲ遲緩ス可ラス若シ速ニ手續ヲ了シ難キ場合ハ最寄警察本分署ノ助力ヲ請フコトヲ得

第十條 遞傳護送スル警察官吏ノ旅費ハ都テ沿道地方ノ警察費ヲ以テ支辨スヘシ

但細取ノ雇給ハ第十一條第十二條ノ區別ニ依リ囚人ニ屬スル費用中ニテ支辨スヘシ

第十一條 第一條ニ掲グル囚徒ニ屬スル護送中ノ費用ハ明治十四年第十七號布告ニ依リ區分シ集治監ニ送ルトキハ沿道府縣ノ仕拂ニ立テ其他ハ出發府縣ノ監獄費ヨリ支拂フヘシ

第十二條 第二條ニ掲タル各犯人ニ屬スル護送中ノ費用ハ沿道地方警察費ヲ以テ支辨スヘシ

第十三條 護送囚人死没シ引取人ナキモ其所持金錢物品埋葬費ニ足ルモノアル者及陸軍隊付下士卒海軍下士卒ノ埋葬費ハ第十一條第十二條支辨ノ限ニアラス尤其費額ハ都テ拾圓以内タルヘシ

但下士卒ノ分ハ追テ陸軍省海軍省ヨリ各自ニ拂戻スヘシ(十五年第六十八號公達ヲ以テ全條改正)

第十四條 遞傳ニ係ル囚人犯罪人ノ賄費額ハ警察本分署ニ於テハ都テ拘留人ノ例ニ依ルヘシ他ニ宿泊セシムルトキハ一宿二賄臥具點燈手数料ヲ併セテ金貳拾五錢以下一晝食金七錢以下藥價診察料等ハ實費支辨スヘシ

○集治監ニ入ルヘキ囚徒並ニ其費用區分方ヲ定ム十四年三月八日布告第十七號

集治監ニ入ルヘキ囚徒並ニ其費用ノ區分當分ノ内左ノ通相定メ本年七月ヨリ施行候條此旨布告候事

第一條 集治監ニ入ルヘキ囚徒ハ刑期終身ノ者及ヒ國事犯罪刑期五年以上ノ者トス其費用府縣獄ニ拘留中ノ費用并ニ集治監ニ押送ノ費用トモハ國庫ヨリ支給スヘシ(地方稅規則第三條十八十九項參看)

第二條 府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ノ費用ハ其刑ヲ宣告セシ地方ノ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

○已決囚ニ係ル經費區分實地取計方十四年七月二十一日內務大概兩省達シ第三十四號警視廳府縣沖繩廳ヲ除ク

集治監

本年第十七號公布ヲ以テ已決囚ニ係ル經費區分等被定候ニ付テハ實地取計方左ノ通可心得此旨相達候事
一 豫算ヲ以テ受入レタル監獄費中國庫金ト地方稅トハ混一シテ諸費(懲役人ノ諸費)ヲ仕附置每一ヶ月囚員ノ延數ニ照シ平均ヲ以テ一囚若干ノ費金タルヲ算出シ而シテ刑期終身ノ者ト國庫犯五年以上ノ者ノ延人員ニ乘シタル金額ヲ以テ國庫費ノ支出ニ可取計事

但臨時加給療養費理郵費官賃費移轉費ノ如キ惣囚ニ關ラサル費項ハ其囚員限リノ平均ヲ以テ算出スヘシ
一 府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ハ經費モ前項ノ例ニ依リ地方稅支出方可取計事

○集治監ニ入ルヘキ囚徒ノ費用管理方 十四年九月一日 內務省達シ第四十一號警視廳府縣(東京府ヲ除ク)
本年第十七號布告ニ係ル費用ハ當省ニ於テ管理候條該布告第一條國庫下附金ハ當省ヨリ可下渡候ニ付以後豫算帳及ヒ決算帳等渾テ當省ヘ可差出第二條地方稅受拂方ハ集治監ニ於テ直ニ爲取扱候條此旨相達候事

○在府縣獄囚徒費小科目流用方 十五年十月十四日 內務省達シ第五十二號警視廳府縣(東京府北海道三縣沖繩縣ヲ除ク)
在府縣獄囚徒費小科目(獄署費已決囚) 彼此流用支辨セントスルトキハ當省ヘ伺出候條下可相心得此旨相達候事
但本件伺出候節ハ金員任譯書添付スヘシ

○監獄不用品賣拂代金看守罰俸等國庫地方稅收入區分方 十六年九月二十七日 內務省達シ第三十八號集治監(樺戶空知三池)ノ三監ヲ除ク)府縣(東京府及沖繩函館札幌根室)ノ四縣ヲ除ク)
國庫下付金及地方稅受ケスレ金ヲ以混一ノ上罪囚ノ刑期ニ區分シ十四年內務大藏兩省達シ第三十四號計算法ニ照據購入セシ監房常置ノ器具ヲ始メ戒具雜具等不用品賣拂代金及看守罰俸金等納入方ノ借國庫地方ノ區分計算ニ據ラス十五年度以降集治監ニ生セシモノハ總テ國庫ヘ收入シ警視廳及府縣ニ生セシモノハ地方稅ヘ收入セシメ候條此旨相達候事

○在府縣獄囚徒費取扱方 十七年六月十二日 內務省達シ第貳拾九號警視廳府縣沖繩縣北海道三縣ヲ除ク)

在府縣獄囚徒費取扱方左ノ通改定候條十七年度ヨリ施行スヘシ此旨相達候事

但十四年七月內務大藏兩省シ第三十四號同年九月シ第四拾貳號十五年十月シ第五拾三號之達ハ十六年度限リ廢止ス
一 集治監ニ入ルヘキ囚徒ニシテ府縣獄ニ在ル者檢束衣食一切決囚諸費管轄費(從前ノ獄署費已)費用トシテ一囚一日ニ付金貳拾錢ヲ交付スヘシ

但朝夕出入アルモ各一日ヲ以テ計算スヘシ
一 十四年十月シ第五十三號達之内現員表ハ差出ニ不及前々年度中宣告滿人員ニヨリ左ノ科目表ニ照據豫算帳調整定期ノ通差出スヘシ
但十七年度分ハ差出スニ及ハス

(科目表略之)

○輕罪控訴被告人ニ係ル拘禁中ノ諸費支辨方 二十三年十月三十一日 內務省令第五號

重罪輕罪ノ公訴ノ判決ニ對シ控訴アリタル場合又ハ上告ニ由リ他ノ裁判所ニ移スノ言渡アリタル場合ニ於テ被告人拘禁中ノ費用尙ニ裁判確定ノ後囚人ニ係ル費用ハ總テ最前裁判官渡アリタル地方ノ監獄費ヲ以テ支辨シ其費額ハ一人一日金二十錢トス
但裁判確定後ノ囚人ハ汽車又ハ汽船ニ依リ最モ押送ニ便ナル地方ニ在テハ原地方廳ノ請求ニ依リ送還スルコトヲ得此場合ニ於テハ護送官吏ノ旅費及囚人ニ屬スル費用ハ請求地方ノ負擔トス

○陸海軍軍法會議ニ於テ處斷ヲ受ケタル囚徒ノ費用支辨方 十九年一月二十九日 內務省達甲第一號警視廳府縣

陸海軍軍法會議ニ於テ輕重懲役及ヒ剝官ヲ附加シタル禁錮ノ刑若クハ普通刑法ニ依リ懲役禁錮ノ處斷ヲ受ケ官職ヲ失ヒ軍籍ヲ除カレタル囚徒ニ係ル費用ハ來ル二十年以後軍法會議所在地ノ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ
但從前陸海軍軍法會議ニテ處斷セラレタル囚徒ニ係ル費用ハ明治十四年三月第十七號公布ニ依リ區分シ陸海軍刑法ニテ徒刑流刑禁獄ノ刑ニ處セラレタル費徒ニ係ル費用ハ國庫費ヨリ支辨スヘキ儀ト心得ヘシ

右相送ス

千百四十四

○在府縣獄囚徒費用交付金地方稅編入方二十一年九月二十九日
內務省訓令第十九號警視廳府縣沖繩縣ヲ除ク
明治十七年本省レ第二十九號達ニ據リ集治區ニ入ルヘキ囚徒ニシテ府縣獄ニ在ル者ノ費用トシテ交付スル金額ハ府縣會
ノ議決ヲ經テ地方稅ノ收入支出ニ編入スルコトヲ得

●沿革要領

明治六年十一月第三百九十一號達ヲ以テ囚人護送規則ヲ定ム○八年五月第七十八號達ヲ以テ囚人護送途中賄料草鞋
錢等官費支給セシム○十年七月第四十九號達ヲ以テ脫走ノ軍人軍屬其他ノ囚徒自今治道警察署ニ於テ護送セシ
ム○十五年二月第拾號達ヲ以テ囚人護送手續ヲ定メ其護傳方ヲ改正シ從前ノ違中矛盾スルモノハ廢止トス

5/10/34

本日規則全書下卷終

明治二十四年五月十五日印刷出版
明治二十四年十月三十日增補再版
明治廿七年一月卅日增補三版印刷
同年二月五日發行

定價金七十錢



編輯并印刷
兼發行者

兵庫縣士族

長尾景彌

東京市京橋區銀
座四丁目一番地

東京銀座四丁目一番地

發行所

博聞社

各 地 方 販 賣 所

東京市神田表神保町八尾書店	東京市神田南神保町博弘堂	東京市神田一ツ橋通有嬰閣	東京市神田表神保町明法堂	東京市神田小川町牧野書房	東京日本橋通一丁目大倉書店	同通通三丁目九善株式會社書店	東京京橋區竹川町共益商社	大阪市備後町吉岡平助	京都市東洞院村上勘兵衛	京都市寺町通田中治兵衛	京都市河原町大黒屋書舖	京都市佛光寺通東枝吉兵衛	兵庫縣神戸市熊谷久榮堂	兵庫縣龍野橫山書店	神奈川縣橫濱市丸善書店	函館市米廣町魁文社	札幌市前野長發	群馬縣前橋町熈乎堂	長野縣長野西澤喜太郎
---------------	--------------	--------------	--------------	--------------	---------------	----------------	--------------	------------	-------------	-------------	-------------	--------------	-------------	-----------	-------------	-----------	---------	-----------	------------

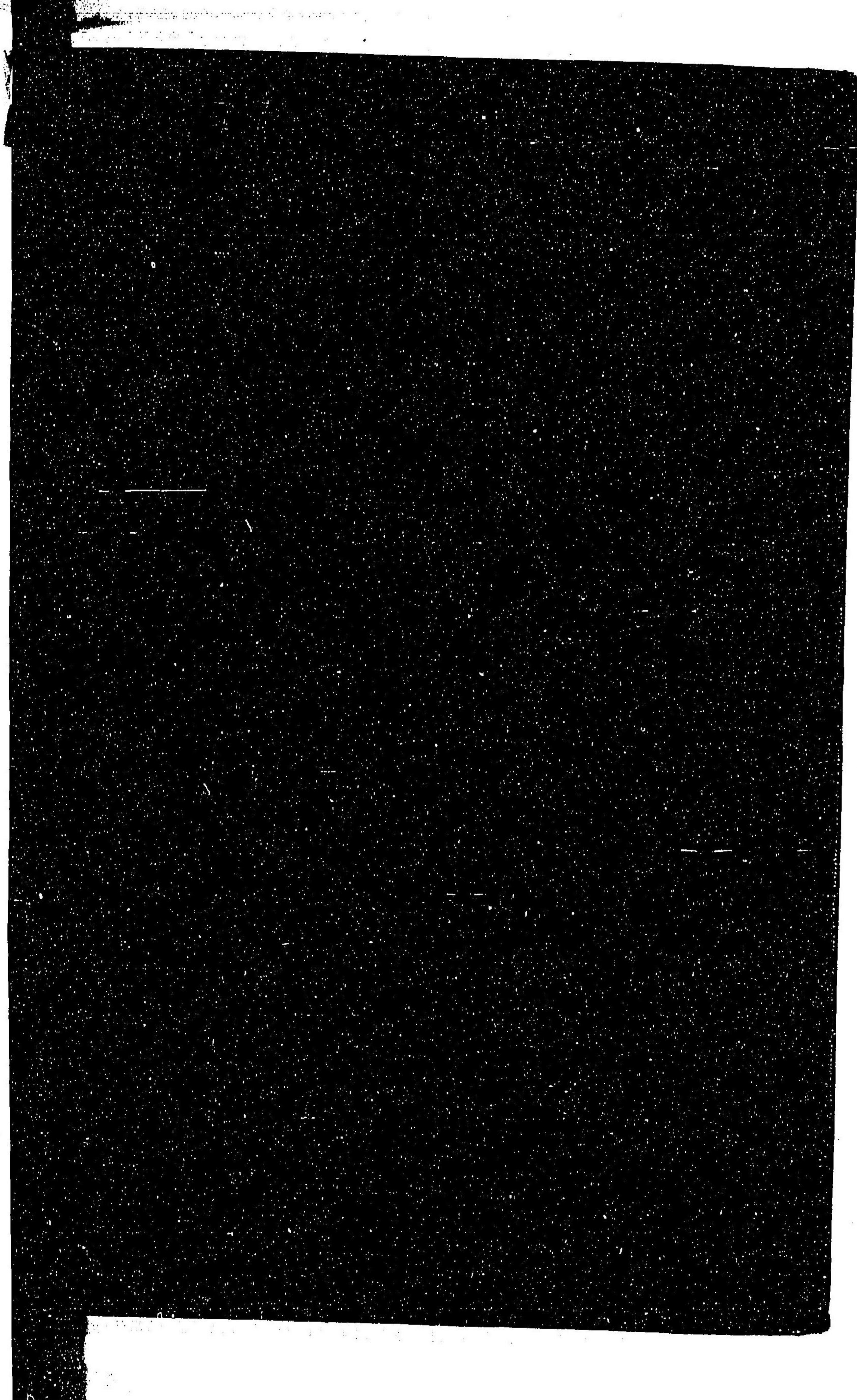
各 地 方 販 賣 所

茨城縣水戸市川又銀藏	栃木縣宇都宮內山港三郎	千葉縣千葉町積成會	宮城縣仙臺市木村文助	陸中國盛岡市東北堂	青森縣青森録田商店	山形縣鶴岡小池藤次郎	秋田市大町本間金之助	新潟縣長岡目黒本店	新潟縣水原町西村六平	富山縣富山中田書店	富山縣富山大橋甚吾	富山縣富山滑明堂	富山縣富山守川吉兵衛	福井縣福井岡崎左督助	靜岡縣靜岡市廣瀬市藏	愛知縣名古屋川瀬代助	三重縣津市河島九右衛門	岐阜縣岐阜市三浦源助	岐阜縣岐阜市岡部利三郎
------------	-------------	-----------	------------	-----------	-----------	------------	------------	-----------	------------	-----------	-----------	----------	------------	------------	------------	------------	-------------	------------	-------------

各 地 方 販 賣 所

岐阜縣高山升屋重兵衛	和歌山縣和歌山岩橋廣三郎	滋賀縣大津市澤一二郎	奈良縣奈良坂田一郎	廣島縣廣島市早速社	岡山縣岡山市森前社	岡山縣岡山市細藤社	島根縣松江市岡山三右衛門	德島縣德島坂井茂吉	德島縣洲本福浦文藏	愛媛縣松山土肥與平	愛媛縣松山向井藏二郎	香川縣高松宮脇仲次郎	高知縣高知市澤本駒吉	熊本縣熊本市長崎次郎	熊本縣柳川一草堂	鹿兒島縣鹿兒島吉田幸兵衛	大分縣大分山川正三郎	佐賀縣佐賀市河內壯介	福岡縣中津市森岡書店	長崎縣長崎市鷗野五郎
------------	--------------	------------	-----------	-----------	-----------	-----------	--------------	-----------	-----------	-----------	------------	------------	------------	------------	----------	--------------	------------	------------	------------	------------

45
2
4



45

4

禁電子式複写

031073-007-2

CZ-5-023

日本規則全書

長尾 景弼 / 編

M24-27

BBC-0684

